

黒板作成・連携ツール 操作マニュアル

黒板作成・連携ツールでの各種設定や機能、その操作方法について説明します。

目次

1. 工事管理

1-1	初期設定画面の説明	1章_1
1-2	工事管理画面の説明	1章_2
1-3	新しい工事データを作成する	1章_3
1-4	工事データを開く	1章_4
1-5	工事データを複製する	1章_6
1-6	工事情報を編集する	1章_7
1-7	工事データを削除する	1章_9
1-8	工事データをバックアップする	1章_10
1-9	工事データを復元する	1章_12
1-10	ヘルプを確認する	1章_14
1-11	バージョン情報を確認する	1章_15
1-12	使用するプロテクトの形式を選択する	1章_16
1-13	アプリケーションを終了する	1章_18

2. 黒板作成・連携

2-1	メイン画面の説明	2章_1
2-2	工事選択画面を開く	2章_2
2-3	工事情報を編集する	2章_3
2-4	データを保存する	2章_4
2-5	元に戻す	2章_5
2-6	やり直し	2章_6
2-7	黒板を追加する	2章_7
2-8	黒板を編集する	2章_9
2-9	黒板を複写する	2章_11
2-10	黒板の情報を一括訂正する	2章_12
2-11	黒板のレイアウトを変更する	2章_17
2-12	黒板を削除する	2章_20
2-13	黒板を「どこでも写真管理Plus」に転送する	2章_21

2-14	黒板を「RICOH G900」に転送する	2章_35
2-15	レイアウトを作成する	2章_39
2-16	黒板作成・連携ツールの設定を行う	2章_40
2-17	黒板の情報を設定する	2章_43
2-18	メイン画面を終了する	2章_51
2-19	ヘルプを確認する	2章_52
2-20	バージョン情報を確認する	2章_53
2-21	使用するプロテクトの形式を選択する	2章_54

3. 黒板レイアウト作成

3-1	黒板レイアウト作成画面の説明	3章_1
3-2	黒板レイアウトを新規作成する	3章_3
3-3	黒板レイアウトを編集する	3章_4
3-4	黒板レイアウトを複製する	3章_5
3-5	黒板レイアウトの名前を変更する	3章_6
3-6	黒板レイアウトを削除する	3章_7
3-7	黒板レイアウトをエクスポートする	3章_8
3-8	黒板レイアウトをインポートする	3章_10
3-9	黒板レイアウト作成画面を終了する	3章_12

4. 黒板レイアウト編集

4-1	黒板レイアウト編集画面の説明	4章_1
4-2	黒板レイアウトを新規作成する	4章_2
4-3	黒板レイアウトを開く	4章_3
4-4	黒板レイアウトを保存する	4章_4
4-5	元に戻る	4章_5
4-6	やり直し	4章_6
4-7	グリッドの設定を行う	4章_7
4-8	セルを追加する	4章_8
4-9	罫線を追加する	4章_9
4-10	セル、罫線を削除する	4章_10
4-11	セルのプロパティを設定する	4章_11
4-12	黒板の色、表示を設定する	4章_14
4-13	セルの幅、高さを変更する	4章_15

4-14	複数セルの位置を揃える	4章_16
4-15	黒板レイアウト編集画面を終了する	4章_17
4-16	グリッド、サンプル文字列、ステータスバーの表示・非表示を切り替える	4章_18
4-17	ピックモードのオン・オフを切り替える	4章_19
4-18	サンプル文字列を設定する	4章_20
4-19	バージョン情報を確認する	4章_21
4-20	ヘルプを確認する	4章_22

5. EX-TREND武蔵 写真管理との連携

5-1	連携の概要	5章_1
5-2	黒板作成・連携ツールを起動する	5章_2
5-3	メイン画面の説明	5章_6
5-4	メイン画面を常に手前に表示する	5章_7
5-5	工事情報を編集する	5章_8
5-6	データを保存する	5章_9
5-7	黒板を追加する	5章_10
5-8	黒板を編集する	5章_16
5-9	黒板を複写する	5章_18
5-10	黒板の情報を一括訂正する	5章_19
5-11	黒板のレイアウトを変更する	5章_24
5-12	黒板を削除する	5章_27
5-13	黒板を「どこでも写真管理Plus」に転送する	5章_28
5-14	黒板を「RICOH G900」に転送する	5章_42
5-15	レイアウトを作成する	5章_46
5-16	黒板作成・連携ツールの設定を行う	5章_47
5-17	黒板の情報を設定する	5章_50
5-18	メイン画面を終了する	5章_57
5-19	ヘルプを確認する	5章_58
5-20	バージョン情報を確認する	5章_59
5-21	使用するプロテクトの形式を選択する	5章_60

1

工事管理

工事管理について解説します。

1-1 初期設定画面の説明

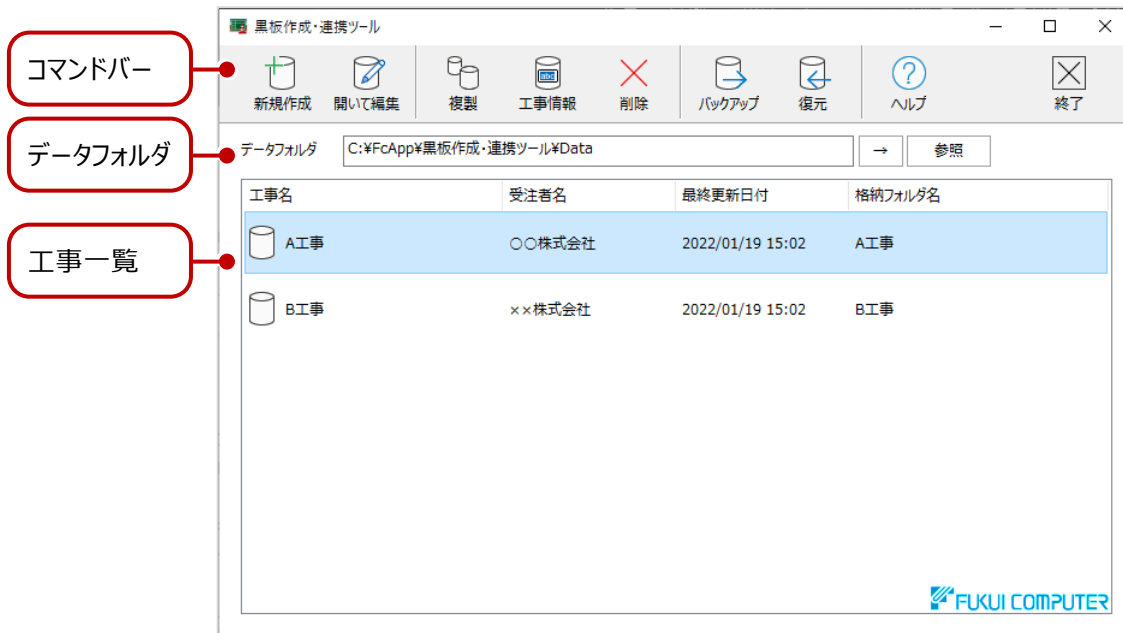
黒板作成・連携ツール初回起動時の初期設定画面について説明します。



項目	内容
利用業務	<p>【主に、測量・土木業務で利用】：主に、測量・土木業務で利用する場合に選択します。 各分類の項目名が土木表記になります。</p> <p>【主に、建築業務で利用】：主に、建築業務で利用する場合に選択します。 各分類の項目名が営繕表記になります。</p> <p>※設定を変更したい場合は、各工事データのメイン画面の【設定】で【営繕表記にする】のオン・オフを切り替えてください。</p>
利用する撮影アプリ・機器	<p>利用する撮影アプリ・機器を選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（左側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）を利用する場合に選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（右側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン ～1.0.1350）を利用する場合に選択します。</p> <p>【RICOH G900】：デジタルカメラ「RICOH G900」を利用する場合に選択します。</p> <p>※設定を変更したい場合は、各工事データのメイン画面の【設定】で【利用する撮影アプリ・機器】を選択してください。</p> <p>※ 【黒板タイプ】が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。</p>
作業開始	<p>初期設定を確定して、作業を開始します。 工事管理画面が起動します。</p>

1-2 工事管理画面の説明

工事管理画面について説明します。

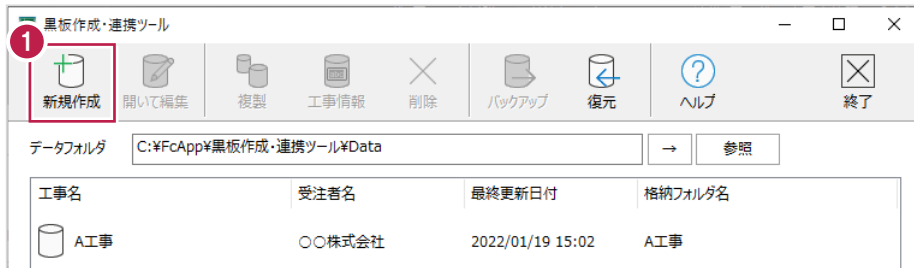


項目	内容
コマンドバー	工事管理で使用するコマンドが並んでいます。
データフォルダ	データの保存先を表示します。 [参照] で保存先を変更することもできます。 保存先を直接入力して指定することもできます。 ※直接入力して [→] を押すと、工事一覧が更新されます。
工事一覧	[データフォルダ] 内の工事データを表示します。

1-3 新しい工事データを作成する

新しい工事データを作成します。

1. [新規作成] をクリックします。

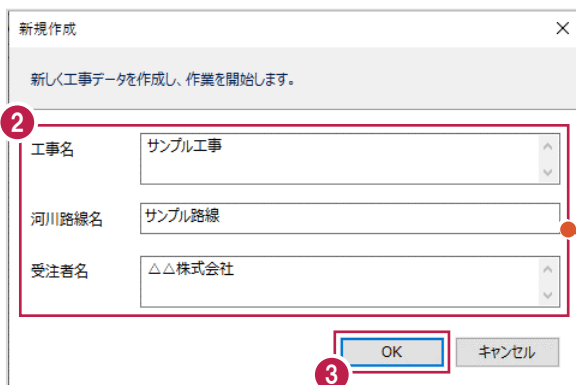


2. [工事名] [河川路線名] [受注者名] を入力します。

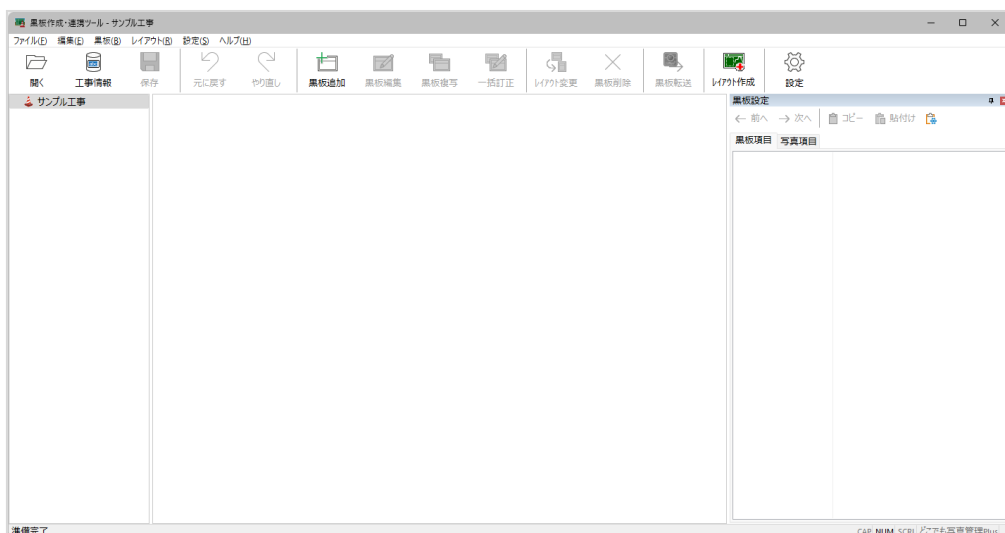
3. [OK] をクリックします。

メイン画面が開きます。

メイン画面の操作方法は「黒板作成・連携」の各ヘルプを参照してください。



各項目は黒板の「工事名」「河川路線名」「受注者名」に連動します。



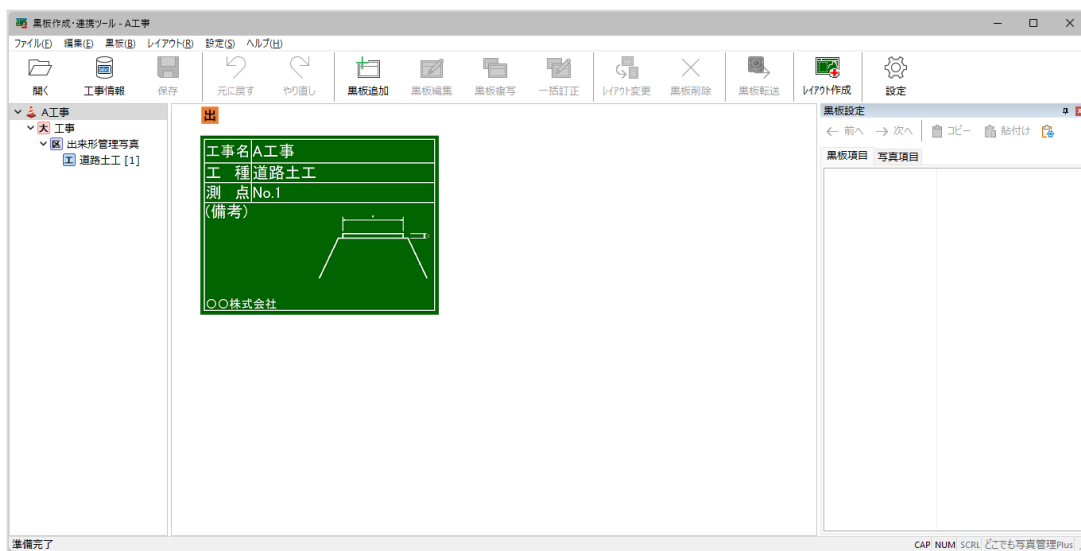
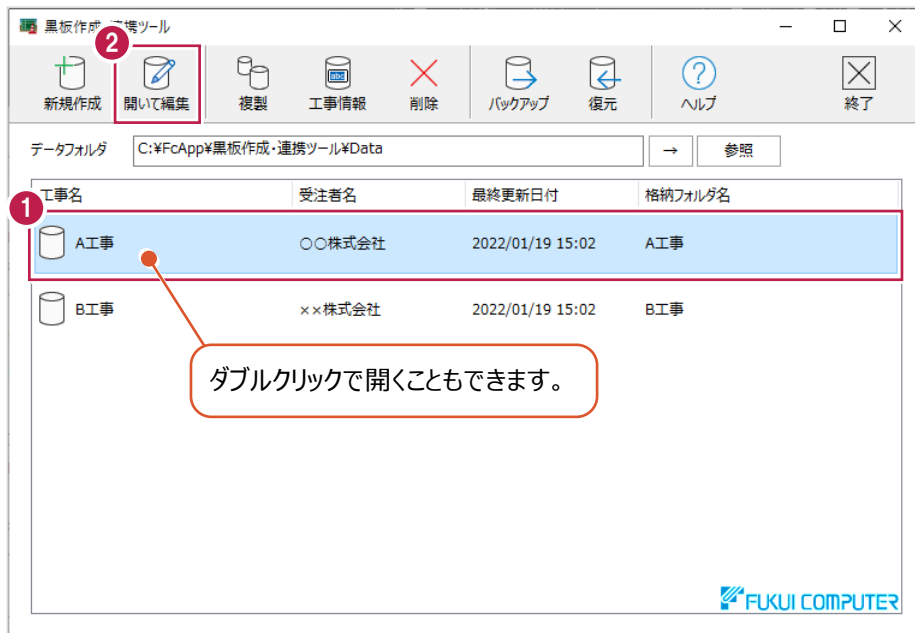
1-4 工事データを開く

工事データを開きます。

1. 工事データを選択します。
2. [開いて編集] をクリックします。

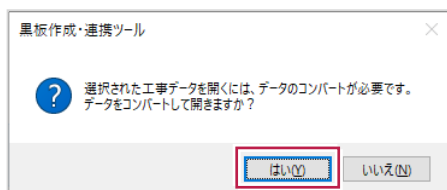
メイン画面が開きます。

メイン画面の操作方法は「黒板作成・連携」の各ヘルプを参照してください。



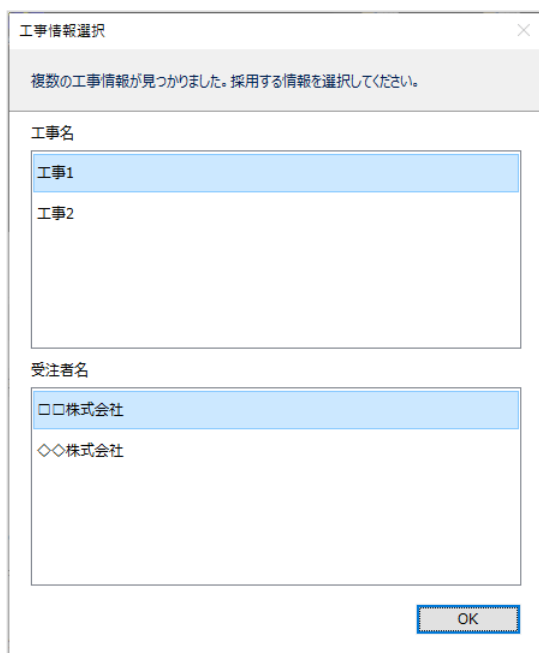
黑板作成・連携ツール Ver.1 で作成したデータを開く場合

黑板作成・連携ツール Ver.1で作成したデータを開く場合は、データのコンバートが必要です。
 工事データを開く際に表示される確認メッセージで [はい] をクリックしてください。



黑板ごとに異なる工事名・受注者名（会社名）が登録されている場合は、工事情報選択ダイアログが表示されます。
 採用する工事名・受注者名を選択して [OK] をクリックしてください。

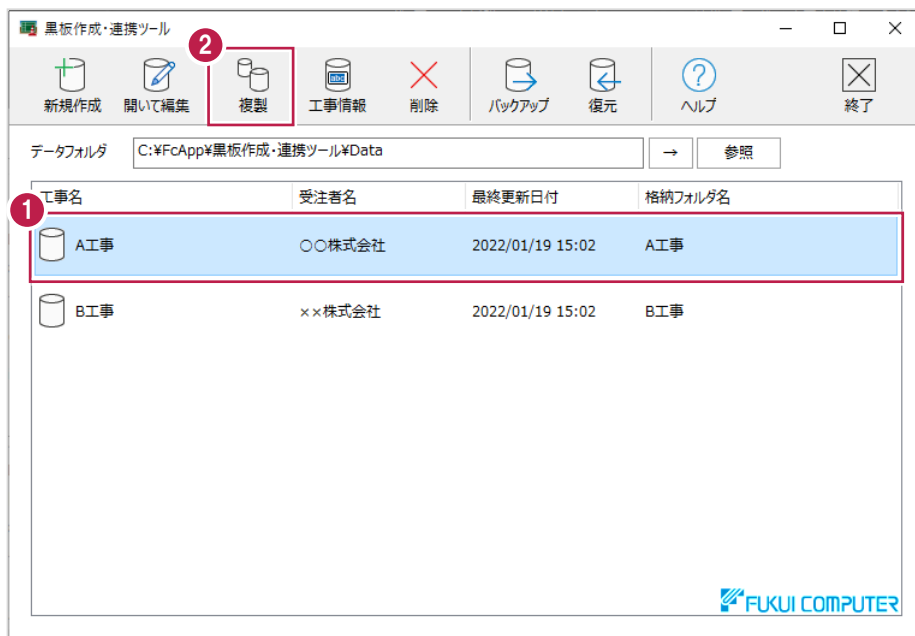
（黑板作成・連携ツール Ver.2以降では、工事データに登録できる工事名・受注者名は1つのみです。）



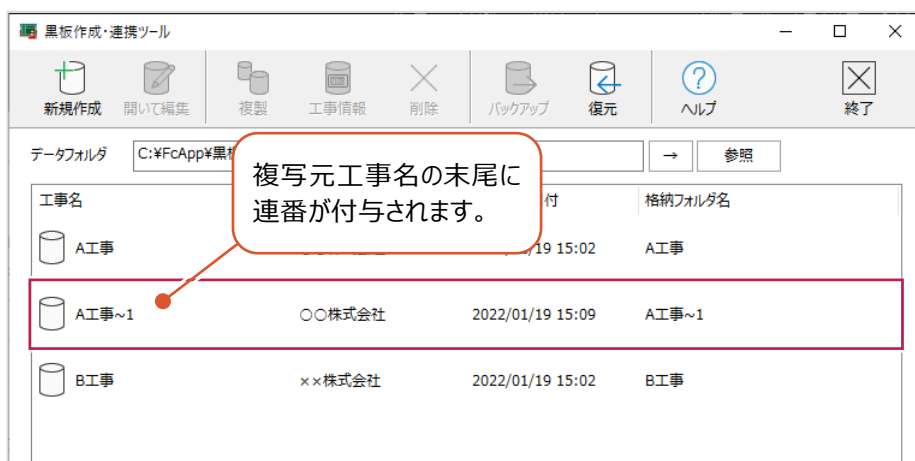
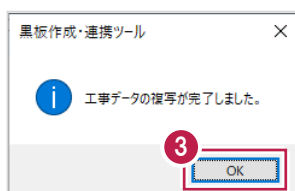
1-5 工事データを複製する

工事データを複製します。

1. 工事データを選択します。
2. [複製] をクリックします。



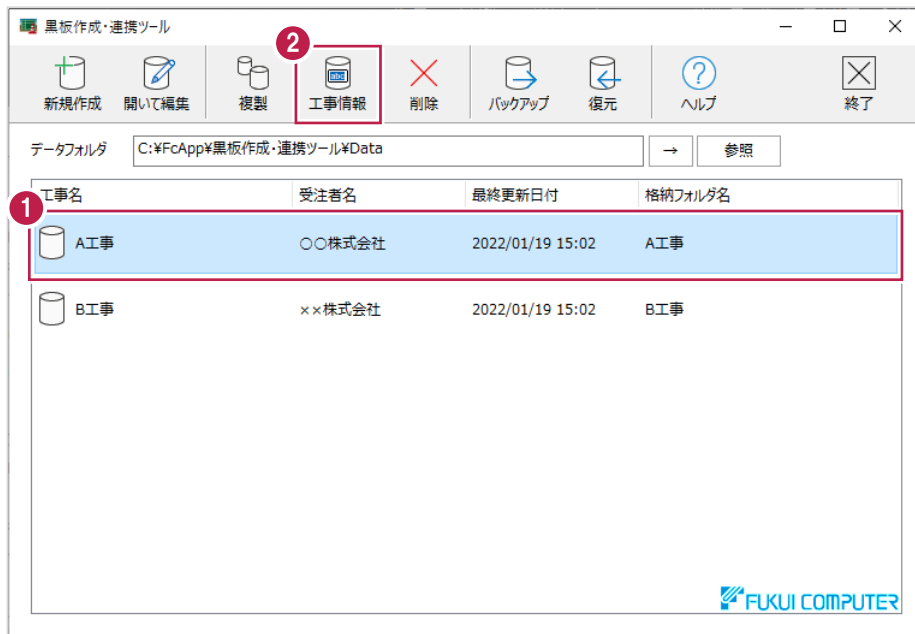
3. [OK] をクリックします。
工事データが複製されます。



1-6 工事情報を編集する

工事情報を編集します。

1. 工事データを選択します。
2. [工事情報] をクリックします。



3. [工事名] [河川路線名] [受注者名] を入力します。
4. [OK] をクリックします。



各項目は黒板の「工事名」「河川路線名」「受注者名」に連動します。

連携データの場合

EX-TREND武蔵 写真管理と連携している工事データの場合、[写真管理と連携（チェックを外すと解除されます）] チェックボックスが表示されます。

連携を解除する場合はオフにしてください。

※連携解除後は、チェックボックスが非表示になります。

連携し直す場合は、写真管理から再度連携を行ってください。

工事情報
×

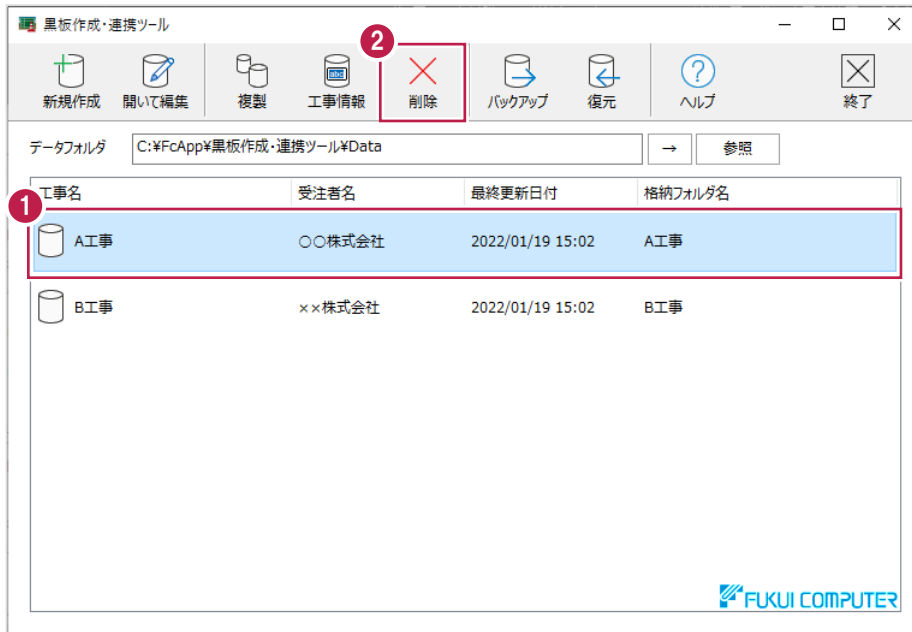
工事情報を変更します。

工事名	<input style="width: 95%;" type="text" value="サンプル工事"/>
河川路線名	<input style="width: 95%;" type="text" value="サンプル路線"/>
受注者名	<input style="width: 95%;" type="text" value="△△株式会社"/>
<input type="checkbox"/> 写真管理と連携（チェックを外すと解除されます）	

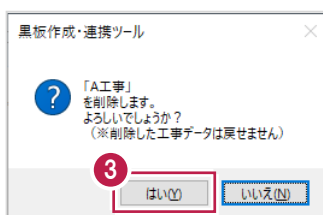
1-7 工事データを削除する

工事データを削除します。

1. 工事データを選択します。
2. [削除] をクリックします。



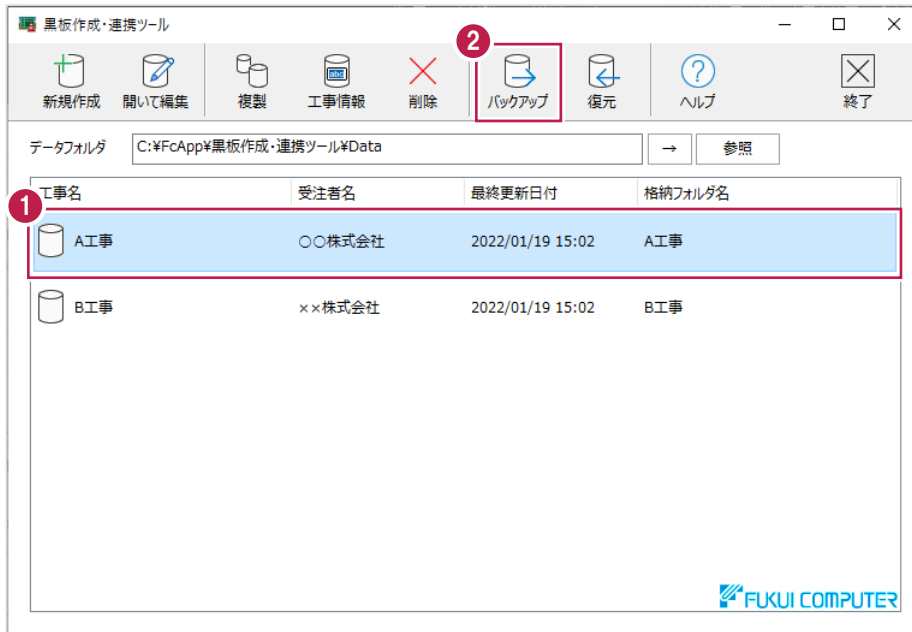
3. [はい] をクリックします。
工事データが削除されます。



1-8 工事データをバックアップする

工事データをバックアップします。

1. 工事データを選択します。
2. [バックアップ] をクリックします。

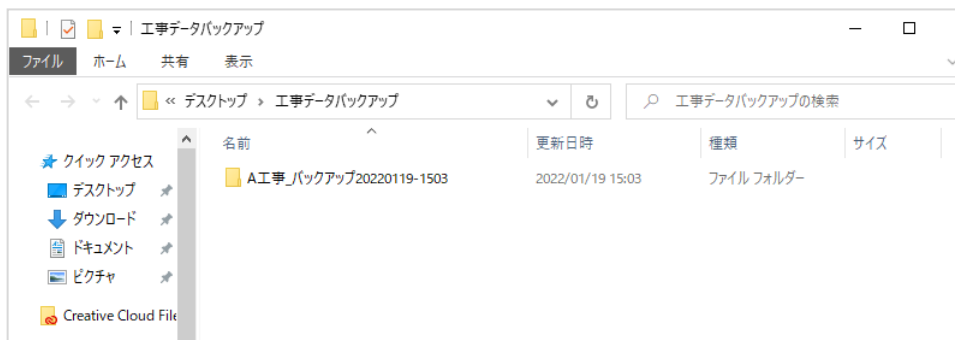
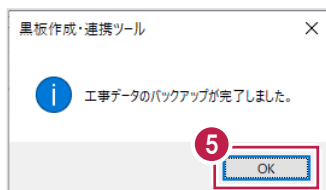


3. データを保存するフォルダーを選択します。
4. [フォルダーの選択] をクリックします。



5. [OK] をクリックします。

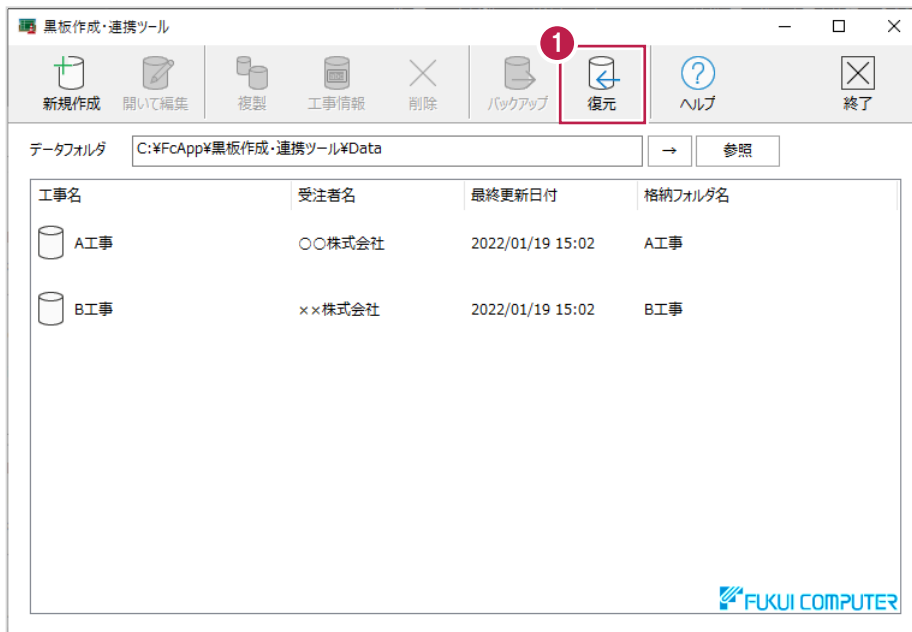
指定したフォルダーが開き、バックアップデータが確認できます。



1-9 工事データを復元する

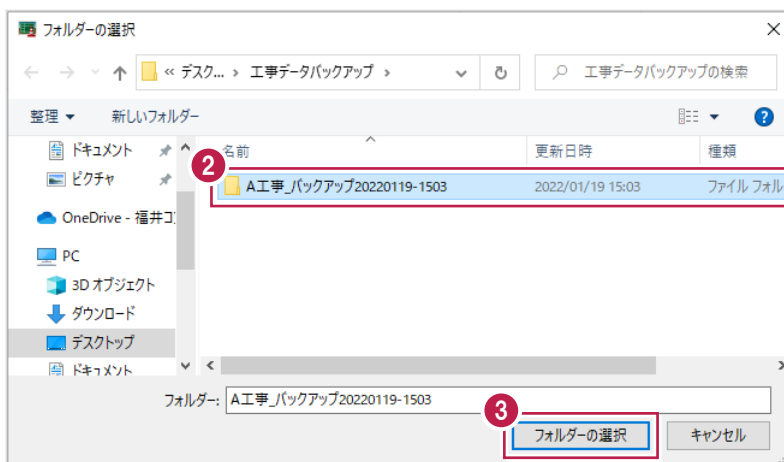
工事データを復元します。

1. [復元] をクリックします。

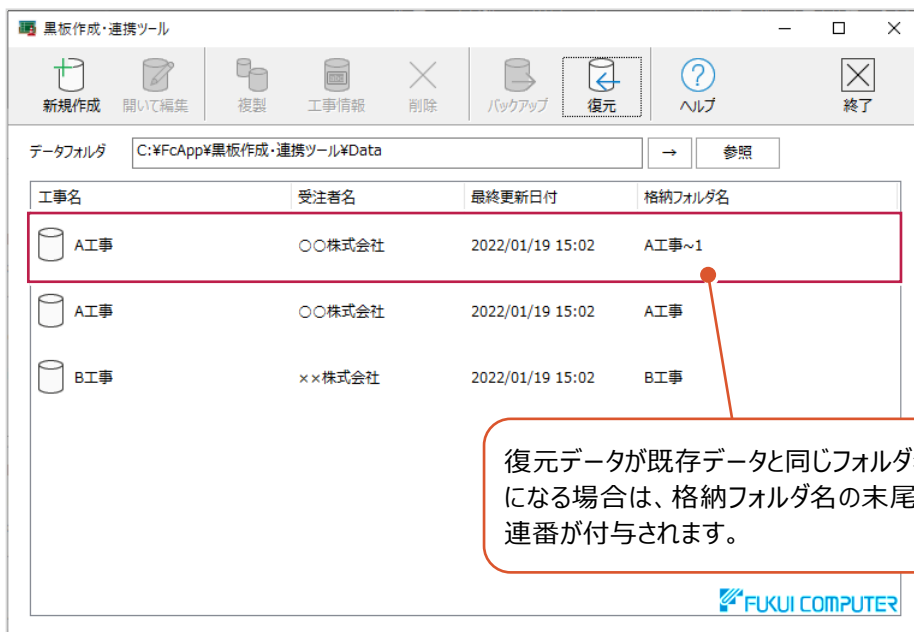
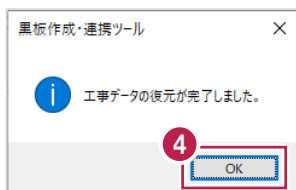


2. バックアップデータが格納されているフォルダーを選択します。

3. [フォルダーの選択] をクリックします。



4. [OK] をクリックします。
工事データが復元されます。



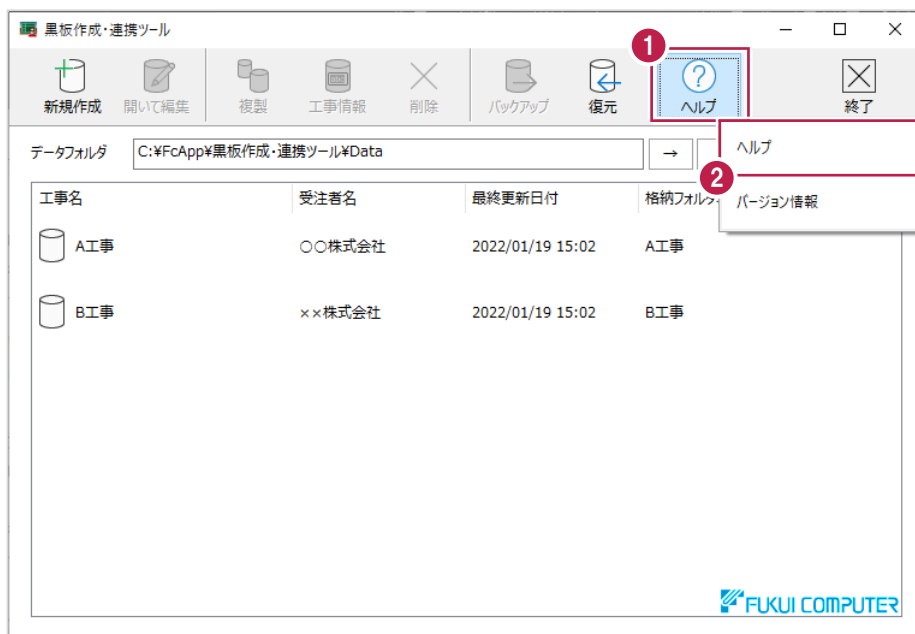
1-10 ヘルプを確認する

ヘルプを確認します。

1. [ヘルプ] をクリックします。

2. [ヘルプ] をクリックします。

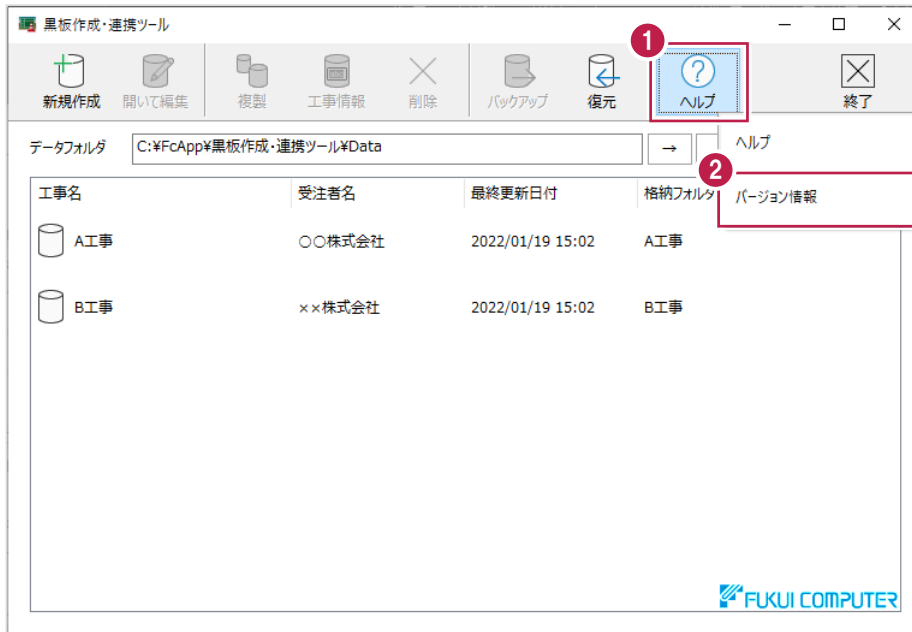
ヘルプが表示されます。



1-11 バージョン情報を確認する

バージョン情報を確認します。

1. [ヘルプ] をクリックします。
2. [バージョン情報] をクリックします。



3. アプリケーションの改訂番号(バージョン)やユーザーIDを確認します。
4. [OK] をクリックします。



1-12 使用するプロテクトの形式を選択する

黒板作成・連携ツールを使用するのに必要なプロテクトの形式を選択します。

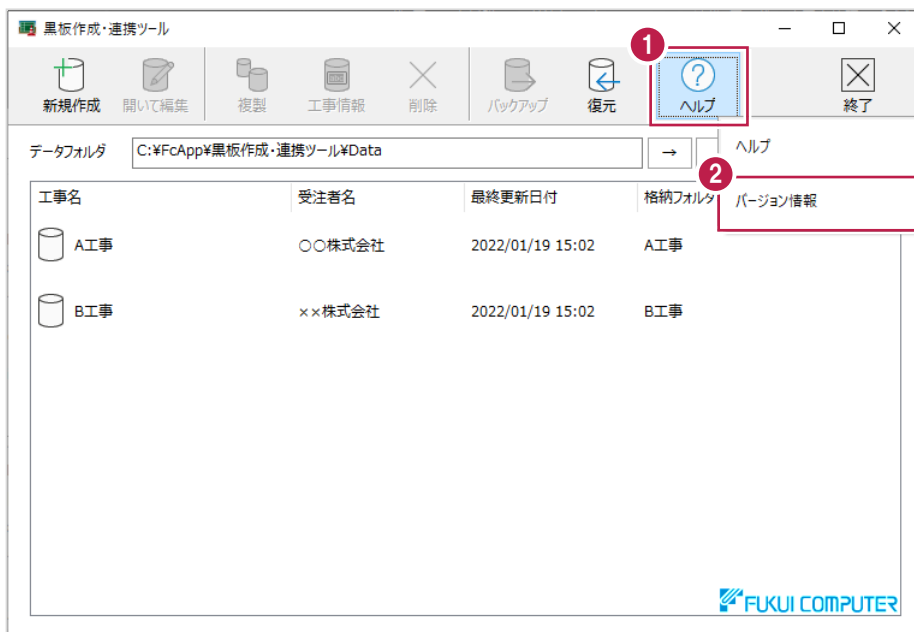
プロテクトを接続している部分と設定が合わない場合、アプリケーションが正常に動作しません。

黒板作成・連携ツールを起動したとき、設定した接続先にプロテクトがない場合は、プロテクト設定ダイアログが表示されます。

この操作は、黒板作成・連携ツールの起動中にプロテクトを変更するときの解説です。

プロテクト設定を変更した場合は、アプリケーションの再起動が必要です。

1. [ヘルプ] をクリックします。
2. [バージョン情報] をクリックします。



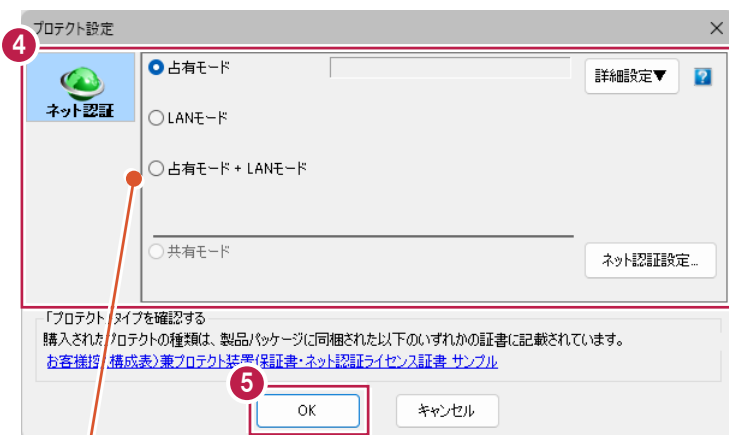
3. [ターゲット設定] をクリックします。



4. 使用するプロテクトの形式を選択します。

5. [OK] をクリックします。

※設定はアプリケーションの再起動後に有効になります。



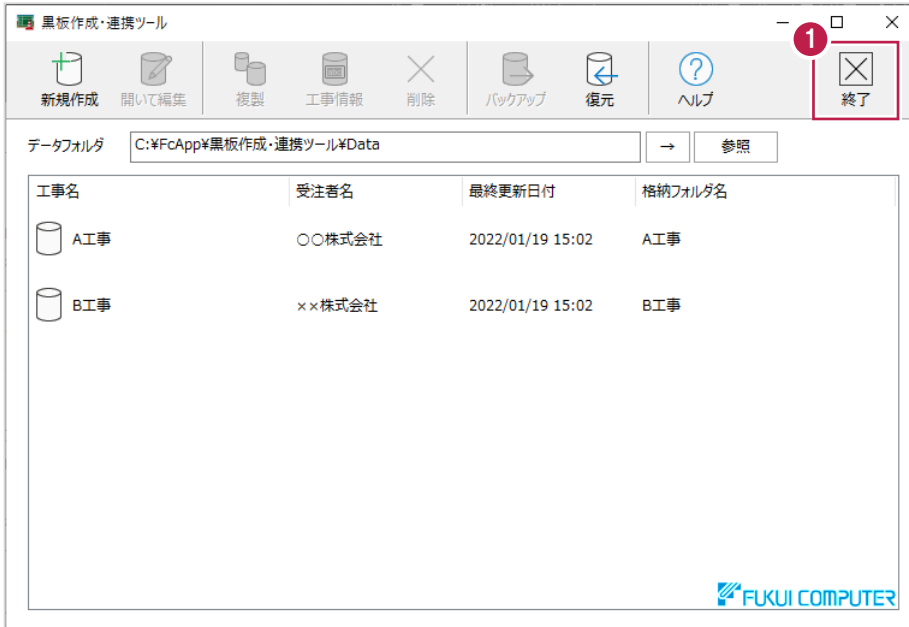
LANモードを選択した場合、アプリケーションを同時に起動できる人数は、ご購入されたアプリケーションのライセンス数に依存しますので、注意してください。

1-13 アプリケーションを終了する

アプリケーションを終了します。

1. [終了] をクリックします。

アプリケーションが終了します。



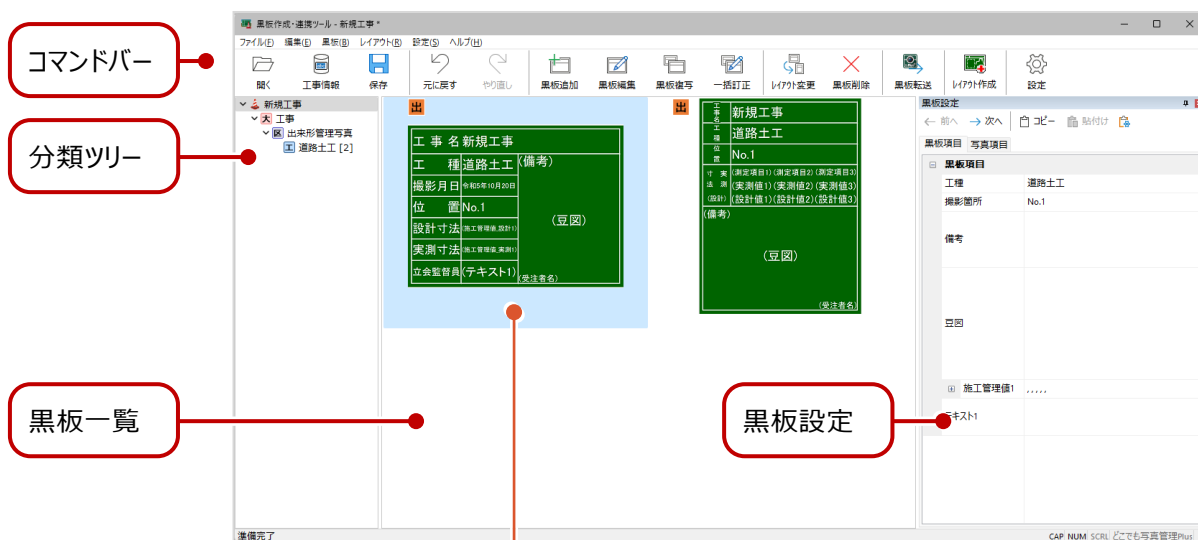
2

黒板作成・連携

黒板作成・連携について解説します。

2-1 メイン画面の説明

メイン画面について説明します。



黒板はドラッグ&ドロップで並び順を変更することができます。
 黒板Aを黒板Bの左側にドラッグすると「前」、
 黒板Aを黒板Bの右側にドラッグすると「後」が表示されます。
 「前」が表示されている状態でドロップすると、黒板Aが黒板Bの前に移動します。
 「後」が表示されている状態でドロップすると、黒板Aが黒板Bの後ろに移動します。



〔設定〕の〔利用する撮影アプリ・機器〕で選択した撮影アプリ・機器が表示されます。
 ※〔黒板タイプ〕が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。

項目	内容
コマンドバー	メイン画面で使用するコマンドが並んでいます。 コマンドバー上部のメニューバーからコマンドを実行することもできます。
分類ツリー	黒板情報より構成される分類ツリーが表示されます。 黒板を分類ツリーにドラッグ&ドロップして別分類に移動することができます。
黒板一覧	分類ツリーで選択した分類に属する黒板が一覧表示されます。 左上に黒板のタイプ（「出」：出来形、「コ」：コンクリート）が表示されます。 ※〔黒板タイプ〕が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。 転送済みの黒板は左上に「済」マークが表示されます。 （黒板、黒板情報が変更されると「済」マークは解除されます。）
黒板設定	選択した黒板の情報を設定します。

2-2 工事選択画面を開く

工事選択画面を開いて、他の工事を開きます。

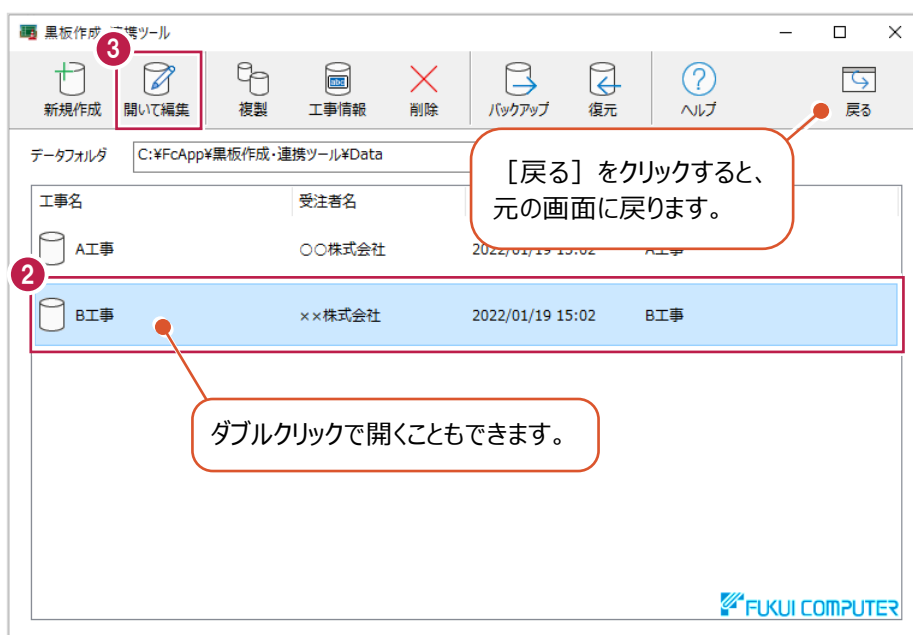
1. [開く] をクリックします。



2. 工事データを選択します。

3. [開いて編集] をクリックします。

メイン画面が開きます。



2-3 工事情報を編集する

工事情報を編集します。

1. [工事情報] をクリックします。



2. [工事名] [河川路線名] [受注者名] を入力します。

3. [OK] をクリックします。

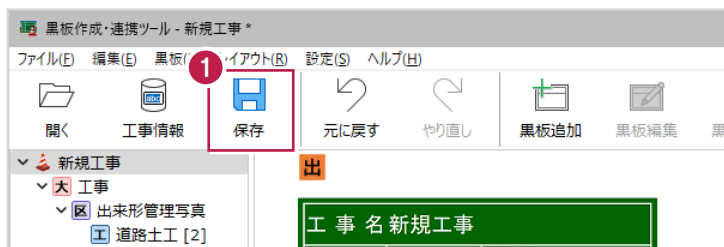
The screenshot shows a dialog box titled '工事情報' (Job Information). The dialog contains the text '工事情報を変更します。' (Change job information.) and three input fields: '工事名' (Job Name) with the value 'A工事', '河川路線名' (River Route Name) with the value 'A路線', and '受注者名' (Contractor Name) with the value '〇〇株式会社'. At the bottom of the dialog are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel). The 'OK' button is highlighted with a red box and a red circle containing the number '3'. A red circle containing the number '2' is placed over the input fields.

各項目は黒板の「工事名」「河川路線名」「受注者名」に連動します。

2-4 データを保存する

編集中的数据を保存します。

1. [保存] をクリックします。

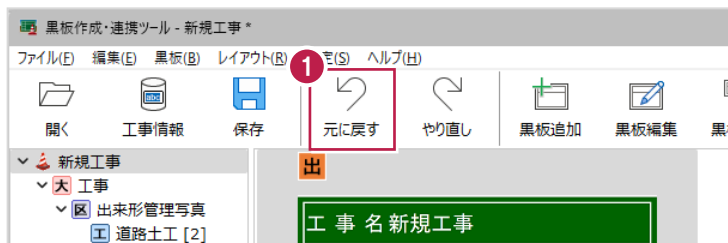


2-5 元に戻す

直前に行った動作を元に戻します。

5回まで戻すことができます。

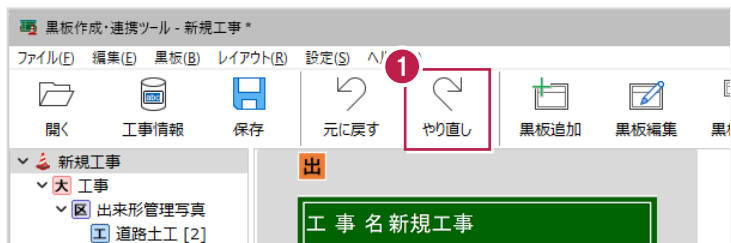
1. [元に戻す] をクリックします。



2-6 やり直し

【元に戻す】を実行する前の状態に戻します。
5回までやり直すことができます。

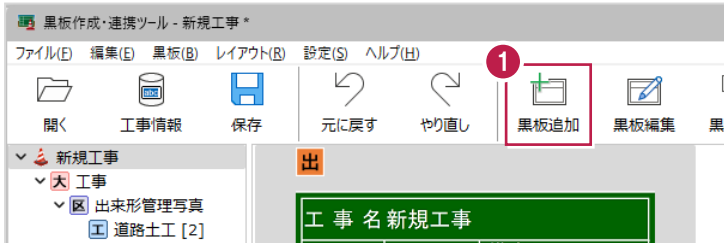
1. 【やり直し】をクリックします。



2-7 黒板を追加する

新しく黒板を追加します。

1. [黒板追加] をクリックします。



2. 追加する黒板数を入力します。(1～20まで)

3. 黒板レイアウトを選択します。

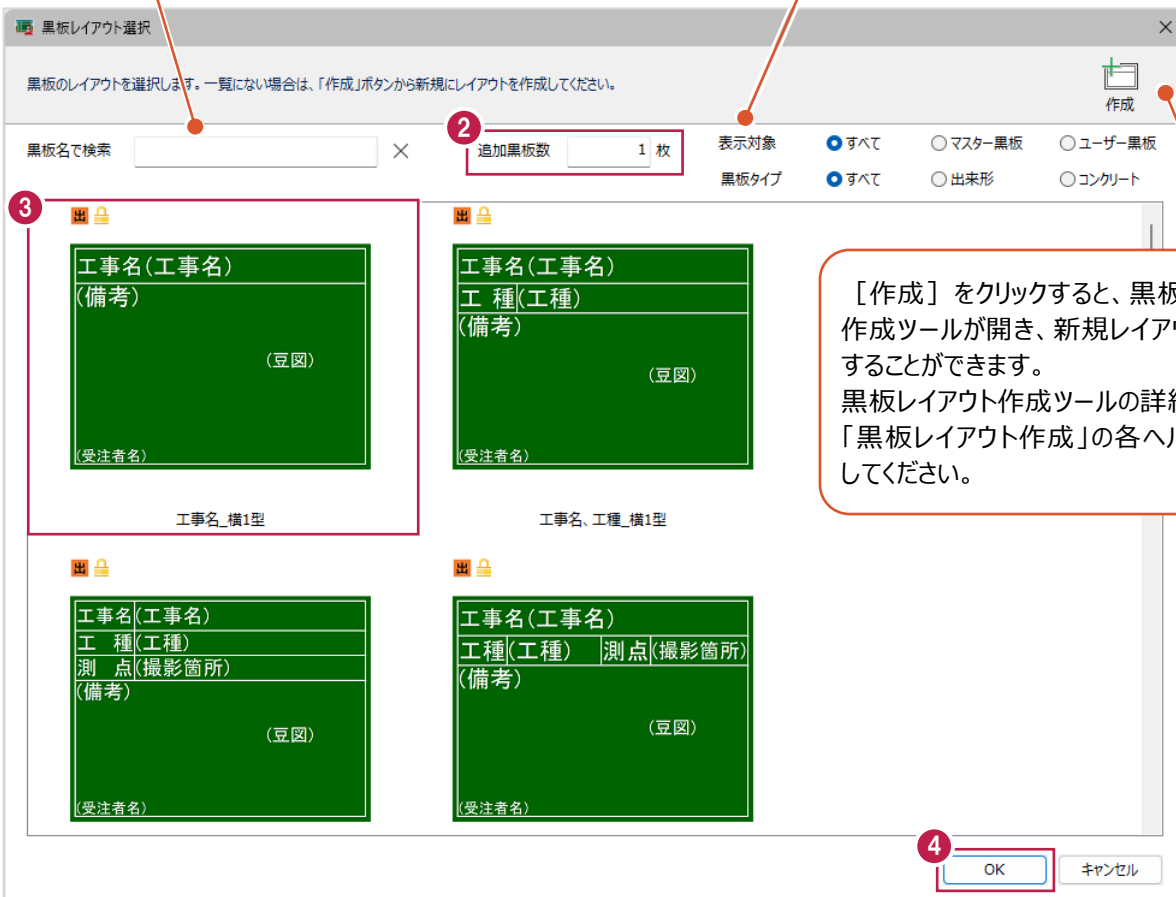
4. [OK] をクリックします。

黒板が追加されます。

※黒板の情報を設定する方法はヘルプ「黒板の情報を設定する」を参照してください。

黒板名を入力して検索することもできます。

表示対象、黒板タイプを選択することもできます。



[作成] をクリックすると、黒板レイアウト作成ツールが開き、新規レイアウトを作成することができます。黒板レイアウト作成ツールの詳細は、「黒板レイアウト作成」の各ヘルプを参照してください。

黒板レイアウト選択ダイアログのマークについて





 : プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトです。

[表示対象]で表示する黒板レイアウトを選択することもできます。

[すべて] : プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトとユーザーが作成した黒板レイアウトの両方を表示します。


[マスター黒板] : プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトを表示します。


[ユーザー黒板] : ユーザーが作成した黒板レイアウトを表示します。

  : 黒板タイプを表示します。

[黒板タイプ]で表示する黒板タイプを選択することもできます。

[すべて] : 写真・出来形用の黒板レイアウトとコンクリート専用の黒板レイアウトの両方を表示します。

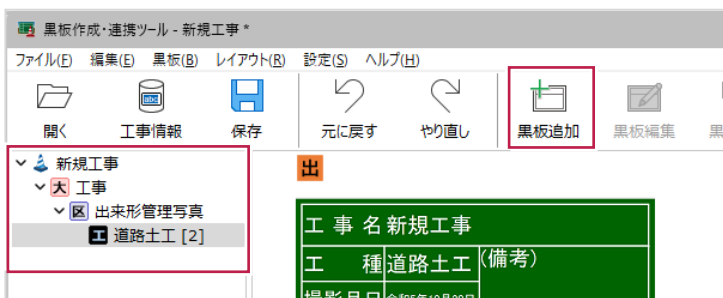
[出来形] : 写真・出来形用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「」が表示されます。

[コンクリート] : コンクリート専用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「」が表示されます。

※ **[黒板タイプ]** が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。

分類を選択して黒板を追加する

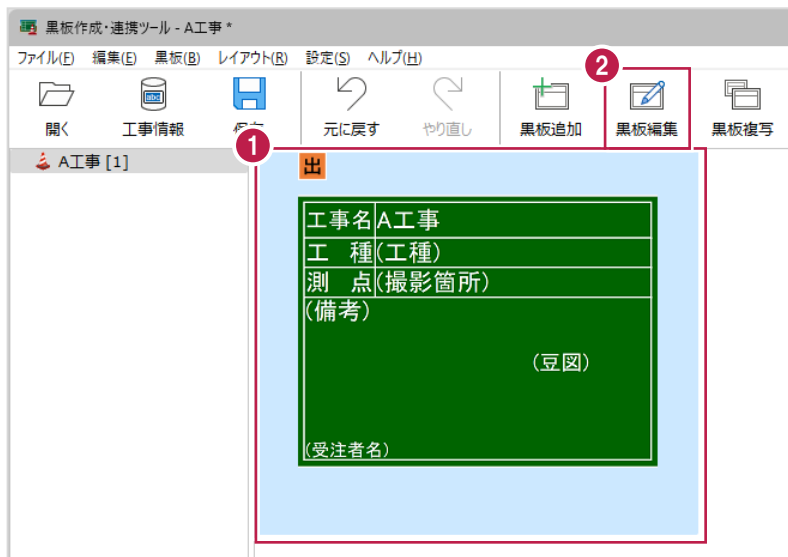
分類ツリーで分類を選択して [黒板追加] を行うと、選択した分類に黒板が追加されます。



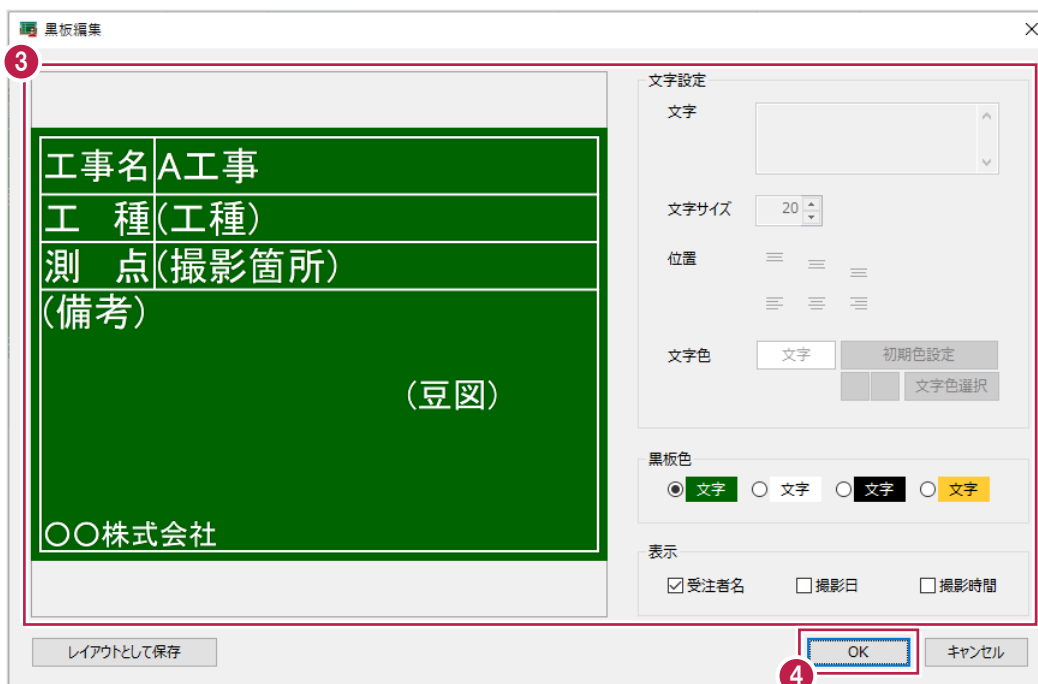
2-8 黒板を編集する

黒板のレイアウトを編集します。

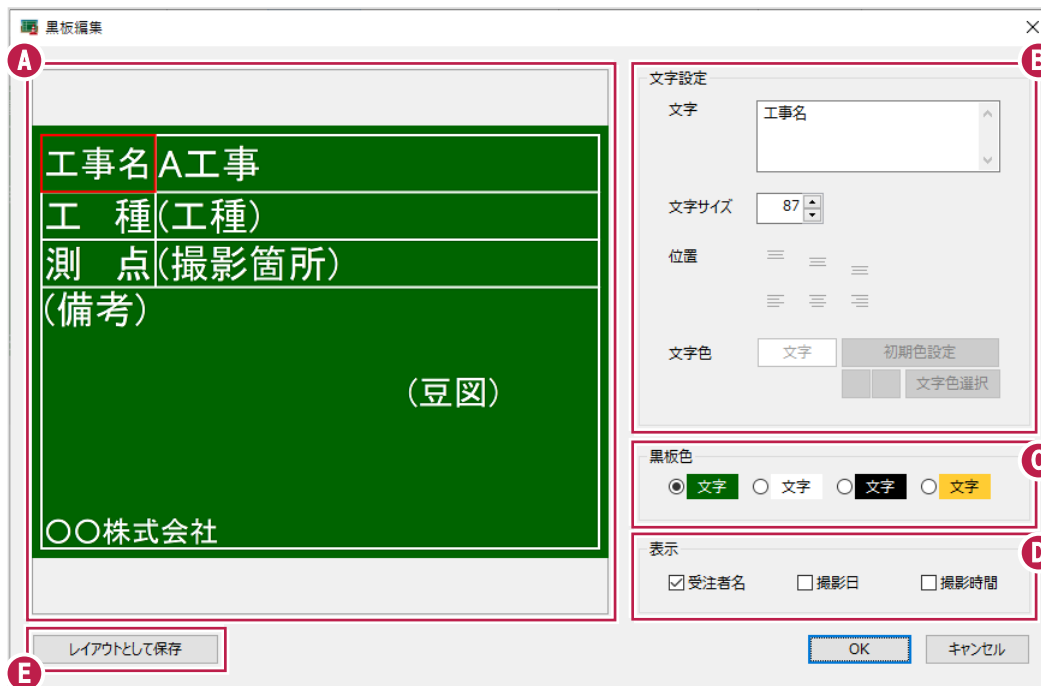
1. 黒板を選択します。
2. [黒板編集] をクリックします。



3. レイアウトを設定します。
4. [OK] をクリックします。



■ 黒板編集画面の説明

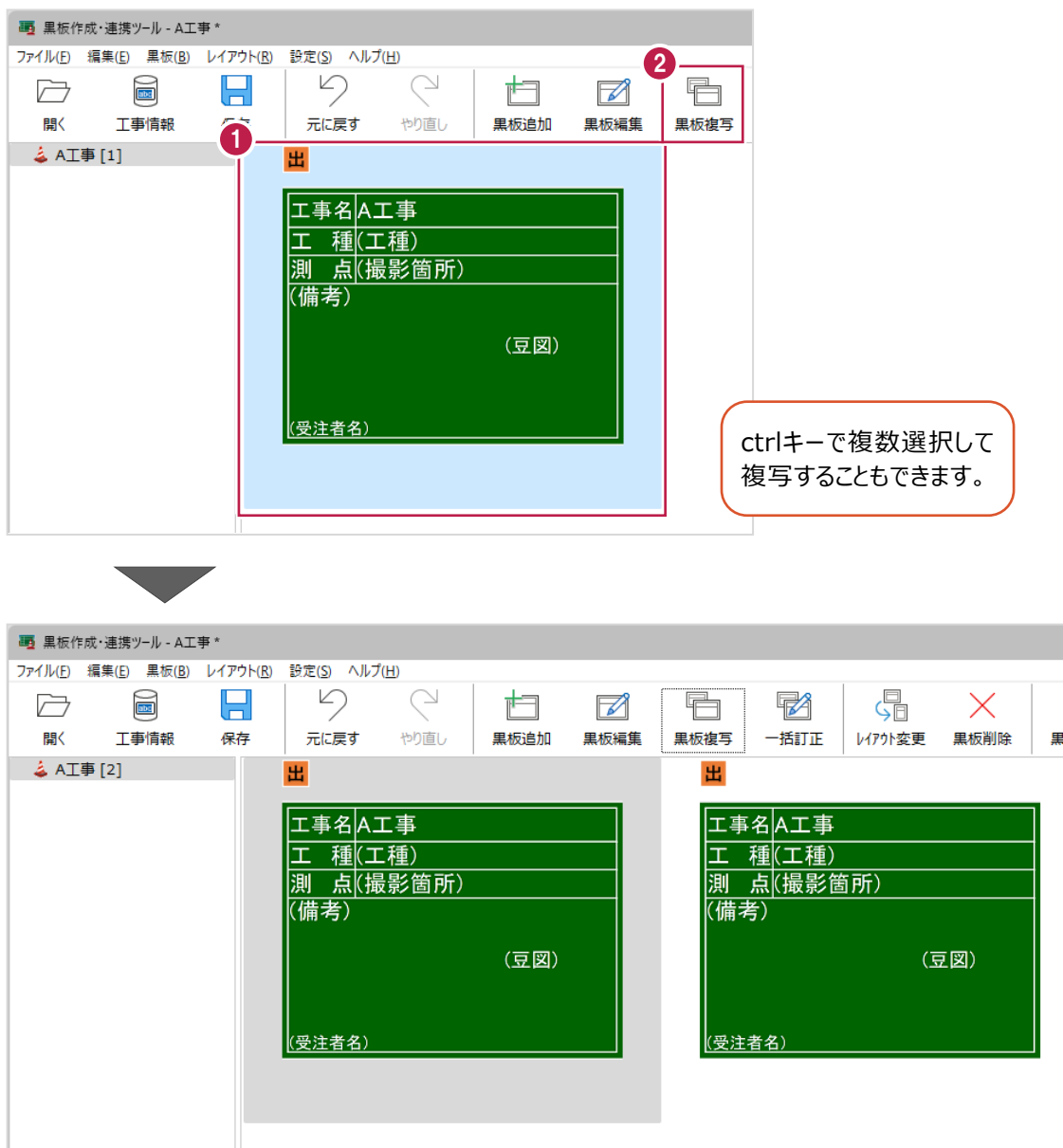


記号	項目	内容
A	プレビュー	プレビュー内の項目をクリックすると、B で文字属性を設定することができます。設定した内容はプレビューに反映されます。選択中の項目は赤枠で表示されます。
B	文字設定	A で選択した項目の文字属性を設定します。 【文字】 ：表示する文字列を入力します。 【文字サイズ】 ：文字サイズを設定します。 【位置】 ：文字の配置位置を選択します。 【文字色】 ：文字色を設定します。 <input type="radio"/> 文字 ：設定した文字色を確認します。 <input type="button" value="初期色設定"/> ：初期色にします。 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 文字色選択 ：赤、青、その他の色を選択します。
C	黒板色	背景色と文字色のパターンを選択します。
D	表示	[受注者名] [撮影日] [撮影時間] を表示する場合はオンにします。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、[撮影日] [撮影時間] は設定できません。
E	レイアウトとして保存	表示中のレイアウトを名前を付けて保存することができます。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [どこでも写真管理 Plus] を選択している場合はどこでも写真管理 Plus 用、[RICOH G900] を選択している場合は RICOH G900 用として登録します。 保存したレイアウトは [黒板追加] で選択することができます。

2-9 黒板を複写する

黒板を複写します。

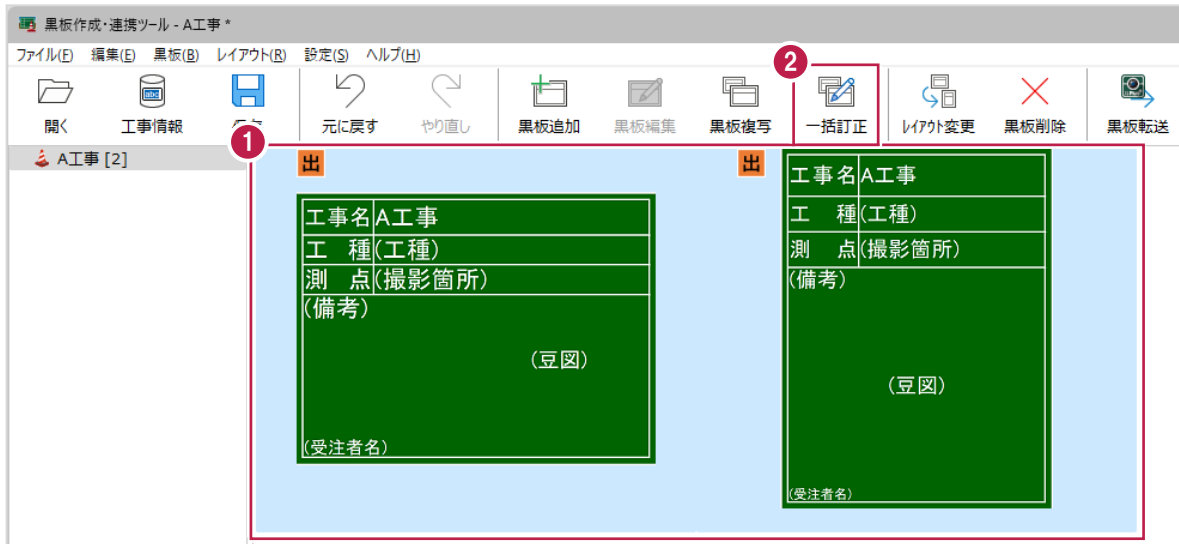
1. 黒板を選択します。
2. [黒板複写] をクリックします。
黒板が複写されます。



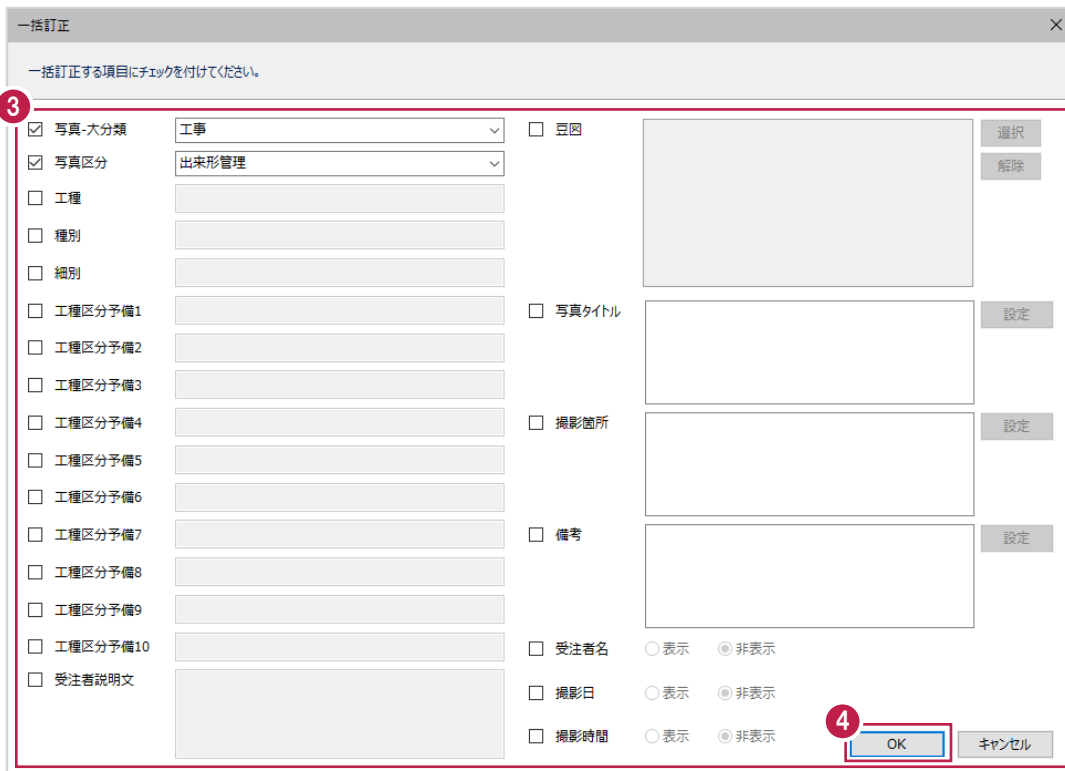
2-10 黒板の情報を一括訂正する

黒板の情報を一括訂正します。

1. ctrlキーを押しながら黒板を複数選択します。
2. [一括訂正] をクリックします。



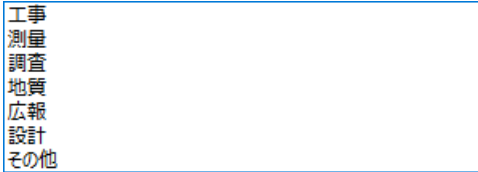
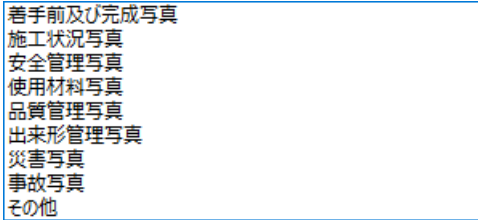
3. 訂正する項目のチェックをオンにして、訂正内容を設定します。
4. [OK] をクリックします。



■ 一括訂正ダイアログの説明

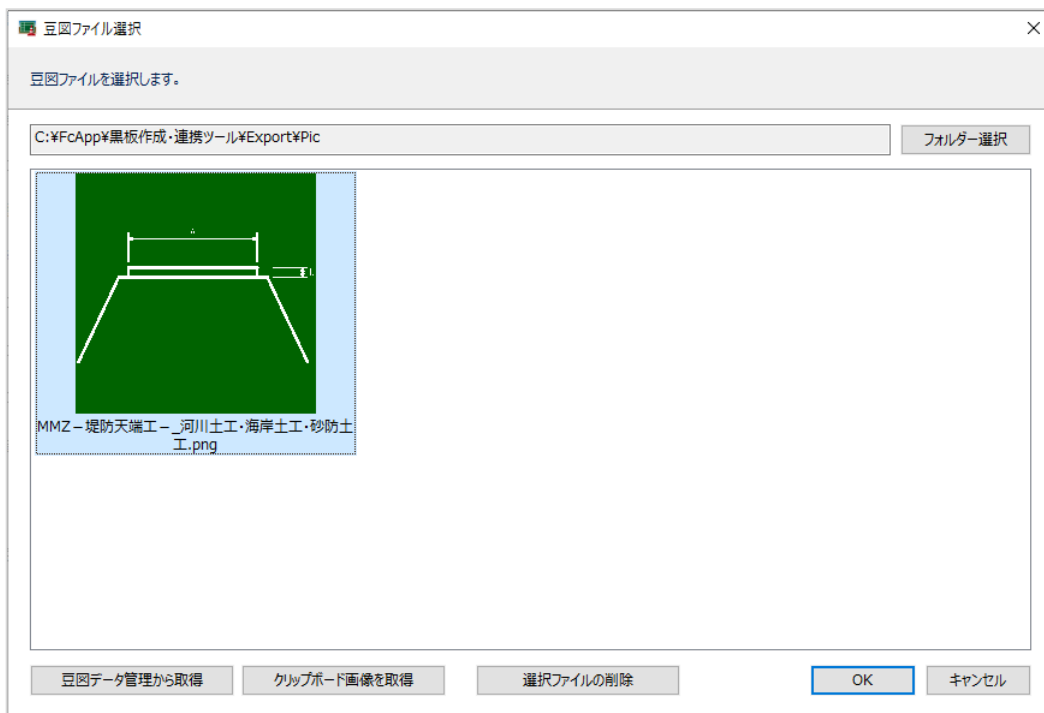
設定した黑板情報は [黑板設定] と黑板サムネイルに反映されます。

[受注者名] [撮影日] [撮影時間] の表示設定は黑板サムネイルに反映されます。

項目	内容
《営繕オフ》写真-大分類 《営繕オン》階層 1	写真-大分類（もしくは階層 1）を選択、または入力します。 
《営繕オフ》写真区分 《営繕オン》階層 2	写真区分（もしくは階層 2）を選択、または入力します。 
《営繕オフ》工種 《営繕オン》階層 3	工種（もしくは階層 3）を入力します。
《営繕オフ》種別 《営繕オン》階層 4	種別（もしくは階層 4）を入力します。
《営繕オフ》細別 《営繕オン》階層 5	細別（もしくは階層 5）を入力します。
工種区分予備 1~ 工種区分予備 10	必要に応じて入力します。
受注者説明文	受注者説明文を入力します。
豆図	豆図を設定します。 ※解除した状態（未設定の状態）で一括訂正を実行すると、黑板の豆図が一括解除されます。 【選択】 ：設定する豆図ファイルを選択します。 【解除】 ：選択した豆図ファイルを解除します。
写真タイトル	[設定] から写真タイトルを設定します。
撮影箇所	[設定] から撮影箇所を設定します。
備考	[設定] から備考を設定します。
受注者名	受注者名の表示・非表示を選択します。
撮影日	撮影日の表示・非表示を選択します。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、設定できません。
撮影時間	撮影時間の表示・非表示を選択します。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、設定できません。

■ 豆図の設定

豆図を設定する場合は、[選択] から豆図ファイルを選択します。



項目	内容
フォルダ選択	<p>[豆図データ管理から取得] や [クリップボード画像を取得] で取得した豆図ファイルの保存先フォルダを選択します。</p> <p>フォルダ内の画像（拡張子「jpg」「png」「bmp」）が豆図ファイル一覧に表示されます。</p>
豆図ファイル一覧	<p>[豆図] に設定する豆図ファイルを選択します。</p>
豆図データ管理から取得	<p>[豆図データ管理] から豆図を取得して豆図ファイル一覧に表示します。</p> <p>EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理（Ver.21.1以降）がインストールされている場合に使用できます。</p> <p>[豆図データ管理] での操作については、EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理のヘルプ「豆図データ管理ウィンドウ」を参照してください。</p>
クリップボード画像を取得	<p>クリップボードの画像を取得して豆図ファイル一覧に表示します。</p> <p>（ビットマップ形式の画像が対象です。）</p>
選択ファイルの削除	<p>豆図ファイル一覧で選択している豆図ファイルを一覧から削除します。</p>

■ 写真タイトル・撮影箇所・備考の設定

〔写真タイトル〕〔撮影箇所〕〔備考〕はそれぞれ〔設定〕から設定します。
 ここでは、〔撮影箇所〕を例に説明します。
 ※設定方法は〔写真タイトル〕〔備考〕も同様です。

項目	内容
追加	撮影箇所を入力して〔追加〕をクリックすると、一覧に追加します。
この黒板で利用する「撮影箇所」一覧	<p>選択しているものが黒板サムネイル、黒板タイトル、黒板設定に表示されます。</p> <p>〔撮影箇所〕に複数登録されている場合は、黒板タイトルと黒板設定は以下のように表示されます。</p> <p>2つ登録されている場合：（上の項目）、（下の項目）</p> <p>3つ以上登録されている場合：（一番上の項目）～（一番下の項目）</p> <p>※〔写真タイトル〕〔備考〕の場合は、選択しているもののみ表示されます。</p>
一括追加	<p>撮影箇所を一括で追加します。</p> <p>※〔写真タイトル〕〔備考〕では表示されません。</p>
削除	一覧で選択した撮影箇所を削除します。
上へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ上に移動します。
下へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ下に移動します。
OK	一覧に表示されている撮影箇所を一括訂正ダイアログに設定します。
キャンセル	一括訂正ダイアログに戻ります。

■ 一括追加（〔撮影箇所〕のみ）

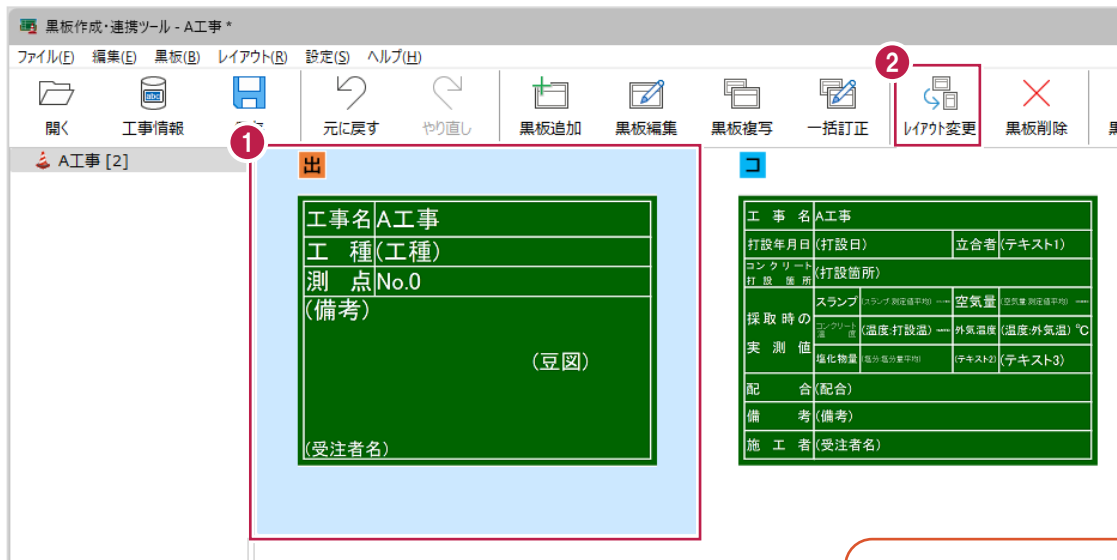
撮影箇所を一括で追加します。

項目	内容
測点名称	測点名の先頭の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
測点番号名称	測点名の末尾の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
開始 No	No 杭の連番の開始番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
終了 No	No 杭の連番の終了番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
作成ピッチ	No 杭の連番の増分を入力します。（No.5L+10AB、No.6L …… の赤部分）
+ 杭	+ 杭を作成する場合はオンにします。 ※〔作成ピッチ〕の値が「1」のときのみ設定可能です。 〔No 杭間隔〕 ：No 杭の間隔の距離を入力します。 この距離は、+ 杭を計算するときに使用されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分） 〔+ 杭間隔〕 ：+ 杭の間隔の距離を入力します。 この距離と上記〔No 杭間隔〕の距離から+ 杭が計算されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分） 〔+ 杭名称〕 ：+ 杭の末尾の固定部分を入力します。 （No.5L+10AB …… の赤部分）
作成タイプ	〔+ 杭優先〕 ：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、+ 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1+10、No.1+30 〔No 杭優先〕 ：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、No 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1、No.1+20、No.1+40
プレビュー	作成される測点が表示されます。 確認しながら条件を設定してください。

2-11 黒板のレイアウトを変更する

黒板のレイアウトを変更します。

1. 黒板を選択します。
2. [レイアウト変更] をクリックします。



ctrlキーで複数選択して変更することもできます。

3. 黒板レイアウトを選択します。

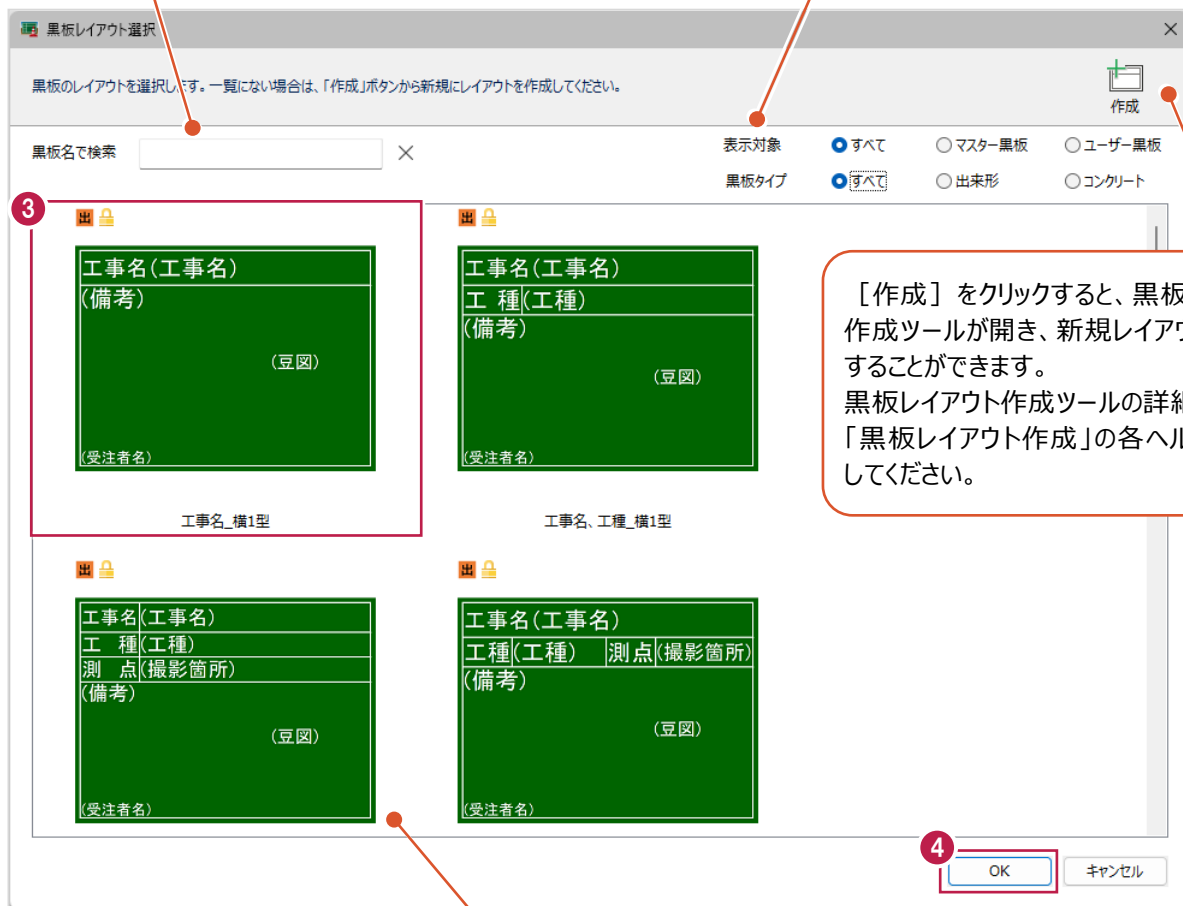
4. [OK] をクリックします。

黒板のレイアウトが変更されます。

※ [黒板設定] の内容は保持されます。

黒板名を入力して検索することもできます。

表示対象、黒板タイプを選択することもできます。

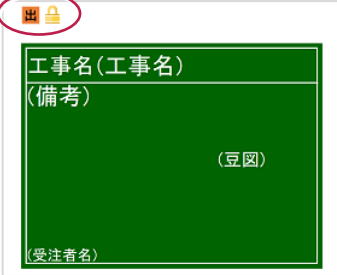


[作成] をクリックすると、黒板レイアウト作成ツールが開き、新規レイアウトを作成することができます。
黒板レイアウト作成ツールの詳細は、「黒板レイアウト作成」の各ヘルプを参照してください。

[設定] の [利用する撮影アプリ・機器] より利用可能な黒板が表示されます。

※ [黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。

黒板レイアウト選択ダイアログのマークについて



：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトです。

[表示対象]で表示する黒板レイアウトを選択することもできます。

[すべて]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトとユーザーが作成した黒板レイアウトの両方を表示します。

[マスター黒板]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトを表示します。

[ユーザー黒板]：ユーザーが作成した黒板レイアウトを表示します。



出 **コ**：黒板タイプを表示します。

[黒板タイプ]で表示する黒板タイプを選択することもできます。

[すべて]：写真・出来形用の黒板レイアウトとコンクリート専用の黒板レイアウトの両方を表示します。

[出来形]：写真・出来形用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「**出**」が表示されます。

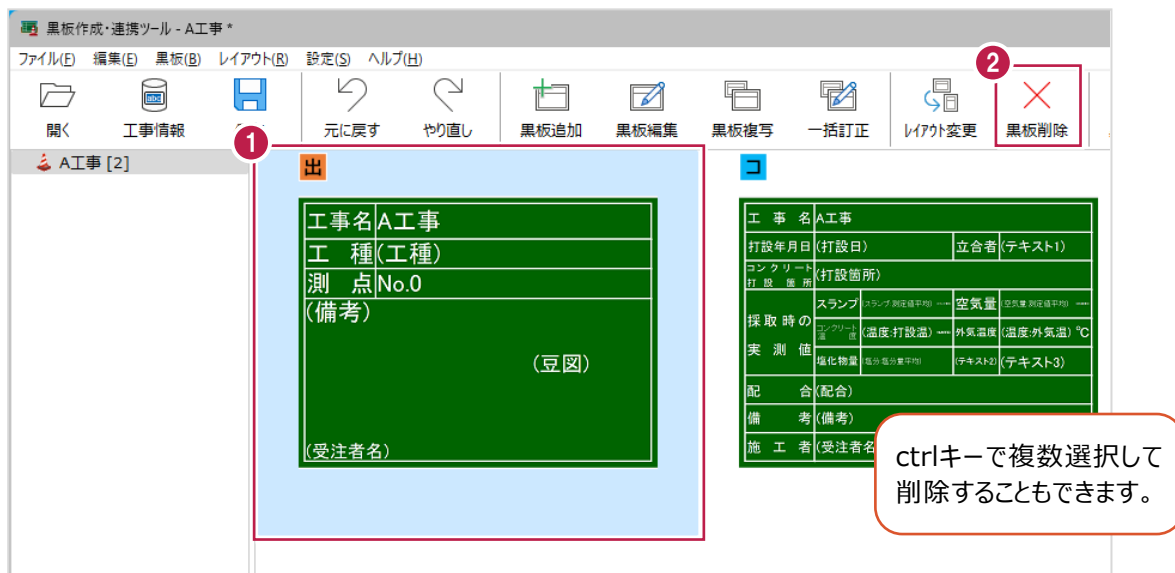
[コンクリート]：コンクリート専用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「**コ**」が表示されます。

※ [黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。

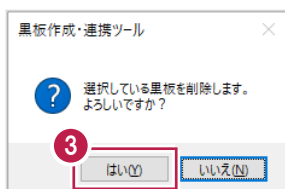
2-12 黒板を削除する

黒板を削除します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板削除] をクリックします。



3. [はい] をクリックします。
黒板が削除されます。



2-13 黒板を「どこでも写真管理Plus」に転送する

黒板を「どこでも写真管理Plus」アプリに転送します。

転送する方法は4通りあります。

- ・USBで接続する（Android版のみ）
- ・CIMPHONY Plusを使用する（Android版・iOS版 共通）
- ・RICOH Driveを使用する（Android版・iOS版 共通）
- ・iTunesを使用する（iOS版のみ）

それぞれの転送操作を説明します。

※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] は以下を選択して操作してください。

どこでも写真管理Plus（バージョン 2.0.2000～）の場合： [どこでも写真管理Plus]（左側）

どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）の場合： [どこでも写真管理Plus]（右側）

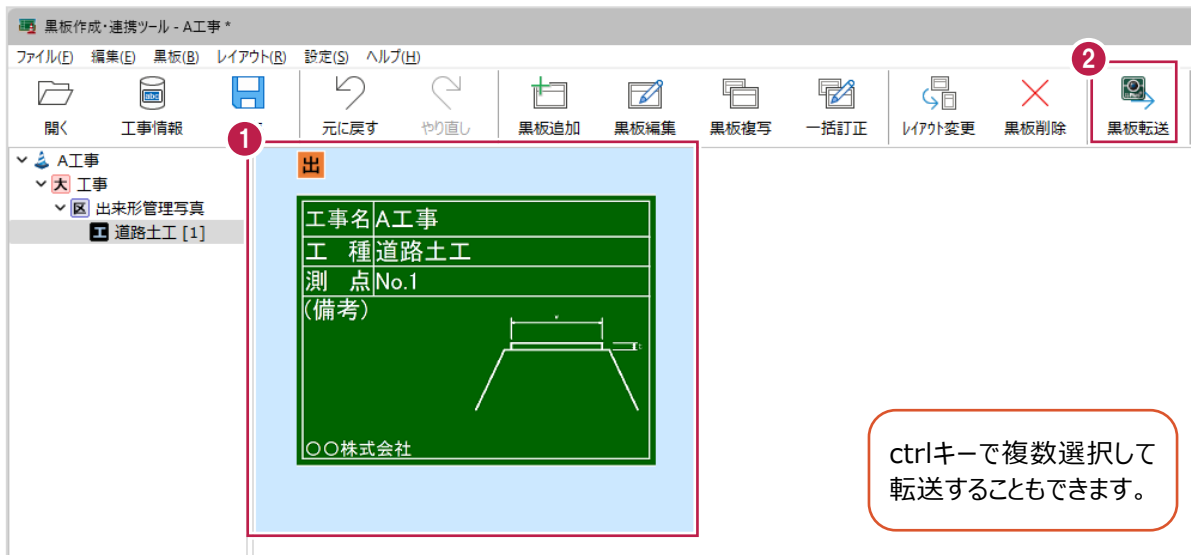
（※ [黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板は、どこでも写真管理Plus（バージョン 2.0.2000～）のみ対応です。）

■ USBで接続する（Android版のみ）

USBで接続して黒板を転送します。

事前にPCとスマホをUSBで接続して操作してください。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

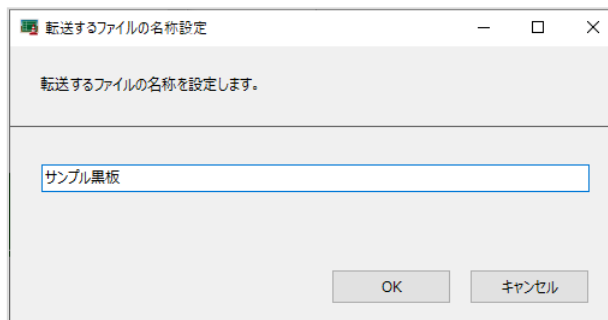


3. 接続先は [USB] を選択します。

4. [OK] をクリックします。



どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



5. [OK] をクリックします。

ファイルが転送されます。



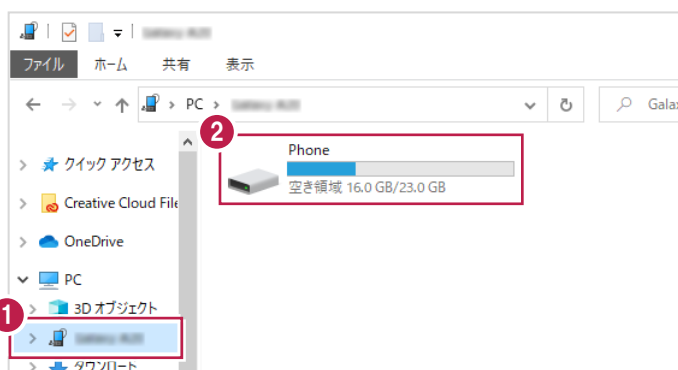
USB 接続でデータの転送が失敗する場合

USBで接続したスマートフォンへのデータの転送が失敗する場合は、以下を確認してください。

●PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できますか？

正しくUSB接続されている場合は、PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できます。
以下の操作で確認してください。

1. USB接続した状態でPCのエクスプローラーを開き、[PC] の下層にある「接続したスマートフォン名」をクリックします。
2. スマートフォン内の「Phone（内部ストレージ）」が表示されれば、正しく接続されています。



PCのエクスプローラーで

- ・接続したスマートフォン名が表示されない
- ・スマートフォン名をクリックしても何も表示されない
- ・エクスプローラーでは正常に見えるが、転送に失敗する

等の場合は、以下を確認してください。

●スマートフォンの電源は入っていますか？

スマートフォンの電源がオフになっていると転送できません。
電源を入れてください。

●スマートフォンが画面ロックされていませんか？

スマートフォンがパスワードやパターンなどで画面ロックされていると転送できません。
画面ロックを解除してください。

●正常なUSBケーブルで接続していますか？

「充電専用」のUSBケーブルでは転送できません。
また、USBケーブルの不具合の可能性もあるので、他のUSBケーブルで接続してください。

●どこでも写真管理Plusが起動していませんか？

スマートフォンで【どこでも写真管理Plus】が起動している場合は、終了してください。

●スマートフォンにSDカードが入っていませんか？

スマートフォンにSDカードが入っていると転送が失敗する場合があります。
SDカードのマウントを解除してください。

(次ページへ続きます)

● USB接続が【充電】モードになっていませんか？

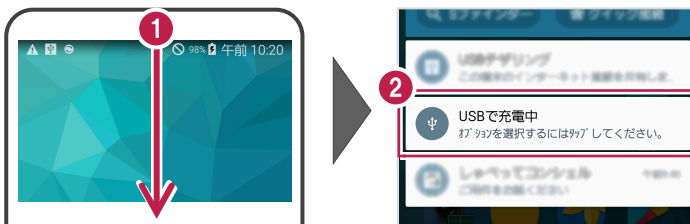
スマートフォン側のUSB接続が【充電】モードになっていると転送できません。

以下の操作でUSB接続を【メディアファイルを転送】（MTP接続）に変更してください。

1. USB接続した状態で、スマートフォンの画面上部から下に指をスライド（スワイプ）し、通知領域を表示します。

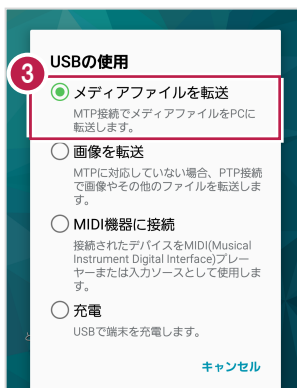
※通知領域のデザインや表示される内容は、スマートフォンにより異なる場合があります。

2. 【USBで充電中】をタップします。



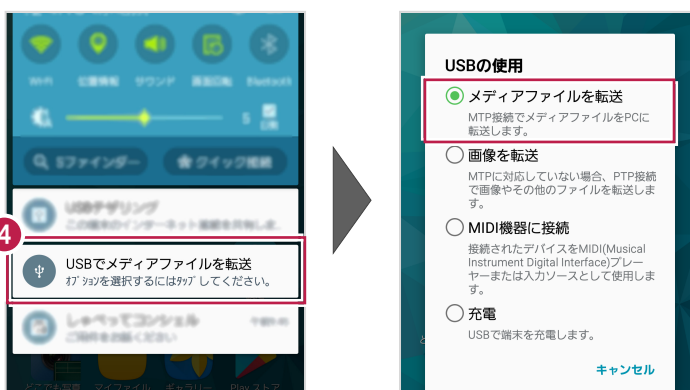
3. 【メディアファイルを転送】をタップします。（MTP接続にします。）

以上の操作で転送できるか試してください。



4. 【メディアファイルを転送】に変更しても転送できない場合は、

同操作で再度【メディアファイルを転送】（MTP接続）を指定し直してください。

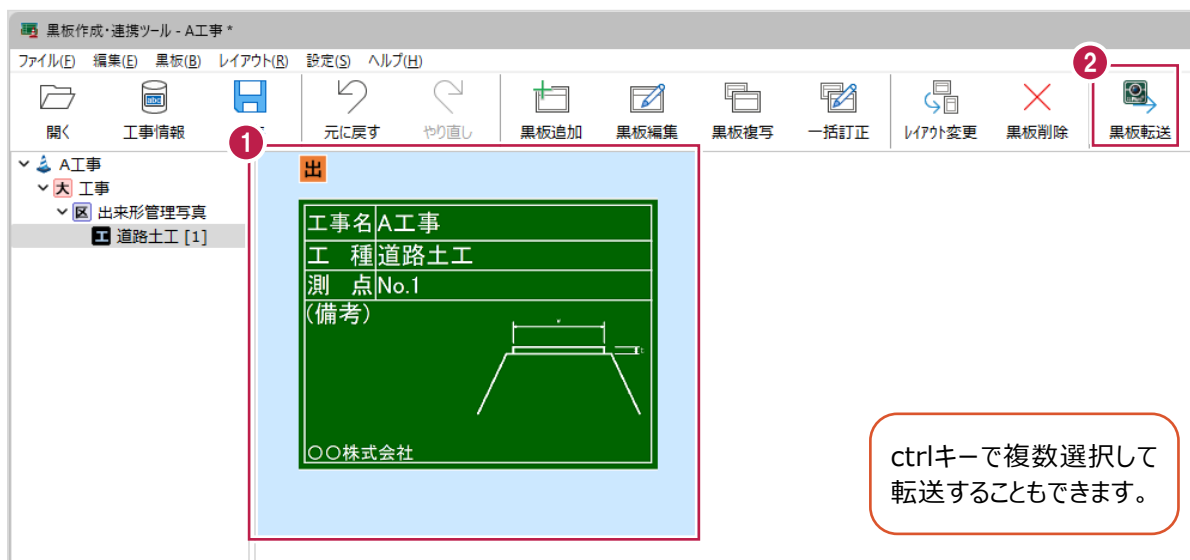


■ CIMPAPHONY Plus を使用する（Android 版・iOS 版 共通）

CIMPAPHONY Plusを使用して黒板を転送します。

CIMPAPHONY Plusであらかじめ現場を作成して操作してください。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。



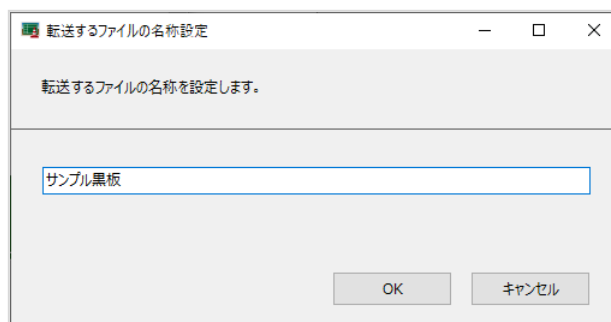
3. 接続先は [CIMPAPHONY Plus] を選択します。

4. [OK] をクリックします。

CIMPAPHONY Plus連携ツールが起動します。

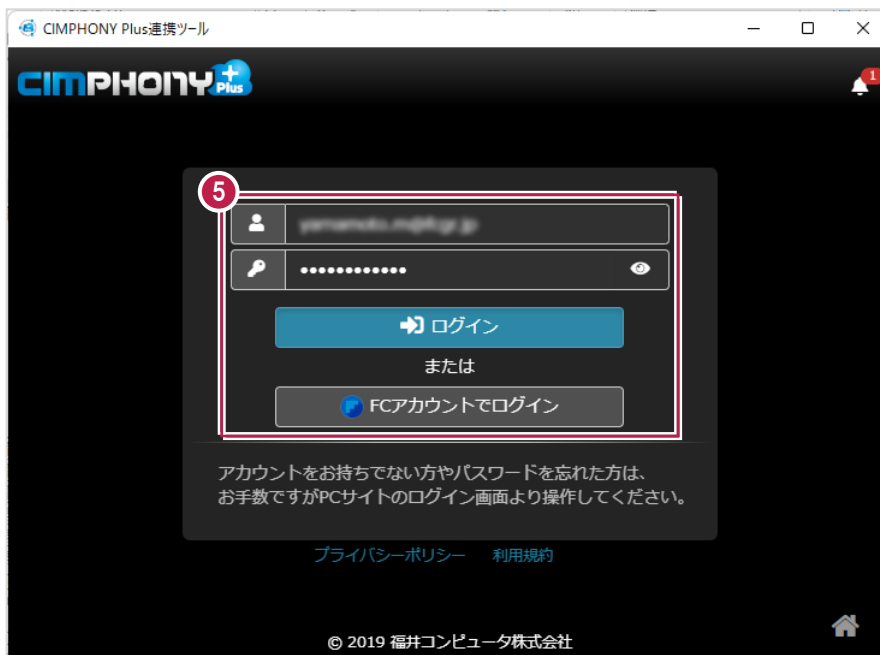


どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



5. 「メールアドレス」と「パスワード」、または「FCアカウント」でログインします。

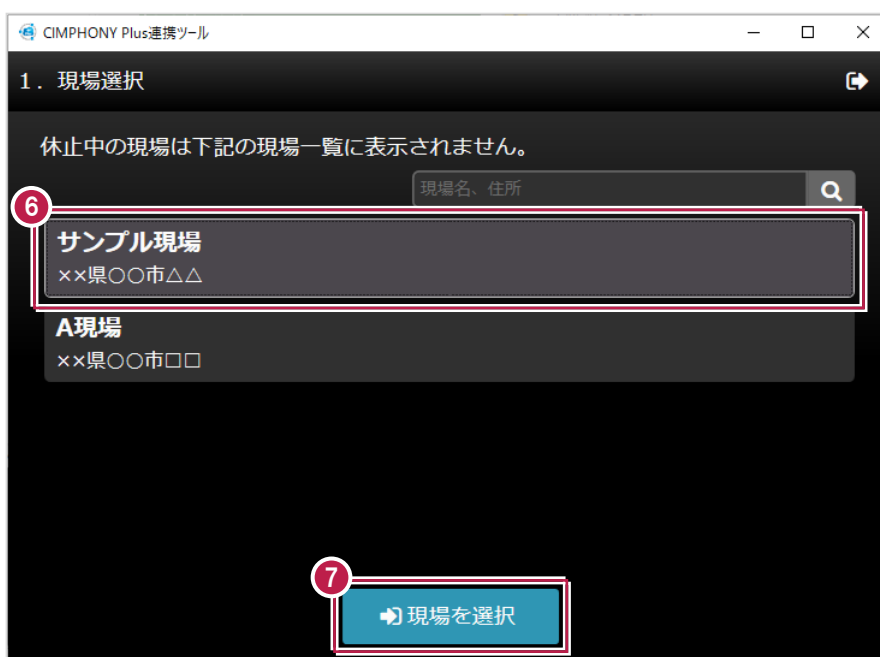
※ログイン後、1ヶ月間は認証情報が保存されます。



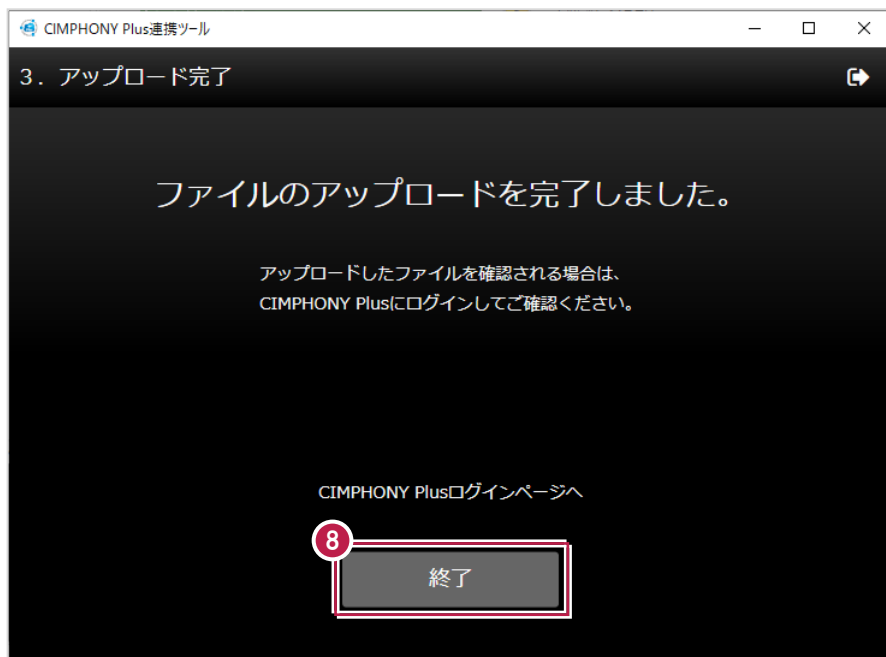
6. 現場を選択します。

7. [現場を選択] をクリックします。

※工期終了した現場にファイルをアップロードすることはできません。



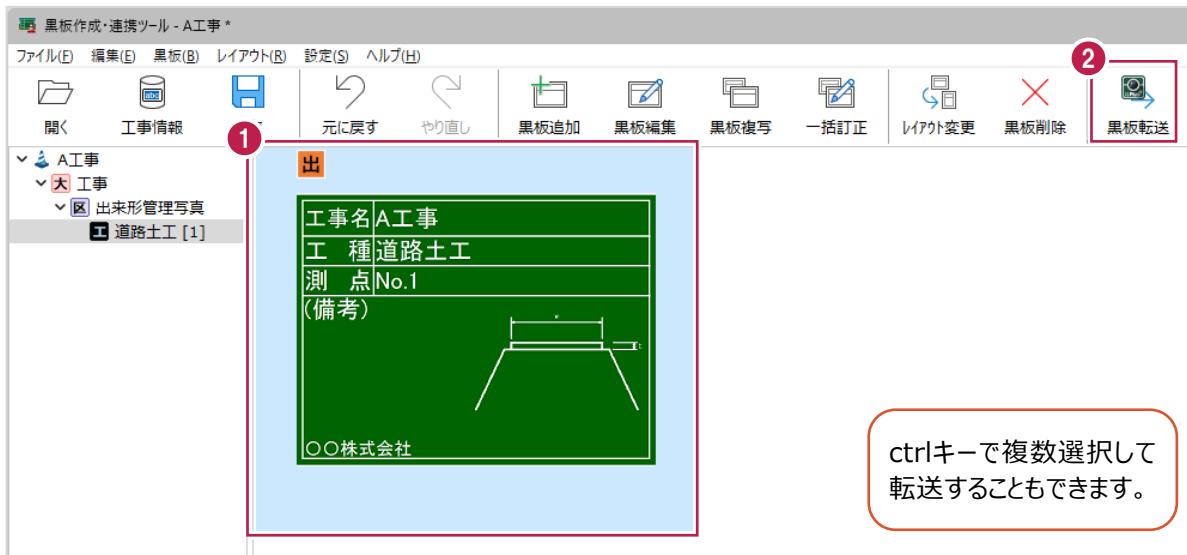
8. [終了] をクリックします。
ファイルが転送されます。



■ RICOH Driveを使用する（Android版・iOS版 共通）

RICOH Driveを使用して黒板を転送します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

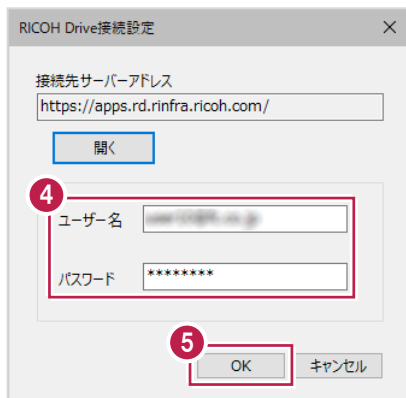


3. [RD接続設定] をクリックします。



4. [ユーザー名] [パスワード] を入力します。

5. [OK] をクリックします。

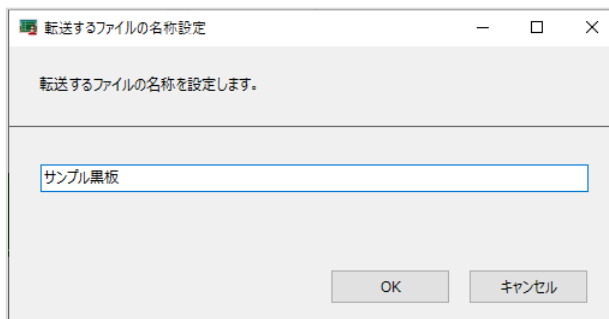


6. 接続先は [RICOH Drive] を選択します。

7. [OK] をクリックします。



どこでも写真管理Plus（バージョン ~1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



8. [OK] をクリックします。

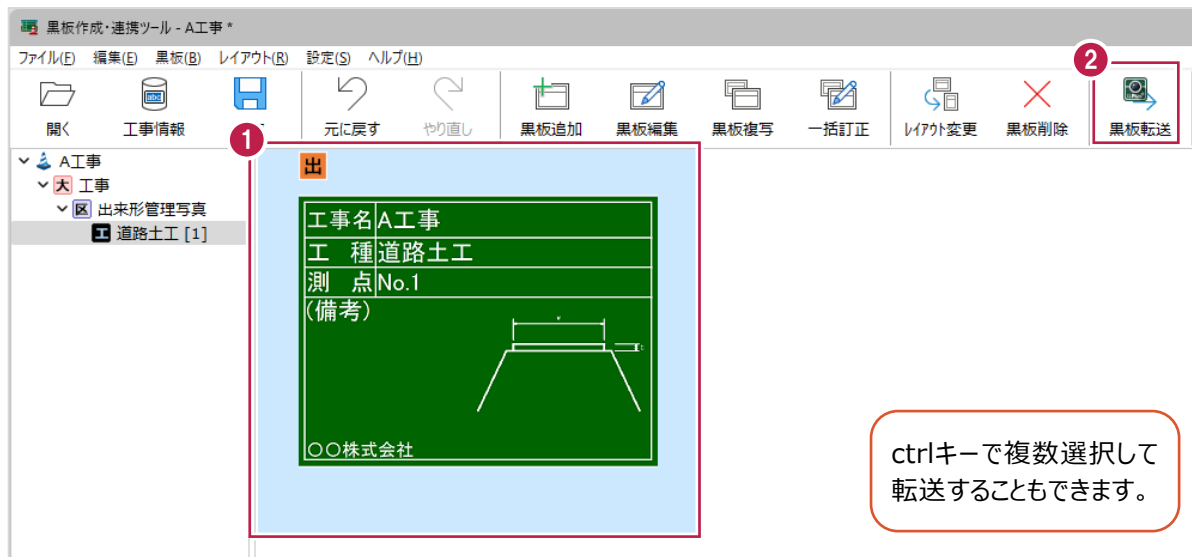
ファイルが転送されます。



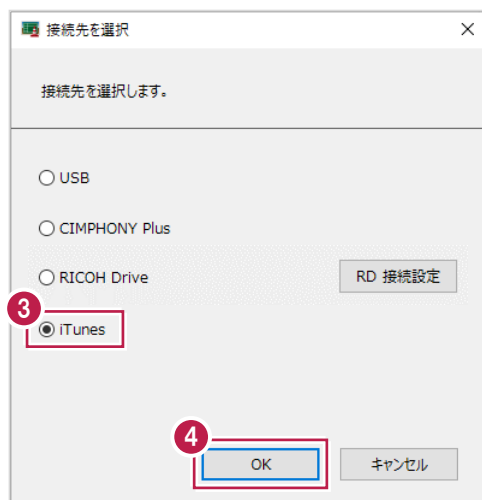
■ iTunesを使用する（iOS版のみ）

iTunesを使用して黒板を転送します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。



3. 接続先は [iTunes] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

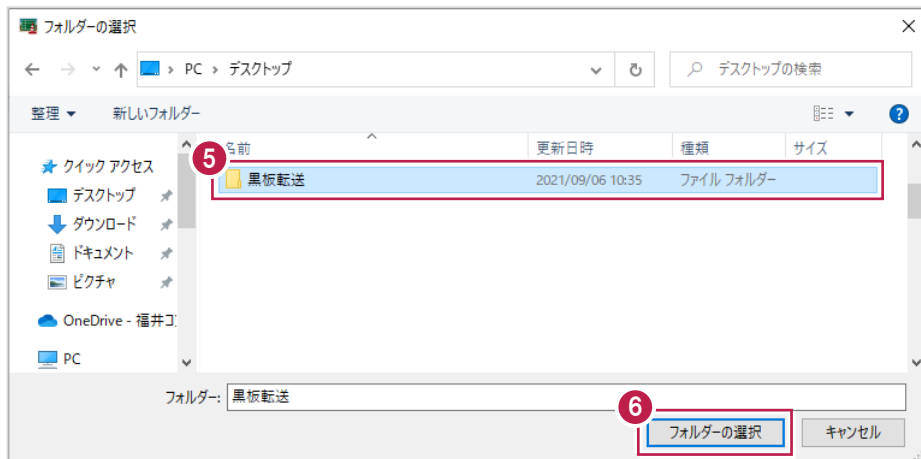


5. 黒板データを一旦PCの任意のフォルダーに出力します。

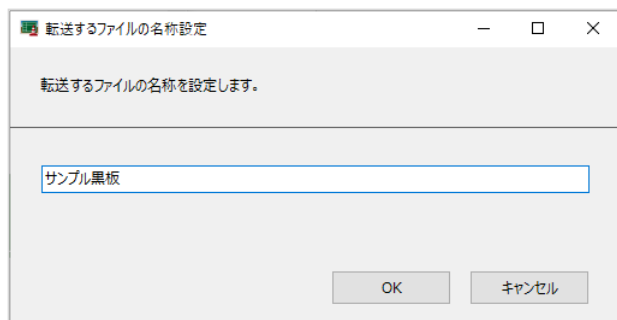
出力先のフォルダーを選択します。

※事前にデスクトップ等、分かりやすい場所にフォルダーを作成しておくことをお勧めします。

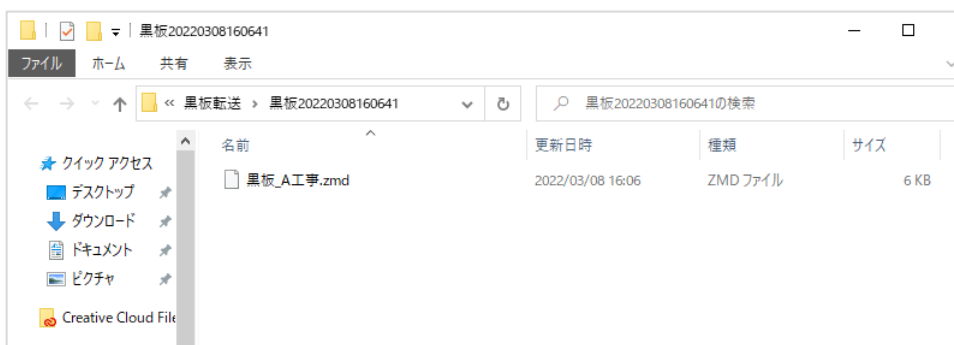
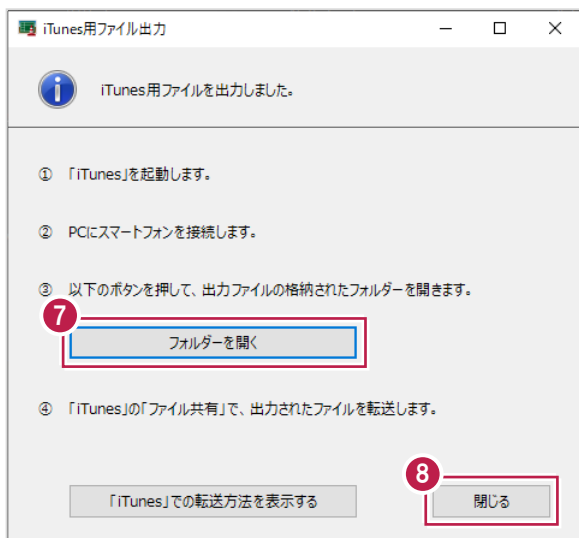
6. [フォルダーの選択] をクリックします。



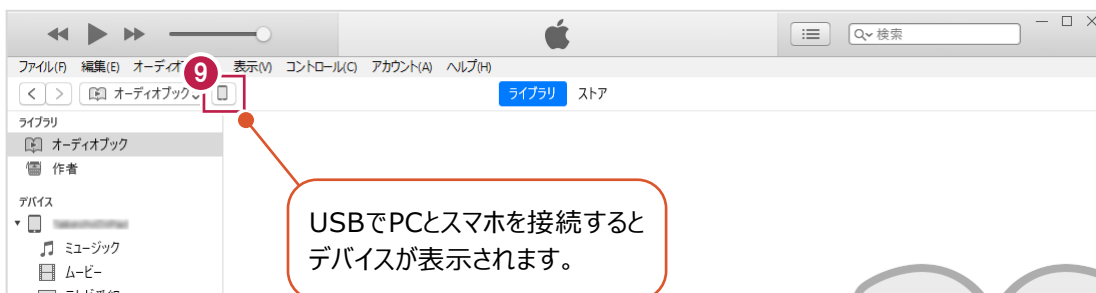
どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



7. [フォルダーを開く] をクリックします。
出力ファイルの格納されたフォルダーが開きます。
8. [閉じる] をクリックします。



9. PCにインストールされているiTunesを起動し、PCとスマートフォンを接続して、スマホのアイコンをクリックします。

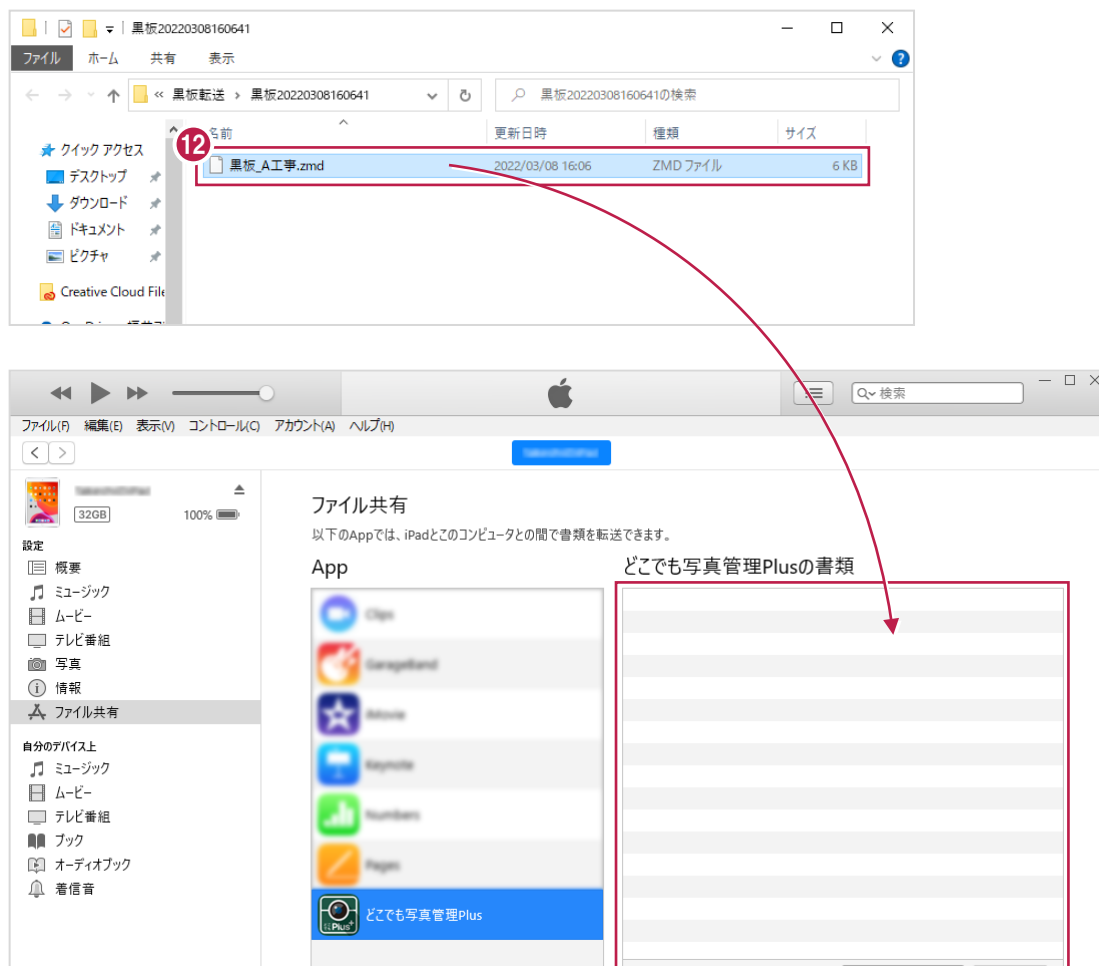


10. [ファイル共有] を選択します。

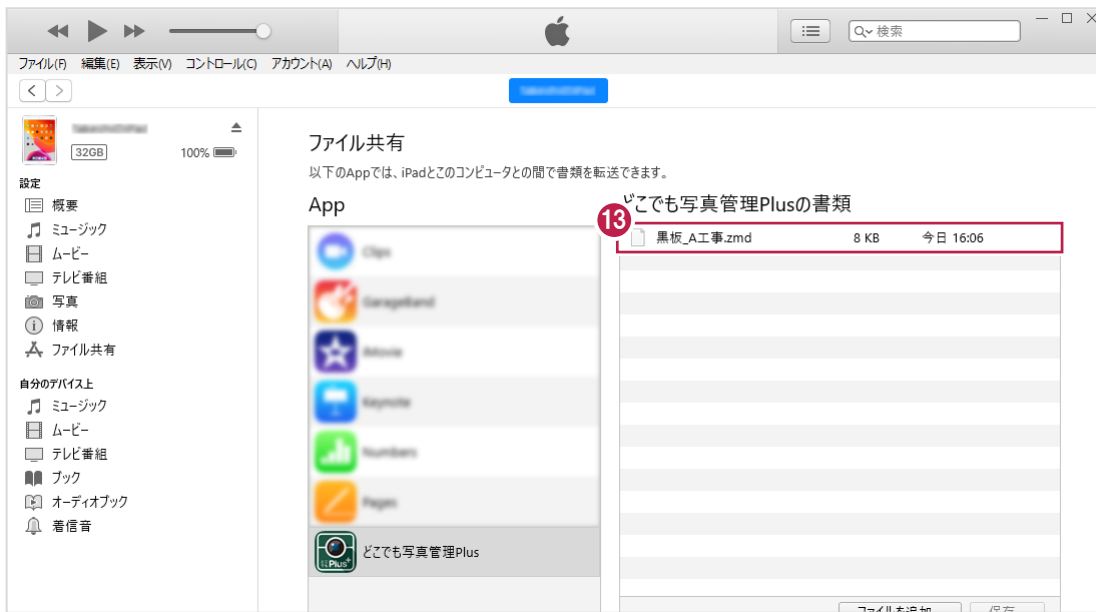
11. [どこでも写真管理Plus] を選択します。



12. 出力した黒板データのファイルをiTunesにドラッグ&ドロップします。



13. iTunesに黒板データが登録されます。

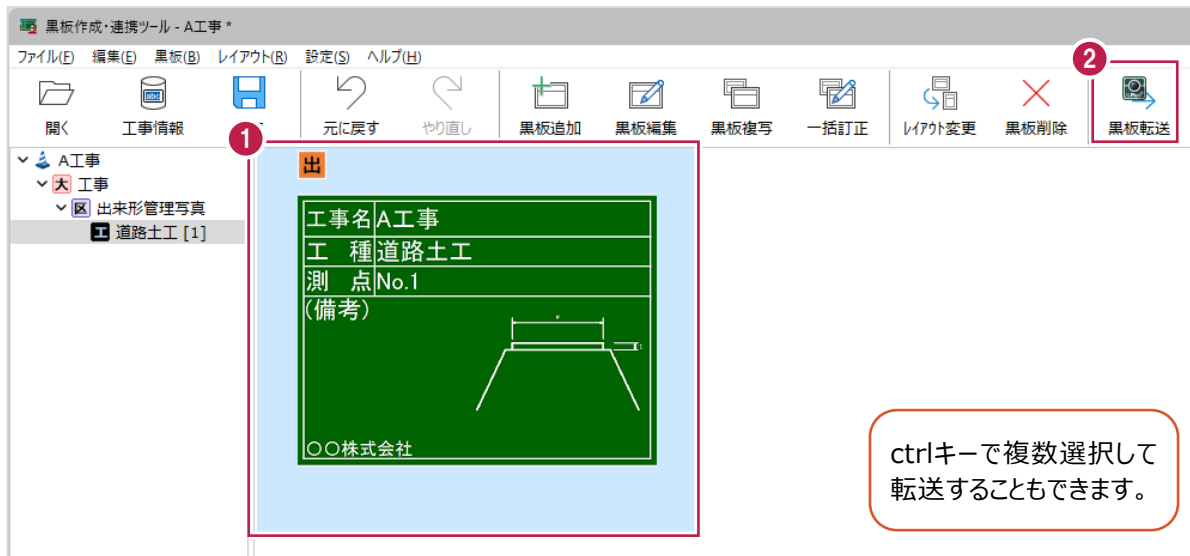


2-14 黒板を「RICOH G900」に転送する

黒板をデジタルカメラ「RICOH G900」に転送します。

※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] は [RICOH G900] を選択して操作してください。
([黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板は、[RICOH G900] には転送できません。)

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

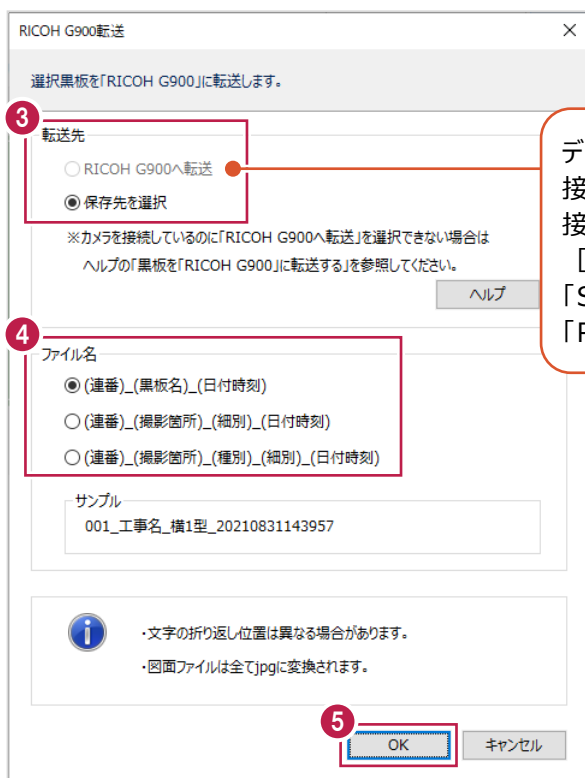


3. 転送先を選択します。

ここでは、「保存先を選択」を選択します。

4. 転送するファイル名を選択します。

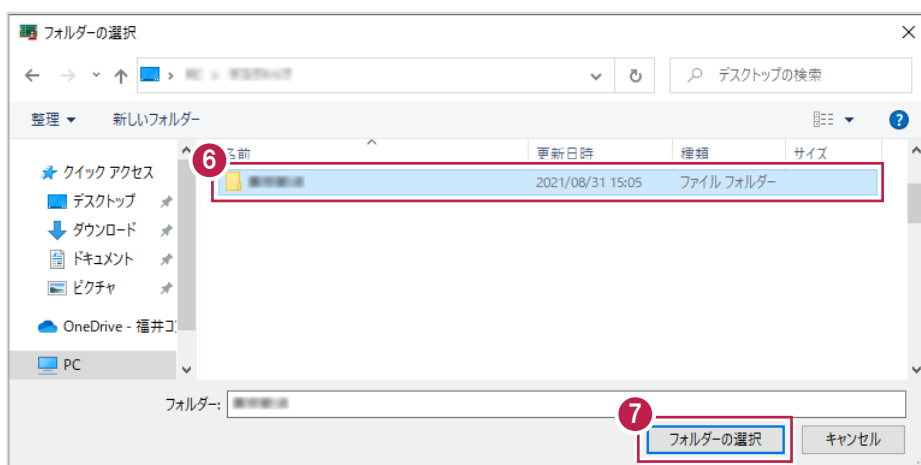
5. [OK] をクリックします。



デジタルカメラ「RICOH G900」が接続されている場合に選択できます。接続しているのに選択できない場合は「保存先を選択」でカメラに挿入している「SDカード名」、もしくは「RICOHDCI」「RICOHDCX」を選択してください。

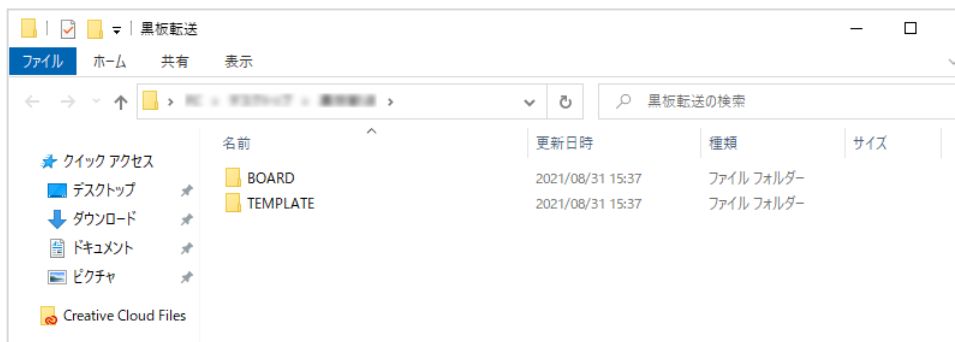
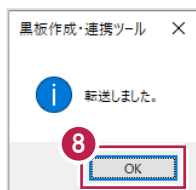
6. 出力先のフォルダーを選択します。

7. [フォルダーの選択] をクリックします。



8. [OK] をクリックします。

指定したフォルダーが開き、出力したデータが確認できます。



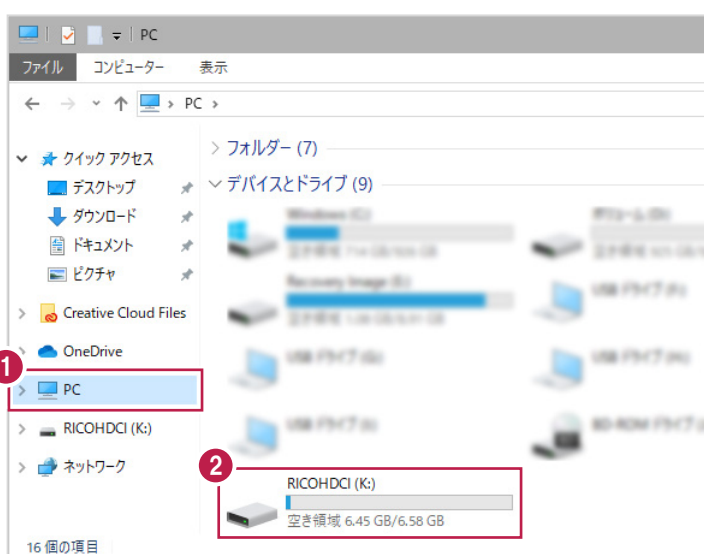
USB 接続で黒板データの転送が失敗する場合

USBで接続したデジタルカメラ「RICOH G900」への黒板データの転送が失敗する場合は、以下を確認してください。

●PCのエクスプローラーでデジタルカメラ「RICOH G900」内のファイルが確認できますか？

正しくUSB接続されている場合は、PCのエクスプローラーでデジタルカメラ「RICOH G900」内のファイルが確認できます。以下の操作で確認してください。

1. USB接続した状態でPCのエクスプローラーを開き、[PC] をクリックします。
2. [デバイスとドライブ] にデジタルカメラのストレージ（挿入している「SDカード名」、もしくは「RICOHDCI」、 「RICOHDCX」）が表示されれば、正しく接続されています。



PCのエクスプローラーで

- ・デジタルカメラのストレージ（挿入している「SDカード名」など）が表示されない
- ・エクスプローラーでは正常に見えるが、転送に失敗する

等の場合は、以下を確認してください。

●デジタルカメラ「RICOH G900」の電源は入っていますか？

デジタルカメラ「RICOH G900」の電源がオフになっていると転送できません。電源を入れてください。

●デジタルカメラ「RICOH G900」の設定 [USB接続] は「MSC」になっていますか？

メモリーカードや内蔵メモリーの画像をPCにコピーするときは「**MSC**」を選択する必要があります。

●正常なUSBケーブルで接続していますか？

「充電専用」のUSBケーブルでは転送できません。

また、USBケーブルの不具合の可能性もあるので、他のUSBケーブルで接続してください。

2-15 レイアウトを作成する

レイアウトを作成します。

1. [レイアウト作成] をクリックします。



2. 黒板レイアウト作成ツールが開き、新規レイアウトを作成することができます。
黒板レイアウト作成ツールの詳細は、「黒板レイアウト作成」の各ヘルプを参照してください。

2-16 黒板作成・連携ツールの設定を行う

ツリー階層や黒板リスト、利用する撮影アプリ・機器等の設定を行います。

1. [設定] をクリックします。

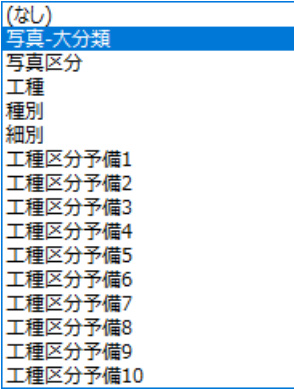
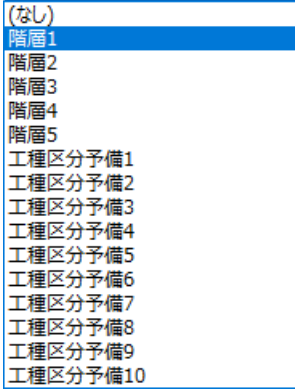
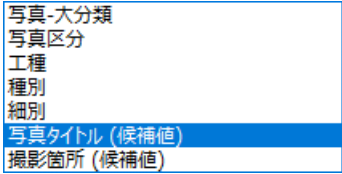
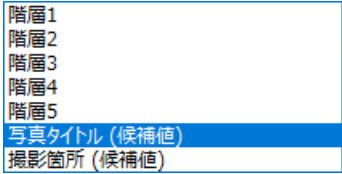



2. ツリー階層や黒板リスト、利用する撮影アプリ・機器等を設定します。

3. [OK] をクリックします。



■ 設定ダイアログの説明

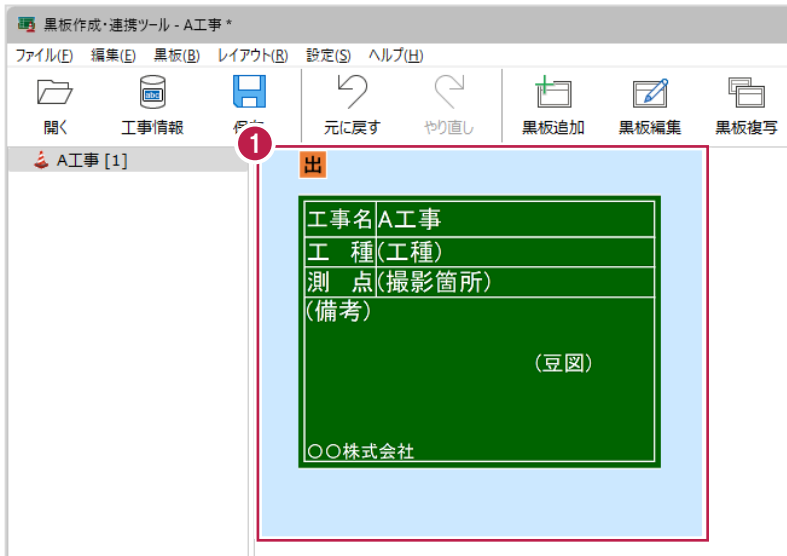
項目	内容
ツリー階層	<p>分類ツリーの何階層目にどの項目を表示するかを設定します。 複数の階層に同じ項目を設定することはできません。</p> <p>《営繕表記オフの場合》</p>  <p>《営繕表記オンの場合》</p> 
黒板リスト	<p>【タイトル】：黒板一覧の黒板サムネイル下部に表示する文字列を設定します。 ※ [黒板設定] で設定している文字列が表示されます。</p> <p>《営繕表記オフの場合》</p>  <p>《営繕表記オンの場合》</p>  <p>【表示サイズ】：黒板一覧の黒板サムネイルのサイズを選択します。</p> 

項目	内容
利用する 撮影アプリ・機器	<p>利用する撮影アプリ・機器を選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（左側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）を利用する場合には選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（右側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン ～1.0.1350）を利用する場合には選択します。</p> <p>【RICOH G900】：デジタルカメラ「RICOH G900」を利用する場合には選択します。</p> <p>設定は以下に反映されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板内の表記（文字の書き方・利用できる項目） ・[黒板編集] コマンド内 [レイアウトとして保存] 時のレイアウトの種類 ・[黒板転送] コマンド ・黒板レイアウト作成ツールでの操作 <p>※ 【黒板タイプ】が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。</p>
その他	<p>【下位分類の黒板を表示する】：分類ツリー選択時に、下位分類に属する黒板も表示する場合はオンにします。</p> <p>【営繕表記にする】：オンにすると、各分類の項目名が営繕表記になります。オフにすると、各分類の項目名が土木表記になります。</p> <p>【日付表示】：日付の表示形式を選択します。</p> <p> [利用する撮影アプリ・機器] で 【どこでも写真管理 Plus】（左側） を選択している場合に設定できます。</p>

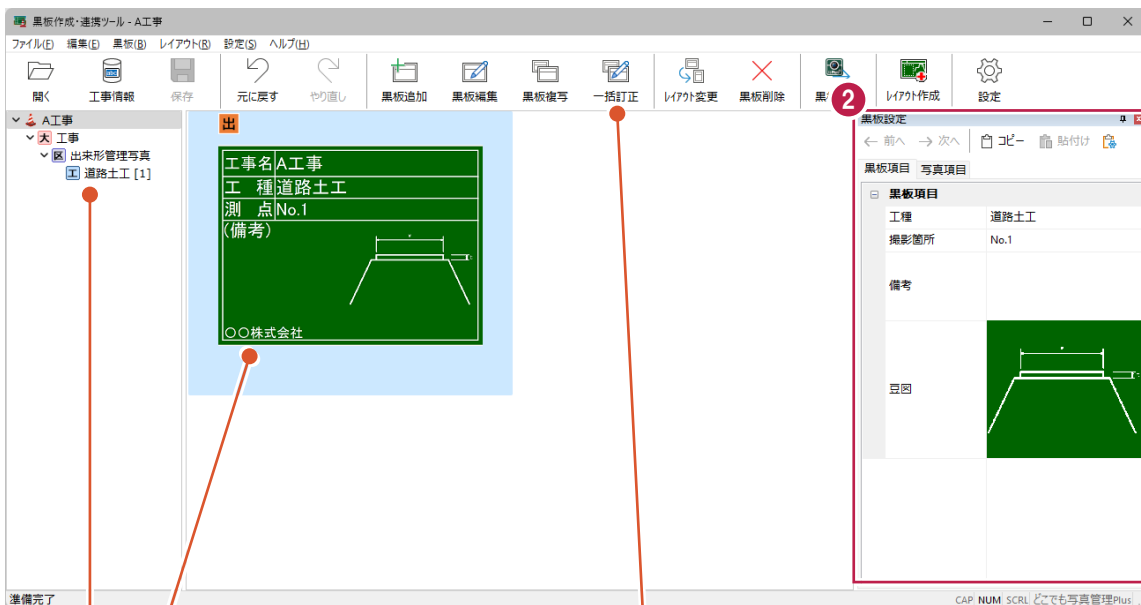
2-17 黒板の情報を設定する

黒板の情報を設定します。

1. 黒板を選択します。



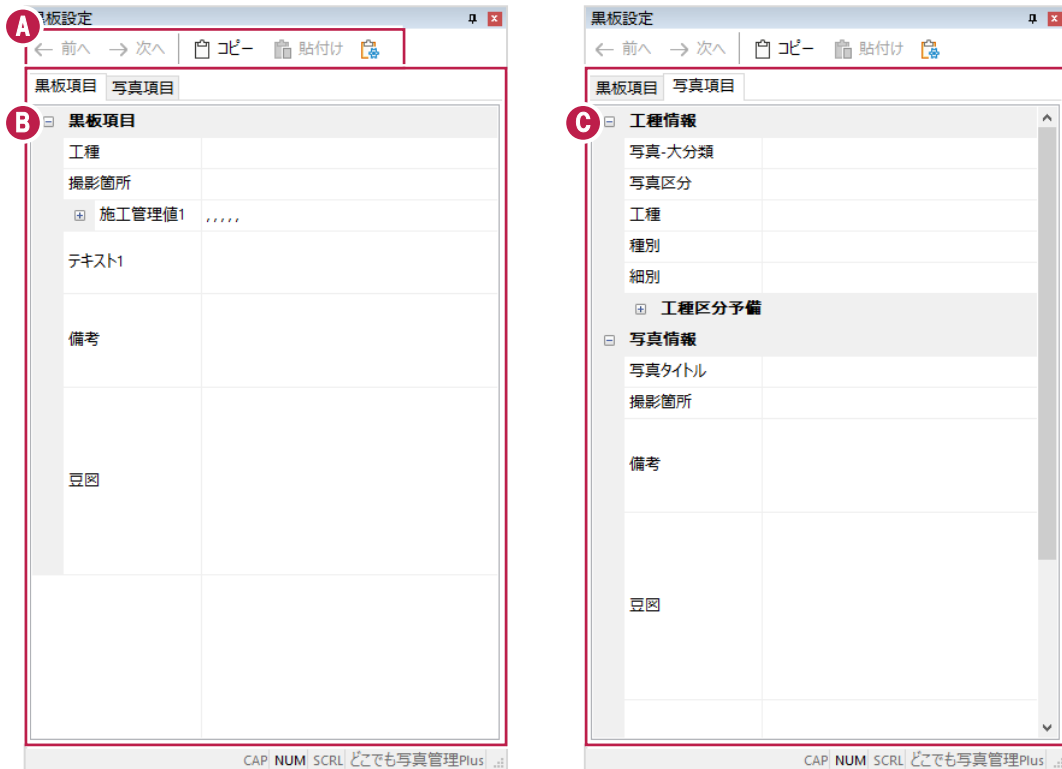
2. メイン画面右側の [黒板設定] で黒板の情報を設定します。



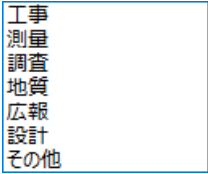
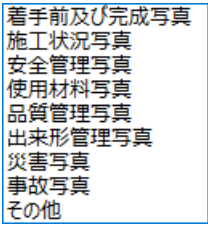
設定した内容は、分類ツリーと黒板サムネイルに反映されます。

[黒板設定] で複数の黒板情報を一括訂正することはできません。一括訂正する場合は [一括訂正] コマンドを使用してください。

■ 黒板設定の説明



記号	項目 1	項目 2	内容
A	ツールバー	前へ	一つ前のサムネイルに移動します。
		次へ	一つ後ろのサムネイルに移動します。
		コピー	B のテキスト情報と C の内容を全てコピーします。
		貼り付け	コピーした内容を選択中の黒板の黒板設定に貼り付けます。 [貼り付け設定] で設定した情報が対象です。
		貼り付け設定	[貼り付け] で貼り付ける情報を選択します。 <div data-bbox="721 1451 1316 1796" data-label="Image"> </div>
			<p>【貼り付ける文字が空の場合は貼り付けない】 オンにすると、コピー元が空欄の場合、貼り付け先に上書きしません。</p>

記号	項目 1	項目 2	内容
B	黒板項目タブ	—	黒板に配置できる項目が表示されます。 入力した内容は C の同じ項目に反映されます。 各項目の入力方法は C を参照してください。
C	写真項目タブ	—	黒板の情報を入力します。 入力した内容は B の同じ項目に反映されます。 ※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、表示されません。
	工種情報	《営繕オフ》 写真-大分類 《営繕オン》 階層 1	写真-大分類（もしくは階層 1）を選択、または入力します。 
		《営繕オフ》 写真区分 《営繕オン》 階層 2	写真区分（もしくは階層 2）を選択、または入力します。 
		《営繕オフ》工種 《営繕オン》階層 3	工種（もしくは階層 3）を入力します。
		《営繕オフ》種別 《営繕オン》階層 4	種別（もしくは階層 4）を入力します。
		《営繕オフ》細別 《営繕オン》階層 5	細別（もしくは階層 5）を入力します。
		工種区分予備	必要に応じて [予備 1] ~ [予備 10] を入力します。
		写真情報	写真タイトル
	撮影箇所		入力部右側の [...] から撮影箇所を設定します。
	備考		入力部右側の [...] から備考を設定します。
	豆図		入力部右側の [...] から豆図などの画像ファイルを選択します。
	受注者説明文		受注者説明文を入力します。

記号	項目 1	項目 2	内容
C	施工管理値 (※ [黒板タイプ] が [出来形] の場合のみ)	項目 1~10	以下で入力した内容が反映されます。
		項目名	項目名を入力します。
		記号	記号を入力します。
		設計値	設計値を入力します。
		実測値	実測値を入力します。
		単位	単位・差の単位を選択、または入力します。
		差の単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> m cm mm % ‰ 割 分 ℃ 個 本 枚 t/cm2 kg/cm2 kN/mm2 N/mm2 g/mm3 l </div>
コンクリート (※ [黒板タイプ] が [コンクリート] の場合のみ)	配合	コンクリート材料の割合、使用量を入力します。	
	日毎情報	日毎の情報（打設日、打設時間、打設箇所、打設量、天気）を入力します。	
	温度	温度に関する条件（測定項目名、測定記号、打設温、外気温、養生温、単位）を入力します。 [単位] は温度の入力単位です。「℃」固定です。	
	スランプ	スランプに関する条件（測定項目名、測定記号、測定値 1、測定値 2、測定値 3、測定値平均、単位）を入力します。 [単位] はスランプの入力単位です。「cm」固定です。	
	空気量	空気量に関する条件（測定項目名、測定記号、測定値 1、測定値 2、測定値 3、測定値平均、単位）を入力します。 [単位] は空気量の入力単位です。「%」固定です。	
	圧縮強度	圧縮強度に関する条件（測定項目名、測定記号、重量 1、重量 2、重量 3、最大荷重 1、最大荷重 2、最大荷重 3、測定値 1、測定値 2、測定値 3、測定値平均、試験日、材令、養生方法、単位）を入力します。 [単位] は圧縮強度の入力単位です。「N/mm2」固定です。	
	単位数量	単位数量に関する条件（測定項目名、測定記号、測定値 1、測定値 2、測定値 3、測定値 4、測定値 5、測定値 6、測定値 7、差 1、差 2、差 3、差 4、差 5、差 6、差 7、測定値平均、単位）を入力します。 [単位] は圧縮強度の入力単位です。「kg/m3」固定です。	
	塩分	塩分に関する条件（測定項目名、測定記号、測定値 1、塩分量 1、測定値 2、塩分量 2、測定値 3、塩分量 3、測定値平均、塩分量平均、単位数量、測定値単位、塩分量単位）を入力します。 [測定値単位] は「%」固定です。 [塩分量単位] は「kg/m3」固定です。	

■ 写真タイトル・撮影箇所・備考の設定

【写真タイトル】 【撮影箇所】 【備考】 は項目をクリックした際に表示される入力部右側の [...] から設定します。
ここでは、【撮影箇所】 を例に説明します。

※設定方法は【写真タイトル】 【備考】 も同様です。



項目	内容
追加	撮影箇所を入力して [追加] をクリックすると、一覧に追加します。
この黒板で利用する「撮影箇所」一覧	選択しているものが黒板サムネイル、黒板タイトル、黒板設定に表示されます。 ※ 【撮影箇所】 の場合は、複数登録すると黒板タイトルと黒板設定は以下のように表示されます。 2つ登録：（上の項目）, （下の項目） 3つ以上登録：（一番上の項目）～（一番下の項目） ※ 【写真タイトル】 【備考】 の場合は、選択しているもののみ表示されます。
一括追加	撮影箇所を一括で追加します。 ※ 【写真タイトル】 【備考】 では表示されません。
削除	一覧で選択した撮影箇所を削除します。
上へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ上に移動します。
下へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ下に移動します。
OK	一覧に表示されている撮影箇所を一括訂正ダイアログに設定します。
キャンセル	一括訂正ダイアログに戻ります。

■ 一括追加（〔撮影箇所〕のみ）

撮影箇所を一括で追加します。

項目	内容
測点名称	測点名の先頭の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
測点番号名称	測点名の末尾の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
開始 No	No 杭の連番の開始番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
終了 No	No 杭の連番の終了番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
作成ピッチ	No 杭の連番の増分を入力します。（No.5L+10AB、No.6L …… の赤部分）
+杭	+杭を作成する場合はオンにします。 ※〔作成ピッチ〕の値が「1」のときのみ設定可能です。 〔No 杭間隔〕 ：No 杭の間隔の距離を入力します。 この距離は、+杭を計算するときに使用されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分） 〔+杭間隔〕 ：+杭の間隔の距離を入力します。 この距離と上記〔No 杭間隔〕の距離から+杭が計算されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分） 〔+杭名称〕 ：+杭の末尾の固定部分を入力します。 （No.5L+10AB …… の赤部分）
作成タイプ	〔+杭優先〕 ：No 杭が+杭で割り切れない場合に、+杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1+10、No.1+30 〔No 杭優先〕 ：No 杭が+杭で割り切れない場合に、No 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1、No.1+20、No.1+40
プレビュー	作成される測点が表示されます。 確認しながら条件を設定してください。

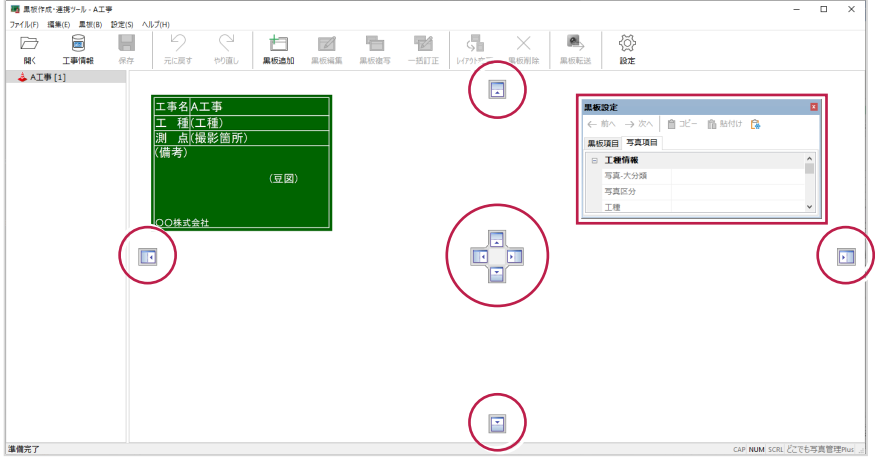

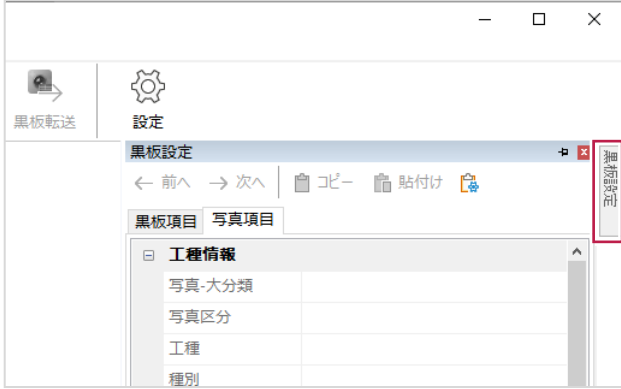


■ 豆図の設定

〔豆図〕 は項目をクリックした際に表示される入力部右側の […] から設定します。



項目	内容
黒板に選択済みの豆図ファイルを解除	豆図ファイル選択ダイアログを閉じて、黒板に設定した豆図を解除します。
フォルダー選択	〔豆図データ管理から取得〕や〔クリップボード画像を取得〕で取得した豆図ファイルの保存先フォルダーを選択します。 フォルダー内の画像（拡張子「jpg」「png」「bmp」）が豆図ファイル一覧に表示されます。
豆図ファイル一覧	〔豆図〕に設定する豆図ファイルを選択します。
豆図データ管理から取得	〔豆図データ管理〕から豆図を取得して豆図ファイル一覧に表示します。 EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理（Ver.21.1以降）がインストールされている場合に使用できます。 〔豆図データ管理〕での操作については、EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理のヘルプ「豆図データ管理ウィンドウ」を参照してください。
クリップボード画像を取得	クリップボードの画像を取得して豆図ファイル一覧に表示します。 （ビットマップ形式の画像が対象です。）
選択ファイルの削除	豆図ファイル一覧で選択している豆図ファイルを一覧から削除します。

■ 黒板設定ウィンドウの表示

表示方法	内容
フローティング/ ドッキング	<p>ウィンドウのタイトルバーをドラッグ＆ドロップするとウィンドウを移動することができます。タイトル部分をダブルクリックすると元のドッキング位置に戻ります。</p> <p>また、ドラッグ中はドッキングする位置のアイコン（上下左右）が表示されます。アイコンの上でマウスの左ボタンを離すと、指定した位置にドッキングします。</p> 
自動的に隠す	<p>タイトルバー右側の  をクリックすると、ウィンドウを自動的に隠します。</p> <p>画面右側に表示される「黒板設定」タブにマウスカーソルを移動すると、ウィンドウを開くことができます。</p>  <p> をクリックすると、固定表示に戻ります。</p>
非表示	<p>タイトルバー右側の  をクリックすると、ウィンドウが閉じます。</p> <p>再度ウィンドウを表示する場合は、メニューバーの「設定」タブ「黒板設定」ウィンドウ表示」をオンにしてください。</p>

2-18 メイン画面を終了する

メイン画面を終了します。

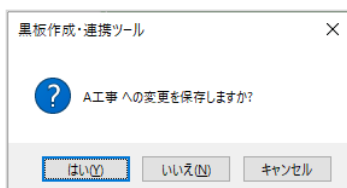
1. メニューバーの [ファイル] タブをクリックします。
2. [アプリケーションの終了] をクリックします。
メイン画面が終了して、工事管理画面に戻ります。



補足

編集したデータを保存していない場合

編集したデータを保存していない場合は、保存確認メッセージが表示されます。
保存するときは [はい]、データを破棄するときは [いいえ] をクリックしてください。



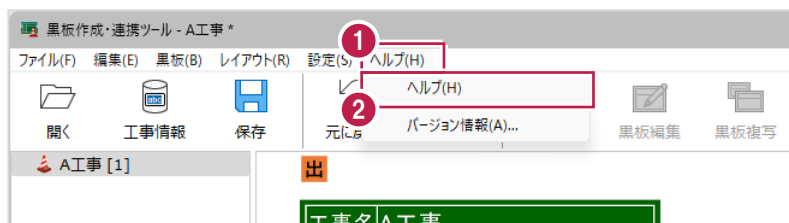
2-19 ヘルプを確認する

ヘルプを確認します。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。

2. [ヘルプ] をクリックします。

ヘルプが表示されます。



2-21 使用するプロテクトの形式を選択する

黒板作成・連携ツールを使用するのに必要なプロテクトの形式を選択します。

プロテクトを接続している部分と設定が合わない場合、アプリケーションが正常に動作しません。

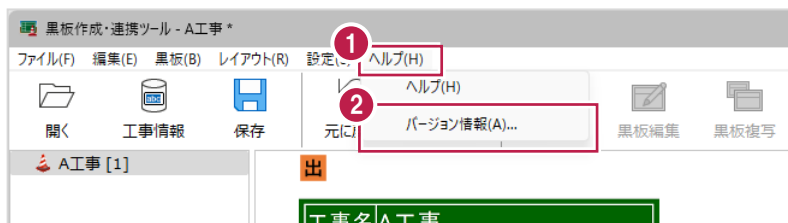
黒板作成・連携ツールを起動したとき、設定した接続先にプロテクトがない場合は、プロテクト設定ダイアログが表示されます。

この操作は、黒板作成・連携ツールの起動中にプロテクトを変更するときの解説です。

プロテクト設定を変更した場合は、アプリケーションの再起動が必要です。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。

2. [バージョン情報] をクリックします。



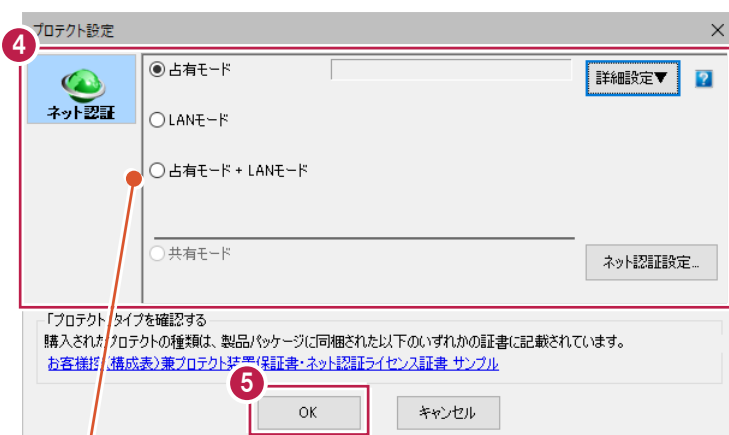
3. [ターゲット設定] をクリックします。



4. 使用するプロテクトの形式を選択します。

5. [OK] をクリックします。

※設定はアプリケーションの再起動後に有効になります。



LANモードを選択した場合、アプリケーションを同時に起動できる人数は、ご購入されたアプリケーションのライセンス数に依存しますので、注意してください。

3

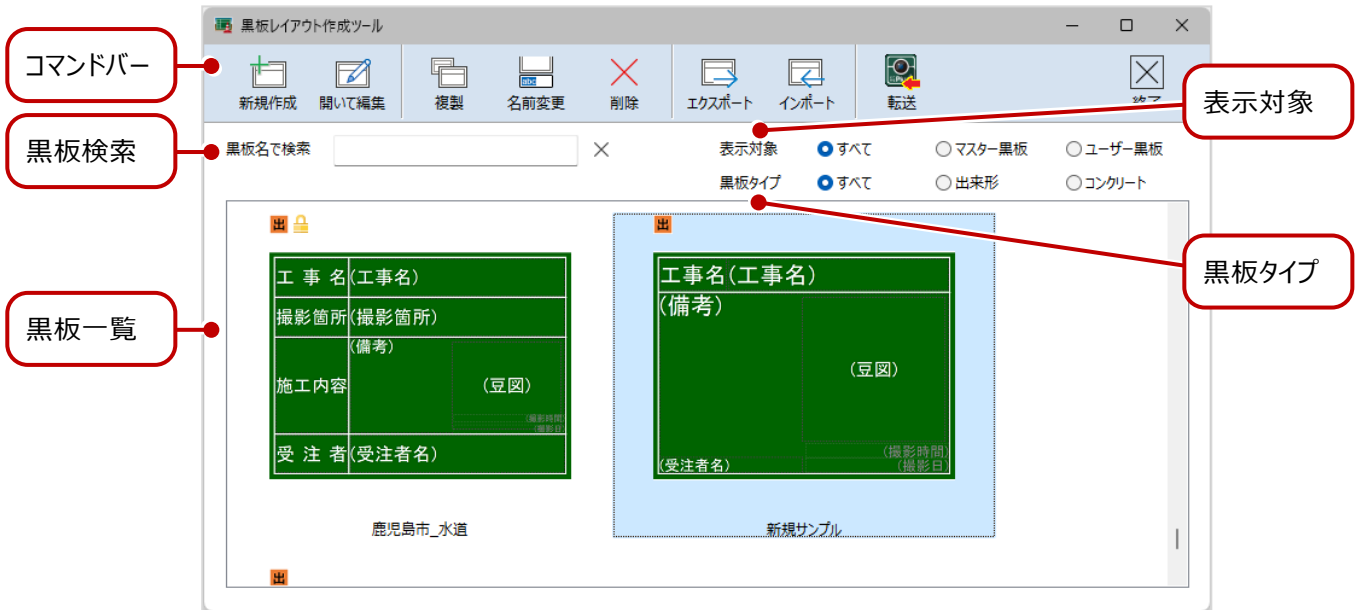
黒板レイアウト作成







黒板レイアウト作成について解説します。

3-1 黒板レイアウト作成画面の説明

黒板レイアウト作成画面について説明します。

※黒板レイアウト作成画面は、黒板レイアウト選択ダイアログの [作成] から起動します。



項目	内容
コマンドバー	黒板レイアウト作成で使用するコマンドが並んでいます。
黒板検索	<p>【黒板名で検索】：入力した文字列を含む黒板名を検索し、一致する黒板を黒板一覧に表示します。</p> <p>【×】：検索を終了します。</p>
表示対象	<p>【すべて】：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトとユーザーが作成した黒板レイアウトの両方を表示します。</p> <p>【マスター黒板】：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトを表示します。</p> <p>【ユーザー黒板】：ユーザーが作成した黒板レイアウトを表示します。</p> <p>プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトは左上に「」が表示されます。</p>
黒板タイプ	<p>【すべて】：写真・出来形用の黒板レイアウトとコンクリート専用の黒板レイアウトの両方を表示します。</p> <p>【出来形】：写真・出来形用の黒板レイアウトを表示します。 左上に「」が表示されます。</p> <p>【コンクリート】：コンクリート専用の黒板レイアウトを表示します。 左上に「」が表示されます。</p> <p>※ 【黒板タイプ】 が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。</p>
黒板一覧	<p>【設定】の【利用する撮影アプリ・機器】より編集可能な黒板が表示されます。プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトは左上に「」が表示されます。写真・出来形用の黒板レイアウトの左上には「」、コンクリート専用の黒板レイアウトの左上には「」が表示されます。</p>

3-2 黒板レイアウトを新規作成する

黒板レイアウトを新規作成します。

1. [新規作成] をクリックします。

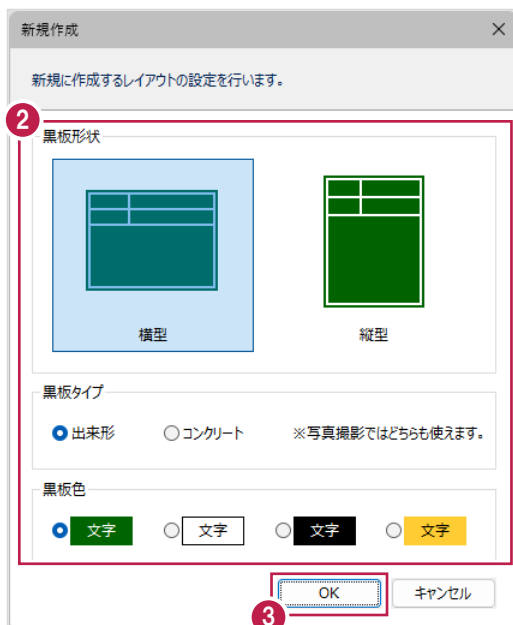


2. [黒板形状] [黒板タイプ] [黒板色] を選択します。

3. [OK] をクリックします。

黒板レイアウト編集画面が表示されます。

編集方法は「黒板レイアウト編集」の各ヘルプを参照してください。



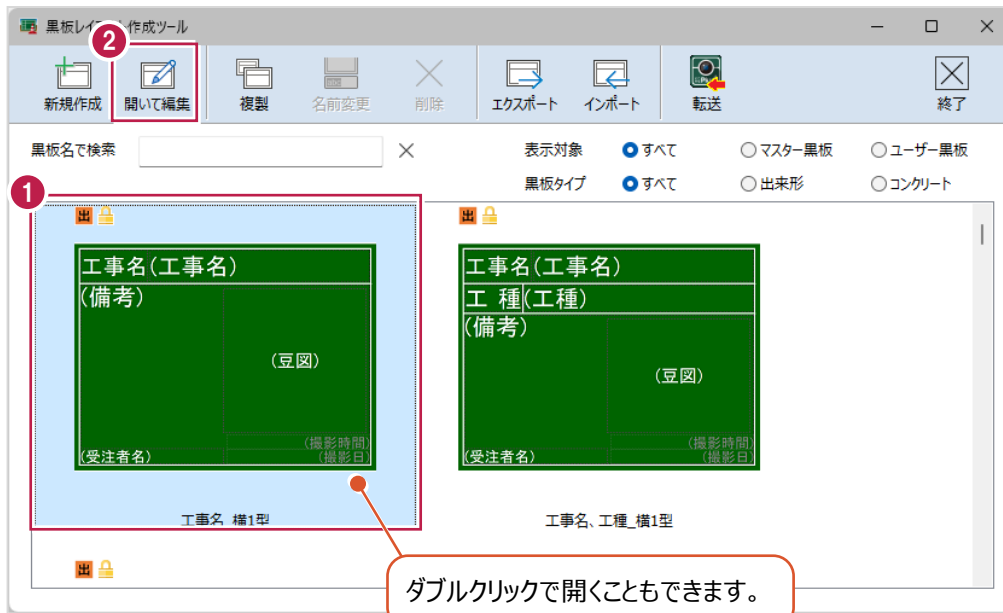
3-3 黒板レイアウトを編集する

黒板レイアウトを編集します。

1. 黒板レイアウトを選択します。
2. [開いて編集] をクリックします。

黒板レイアウト編集画面が表示されます。

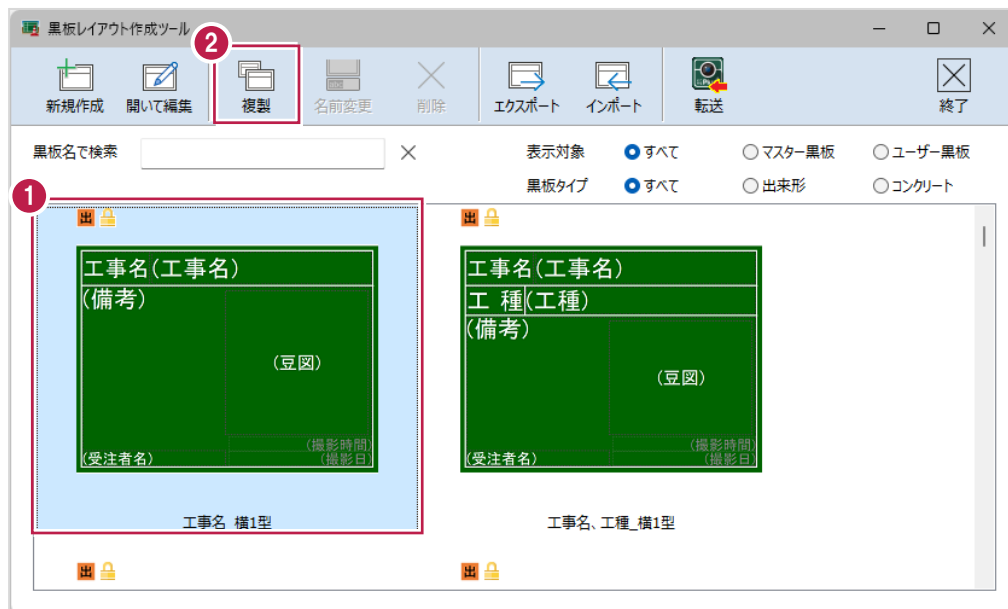
編集方法は「黒板レイアウト編集」の各ヘルプを参照してください。



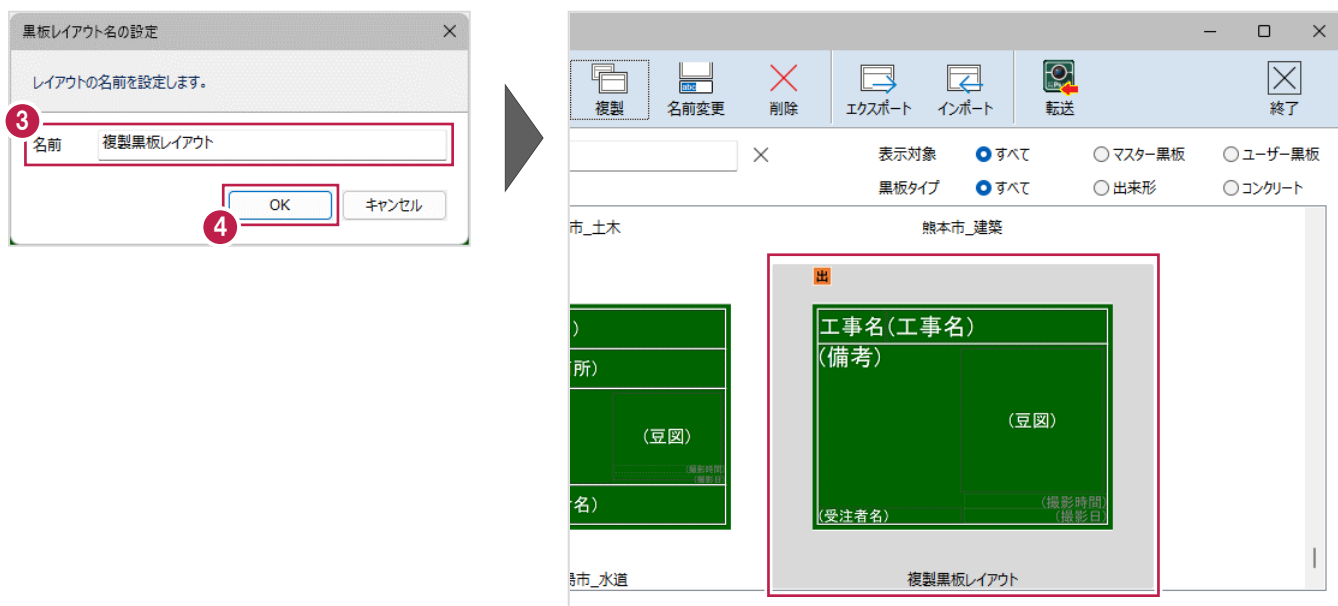
3-4 黒板レイアウトを複製する

黒板レイアウトを複製します。

1. 黒板レイアウトを選択します。
2. [複製] をクリックします。



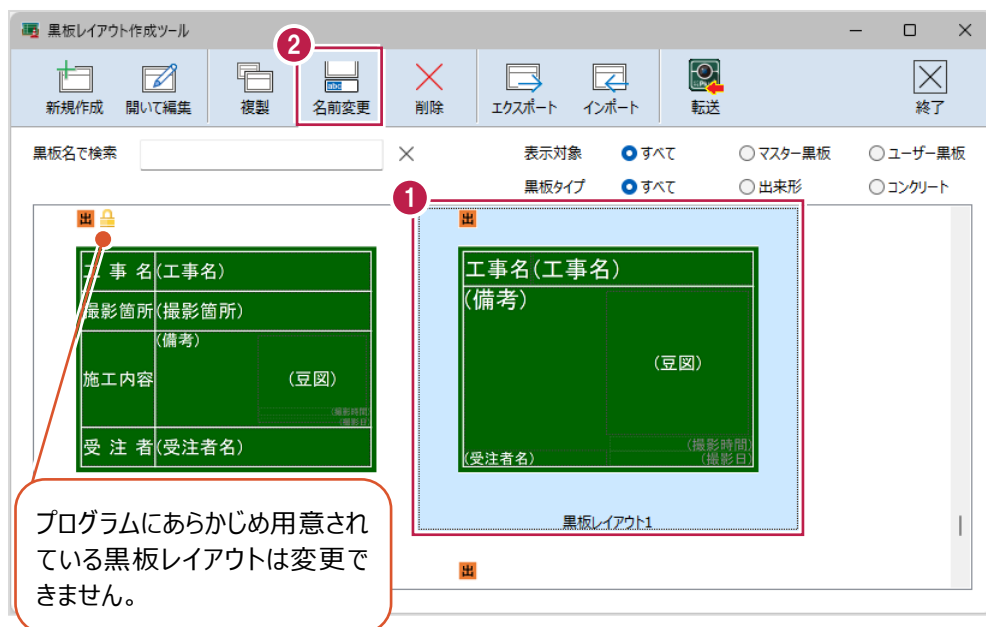
3. [名前] を入力します。
 4. [OK] をクリックします。
- 黒板レイアウトが複製されます。



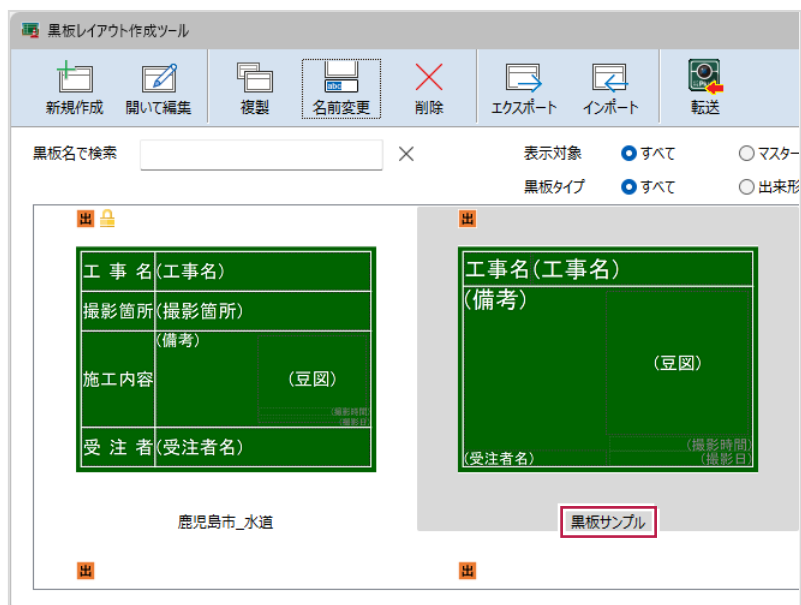
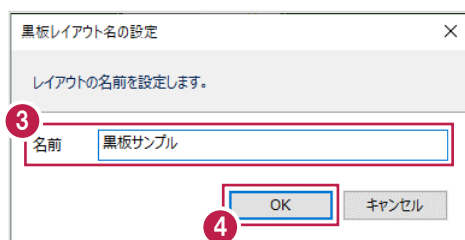
3-5 黒板レイアウトの名前を変更する

黒板レイアウトの名前を変更します。

1. 黒板レイアウトを選択します。
2. [名前変更] をクリックします。



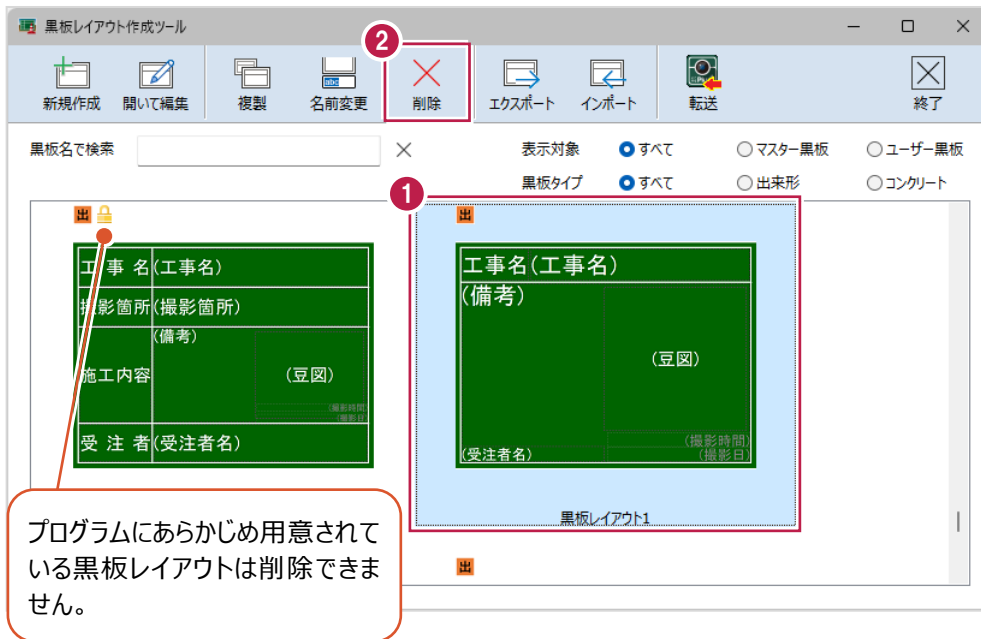
3. [名前] を入力します。
 4. [OK] をクリックします。
- 黒板レイアウトの名前が変更されます。



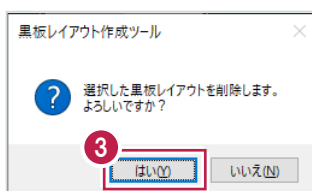
3-6 黒板レイアウトを削除する

黒板レイアウトを削除します。

1. 黒板レイアウトを選択します。
2. [削除] をクリックします。



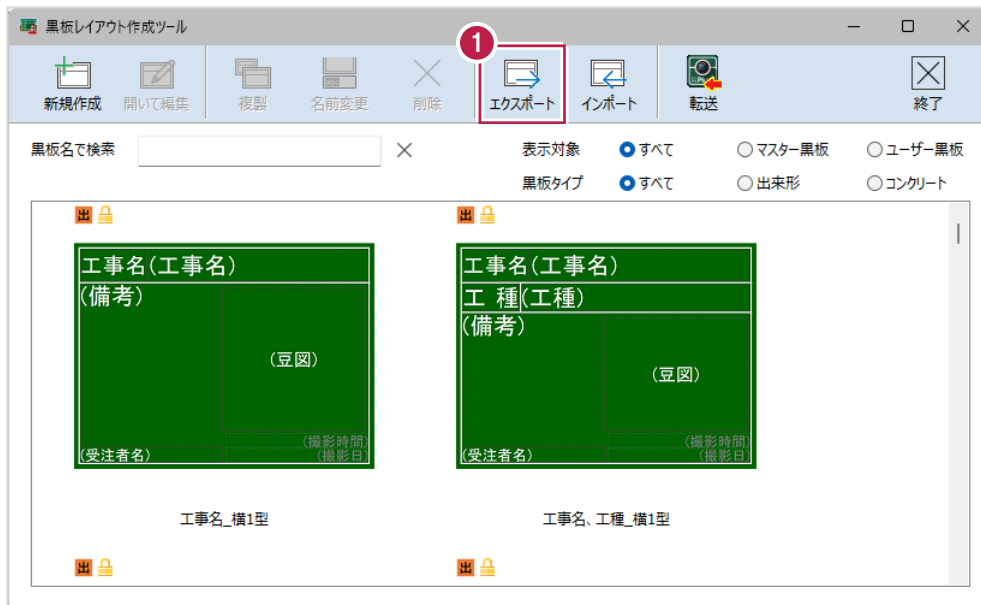
3. [はい] をクリックします。
黒板レイアウトが削除されます。



3-7 黒板レイアウトをエクスポートする

黒板レイアウトをエクスポートします。

1. [エクスポート] をクリックします。



2. エクスポートする黒板レイアウトのチェックをオンにします。

※複数選択することもできます。

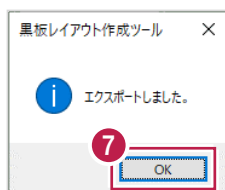
3. [実行] をクリックします。



4. 保存先を選択します。
5. ファイル名を入力します。
6. [保存] をクリックします。



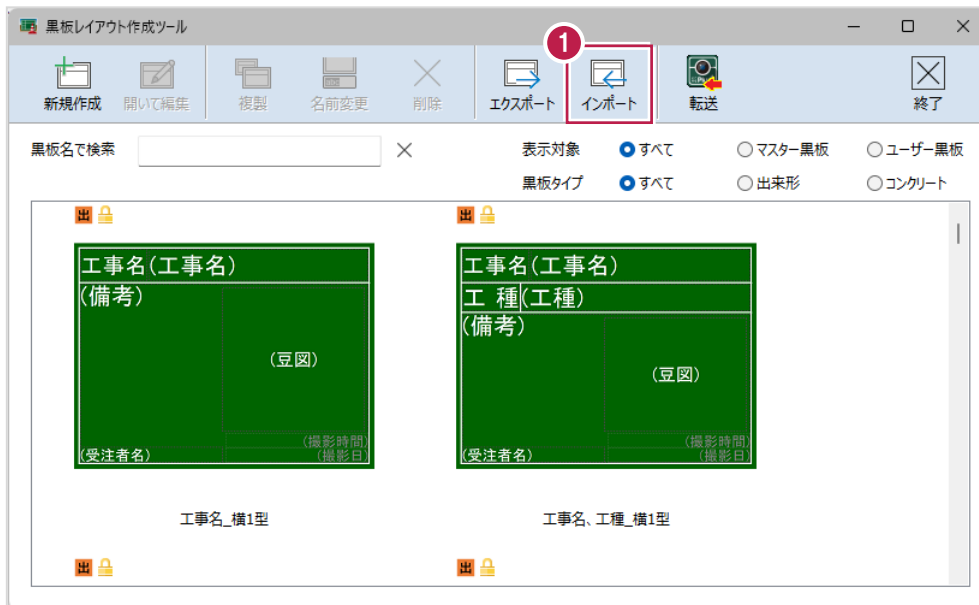
7. [OK] をクリックします。
指定したフォルダーが開き、ファイルが確認できます。



3-8 黒板レイアウトをインポートする

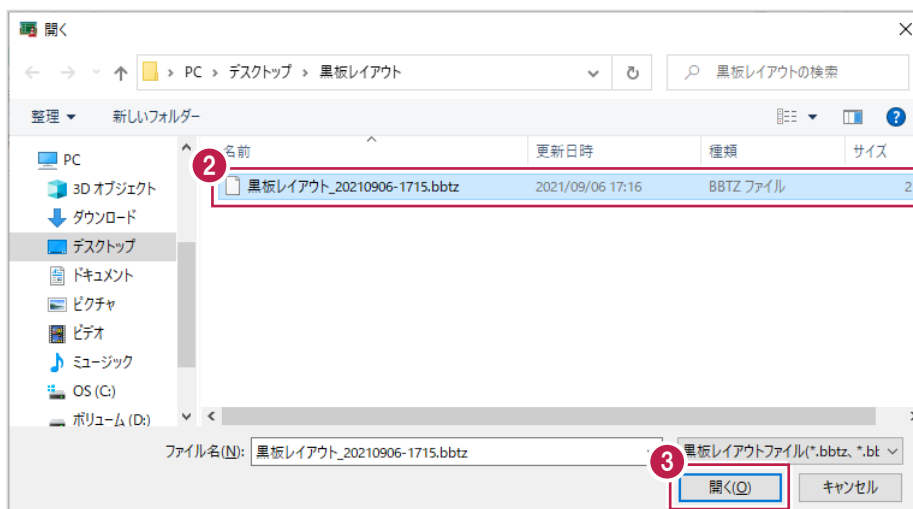
黒板レイアウトをインポートします。

1. [インポート] をクリックします。



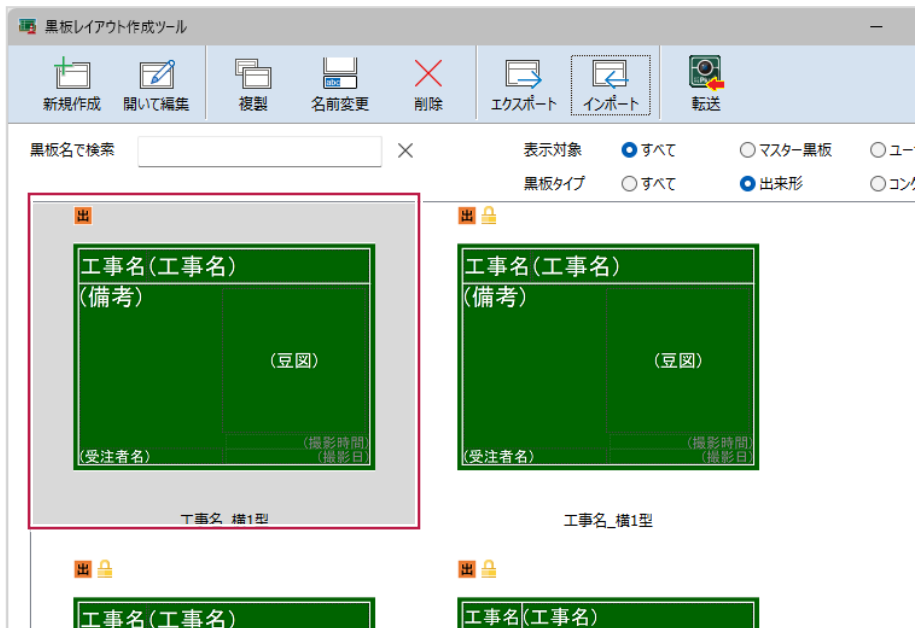
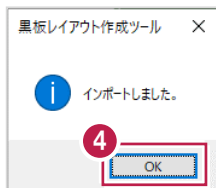
2. エクスポートしたファイルを選択します。

3. [開く] をクリックします。



4. [OK] をクリックします。

黒板レイアウトが取り込まれます。



3-9 黒板レイアウトを「どこでも写真管理Plus」に転送する

黒板レイアウトを「どこでも写真管理Plus」アプリに転送します。

転送する方法は3通りあります。

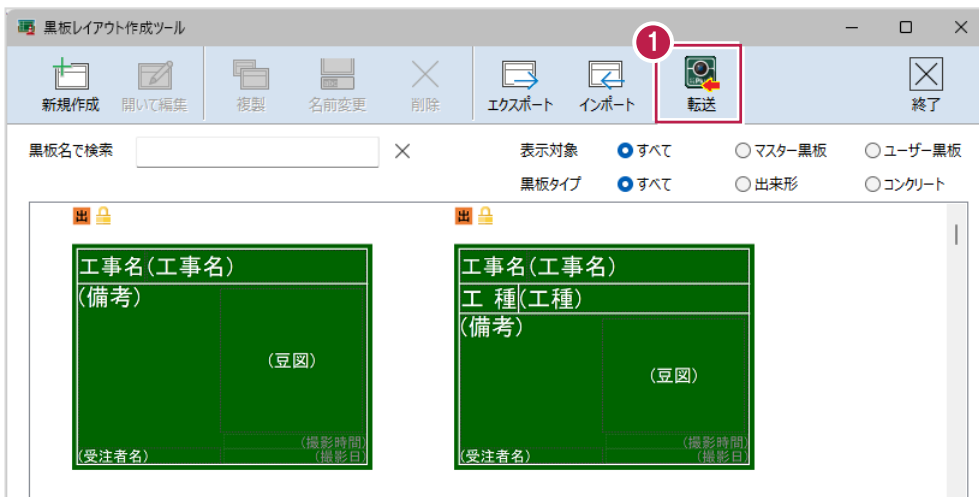
- ・USBで接続する（Android版のみ）
- ・CIMPHONY Plusを使用する（Android版・iOS版 共通）
- ・iTunesを使用する（iOS版のみ）

■ USBで接続する（Android版のみ）

USBで接続して黒板を転送します。

事前にPCとスマホをUSBで接続して操作してください。

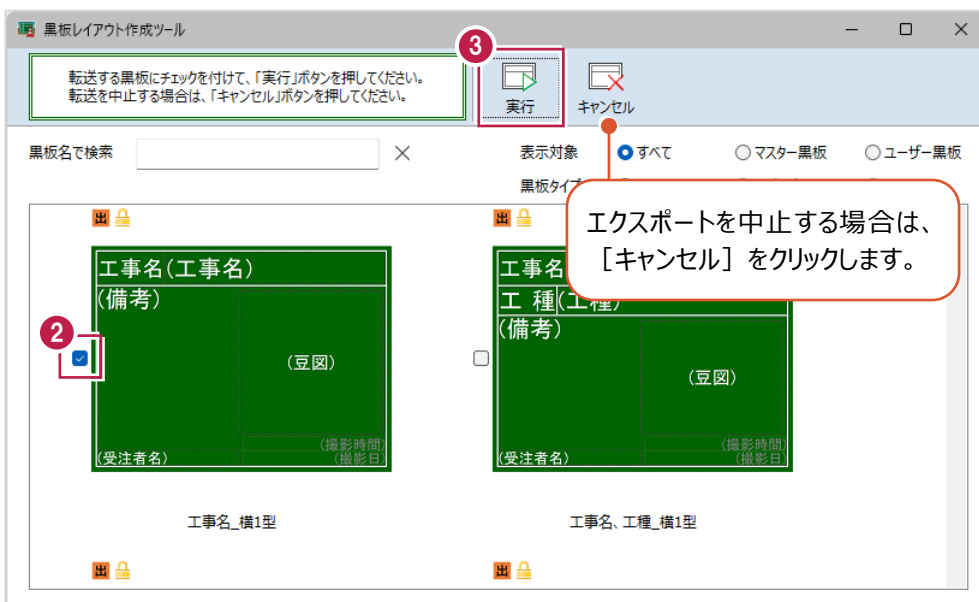
1. [転送] をクリックします。



2. 転送する黒板レイアウトのチェックをオンにします。

※複数選択することもできます。

3. [実行] をクリックします。



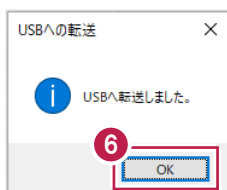
4. 接続先は [USB] を選択します。

5. [OK] をクリックします。



6. [OK] をクリックします。

ファイルが転送されます。



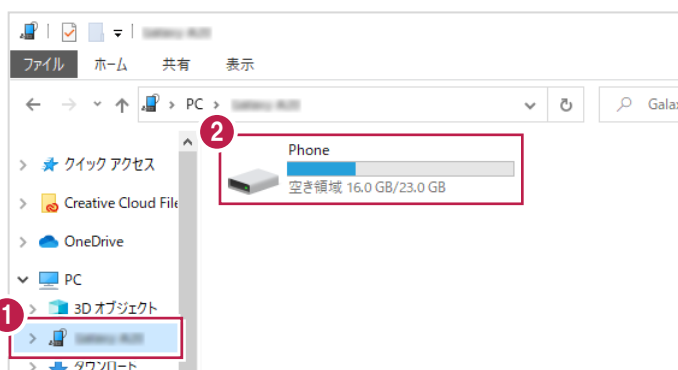
USB 接続でデータの転送が失敗する場合

USBで接続したスマートフォンへのデータの転送が失敗する場合は、以下を確認してください。

●PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できますか？

正しくUSB接続されている場合は、PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できます。
以下の操作で確認してください。

1. USB接続した状態でPCのエクスプローラーを開き、[PC] の下層にある「接続したスマートフォン名」をクリックします。
2. スマートフォン内の「Phone（内部ストレージ）」が表示されれば、正しく接続されています。



PCのエクスプローラーで

- ・接続したスマートフォン名が表示されない
- ・スマートフォン名をクリックしても何も表示されない
- ・エクスプローラーでは正常に見えるが、転送に失敗する

等の場合は、以下を確認してください。

●スマートフォンの電源は入っていますか？

スマートフォンの電源がオフになっていると転送できません。
電源を入れてください。

●スマートフォンが画面ロックされていませんか？

スマートフォンがパスワードやパターンなどで画面ロックされていると転送できません。
画面ロックを解除してください。

●正常なUSBケーブルで接続していますか？

「充電専用」のUSBケーブルでは転送できません。
また、USBケーブルの不具合の可能性もあるので、他のUSBケーブルで接続してください。

●どこでも写真管理Plusが起動していませんか？

スマートフォンで【どこでも写真管理Plus】が起動している場合は、終了してください。

●スマートフォンにSDカードが入っていませんか？

スマートフォンにSDカードが入っていると転送が失敗する場合があります。
SDカードのマウントを解除してください。

(次ページへ続きます)

● USB接続が【充電】モードになっていませんか？

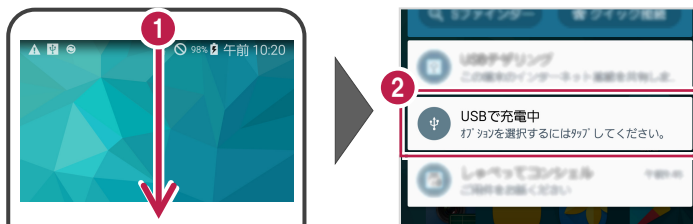
スマートフォン側のUSB接続が【充電】モードになっていると転送できません。

以下の操作でUSB接続を【メディアファイルを転送】（MTP接続）に変更してください。

1. USB接続した状態で、スマートフォンの画面上部から下に指をスライド（スワイプ）し、通知領域を表示します。

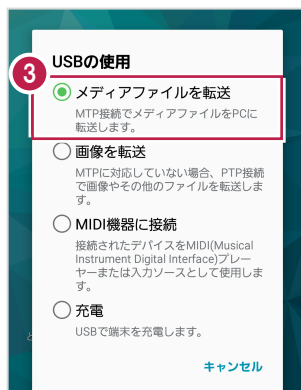
※通知領域のデザインや表示される内容は、スマートフォンにより異なる場合があります。

2. 【USBで充電中】をタップします。



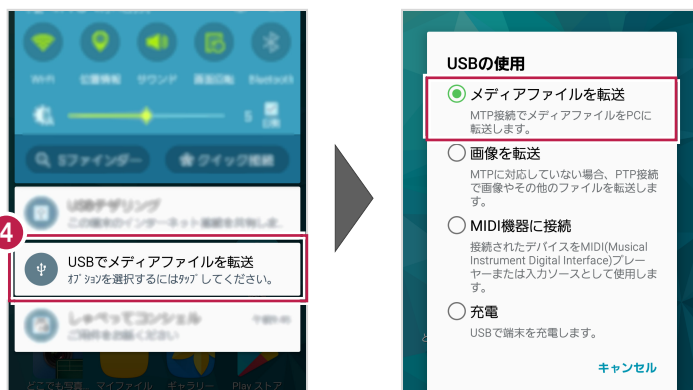
3. 【メディアファイルを転送】をタップします。（MTP接続にします。）

以上の操作で転送できるか試してください。



4. 【メディアファイルを転送】に変更しても転送できない場合は、

同操作で再度【メディアファイルを転送】（MTP接続）を指定し直してください。

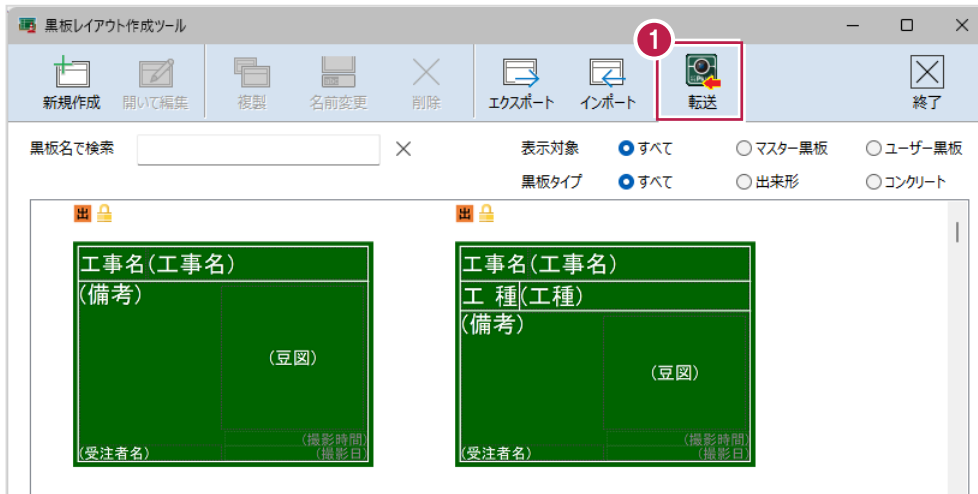


■ CIMPAPHY Plus を使用する (Android 版・iOS 版 共通)

CIMPAPHY Plusを使用して黒板レイアウトを転送します。

CIMPAPHY Plusであらかじめ現場を作成して操作してください。

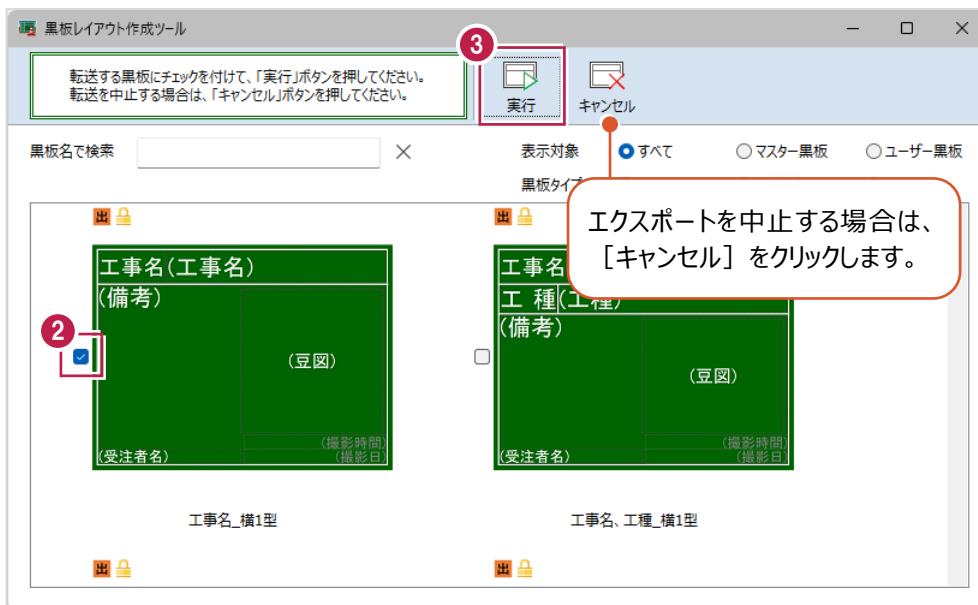
1. [転送] をクリックします。



2. 転送する黒板レイアウトのチェックをオンにします。

※複数選択することもできます。

3. [実行] をクリックします。



4. 接続先は [CIMPHONY Plus] を選択します。

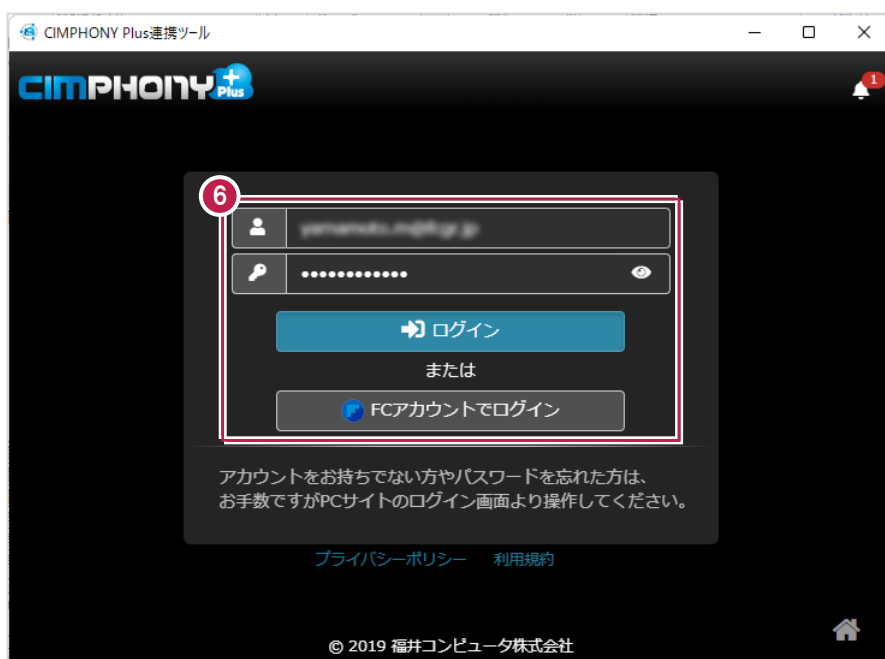
5. [OK] をクリックします。

CIMPHONY Plus連携ツールが起動します。



6. 「メールアドレス」と「パスワード」、または「FCアカウント」でログインします。

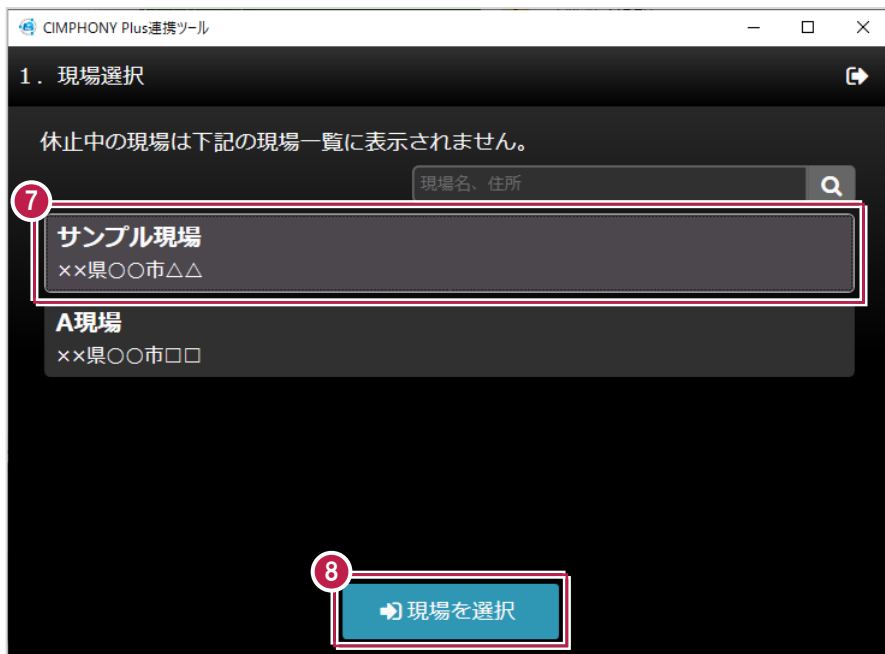
※ログイン後、1ヶ月間は認証情報が保存されます。



7. 現場を選択します。

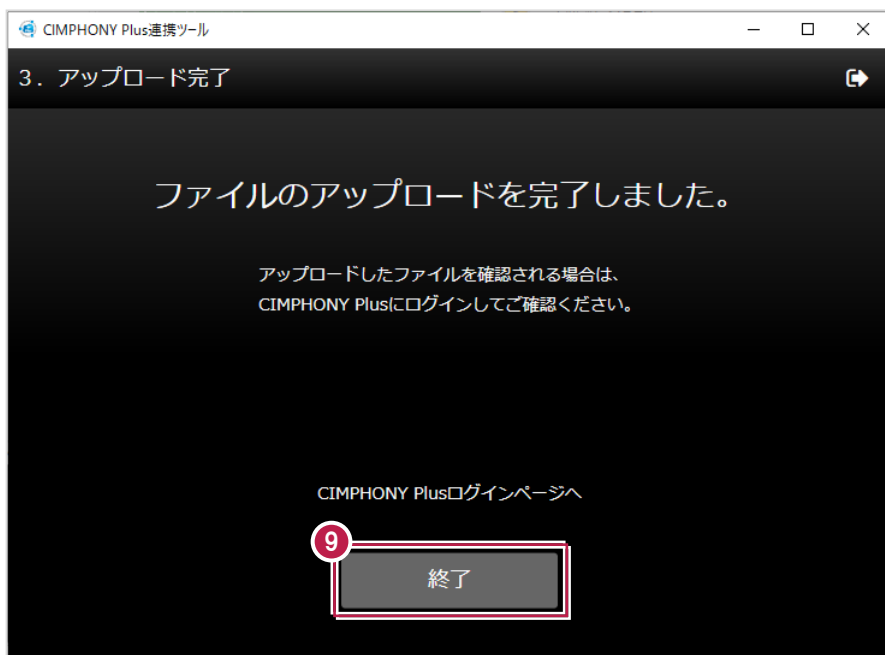
8. [現場を選択] をクリックします。

※工期終了した現場にファイルをアップロードすることはできません。



9. [終了] をクリックします。

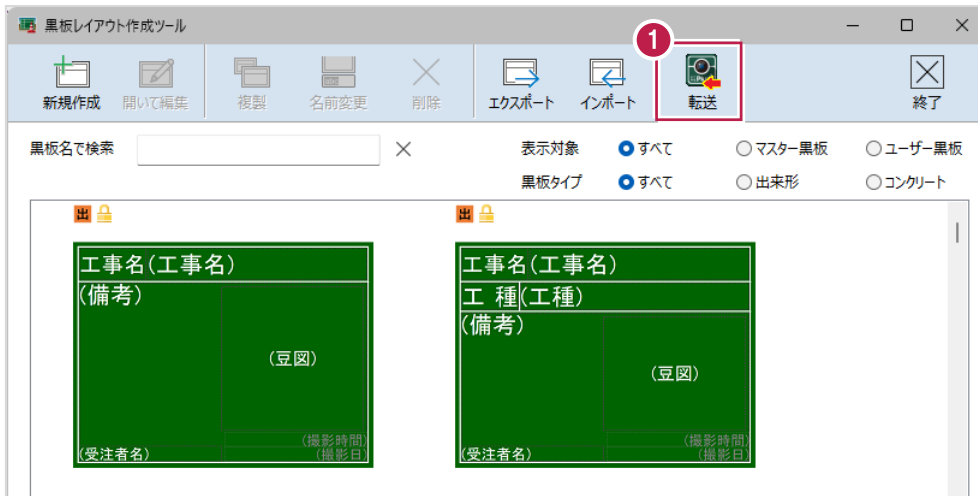
ファイルが転送されます。



■ iTunesを使用する (iOS版のみ)

iTunesを使用して黒板を転送します。

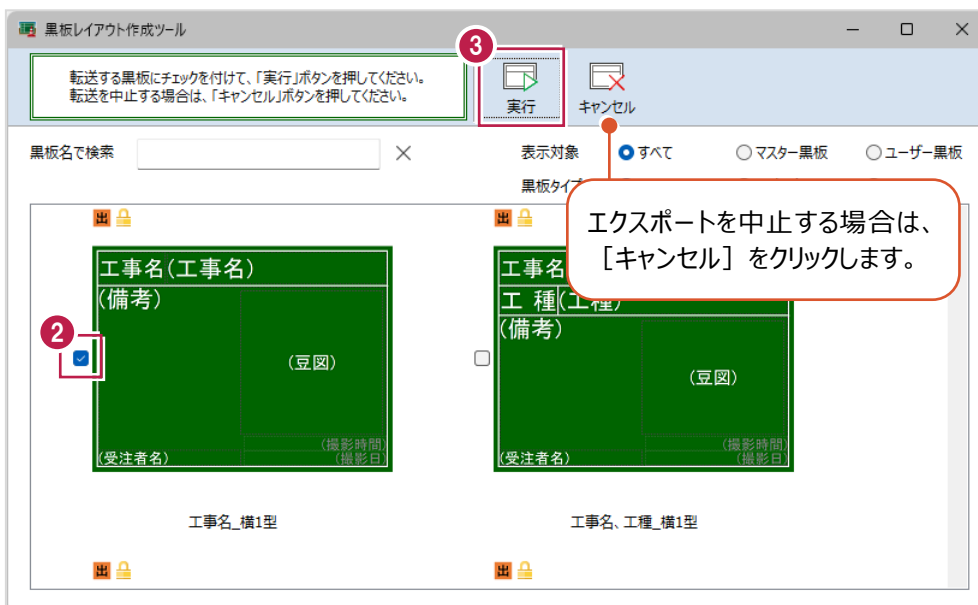
1. [転送] をクリックします。



2. 転送する黒板レイアウトのチェックをオンにします。

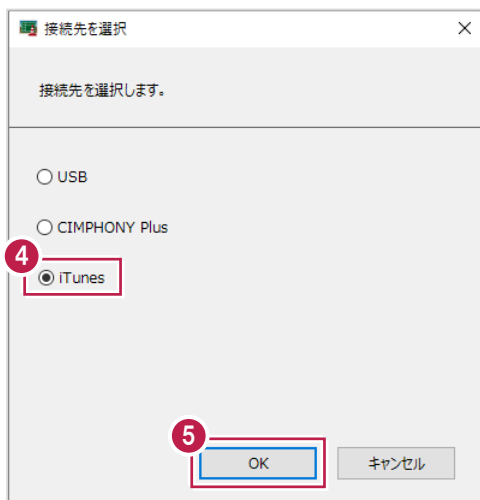
※複数選択することもできます。

3. [実行] をクリックします。



4. 接続先は [iTunes] を選択します。

5. [OK] をクリックします。

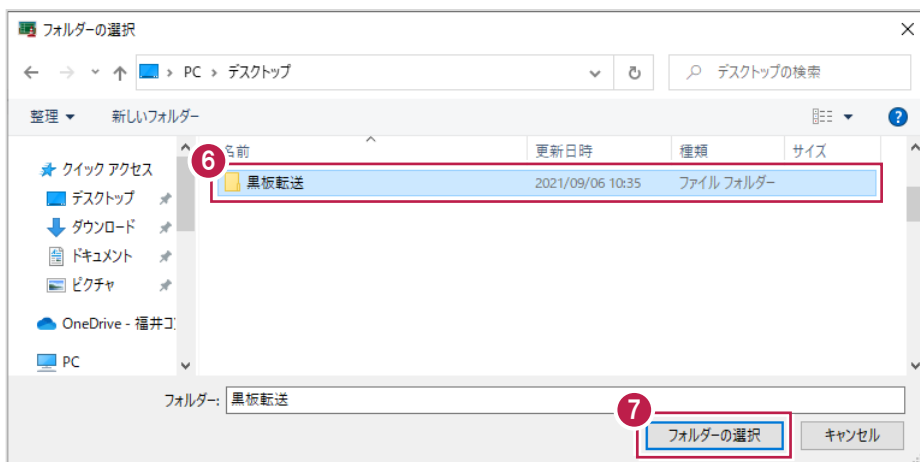


6. 黒板データを一旦PCの任意のフォルダーに出力します。

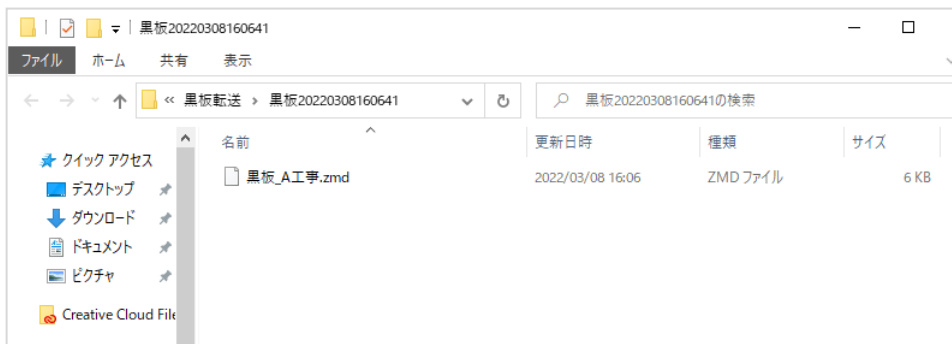
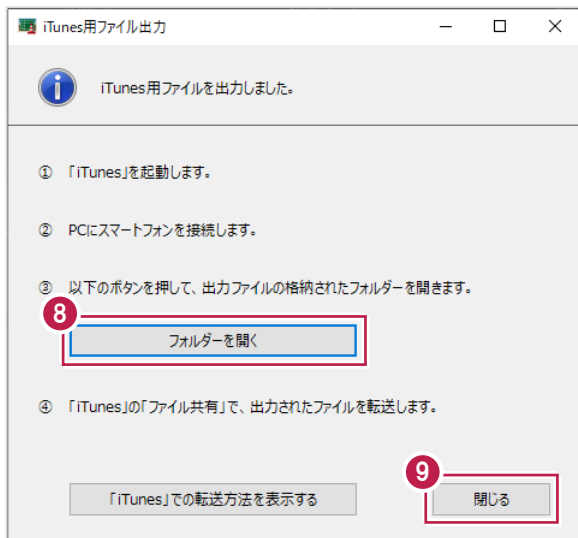
出力先のフォルダーを選択します。

※事前にデスクトップ等、分かりやすい場所にフォルダーを作成しておくことをお勧めします。

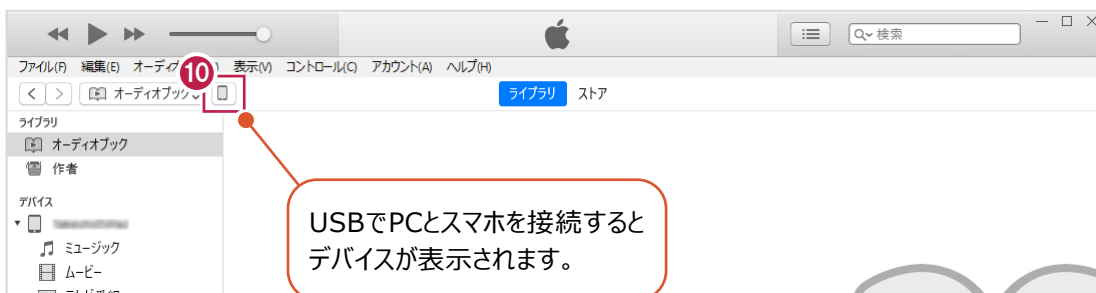
7. [フォルダーの選択] をクリックします。



8. [フォルダーを開く] をクリックします。
出力ファイルの格納されたフォルダーが開きます。
9. [閉じる] をクリックします。



10. PCにインストールされているiTunesを起動し、PCとスマートフォンを接続して、スマホのアイコンをクリックします。

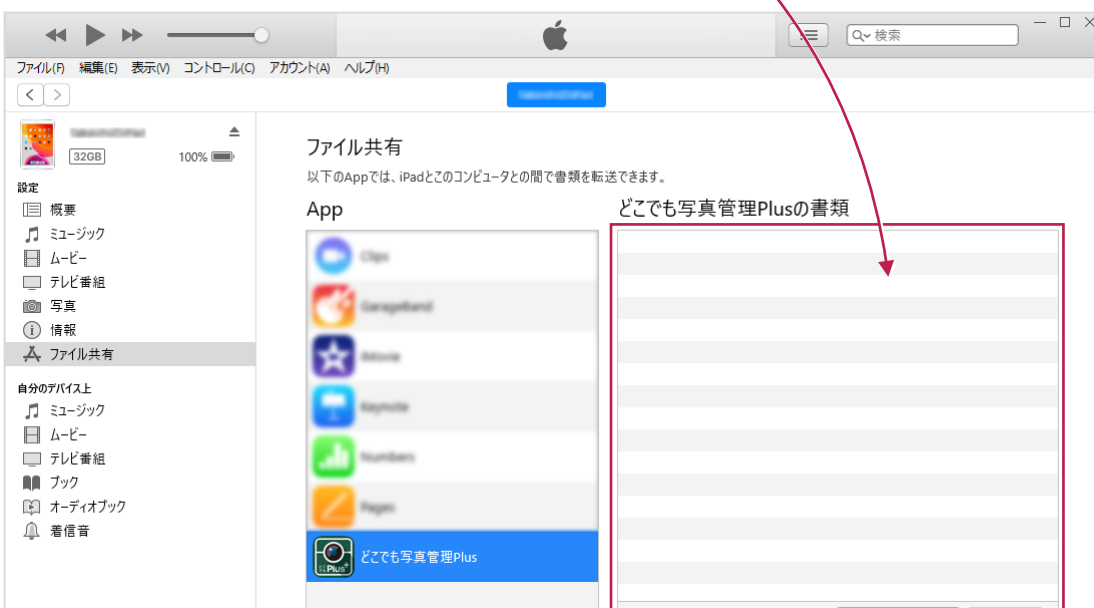
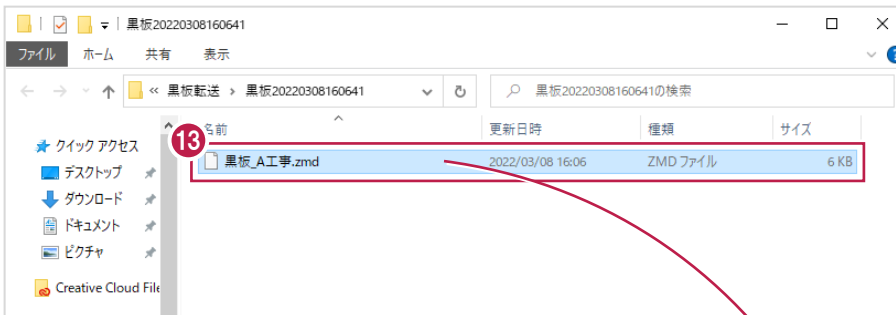


11. [ファイル共有] を選択します。

12. [どこでも写真管理Plus] を選択します。



13. 出力した黒板レイアウトのファイルをiTunesにドラッグ&ドロップします。



14. iTunesに黒板レイアウトが登録されます。

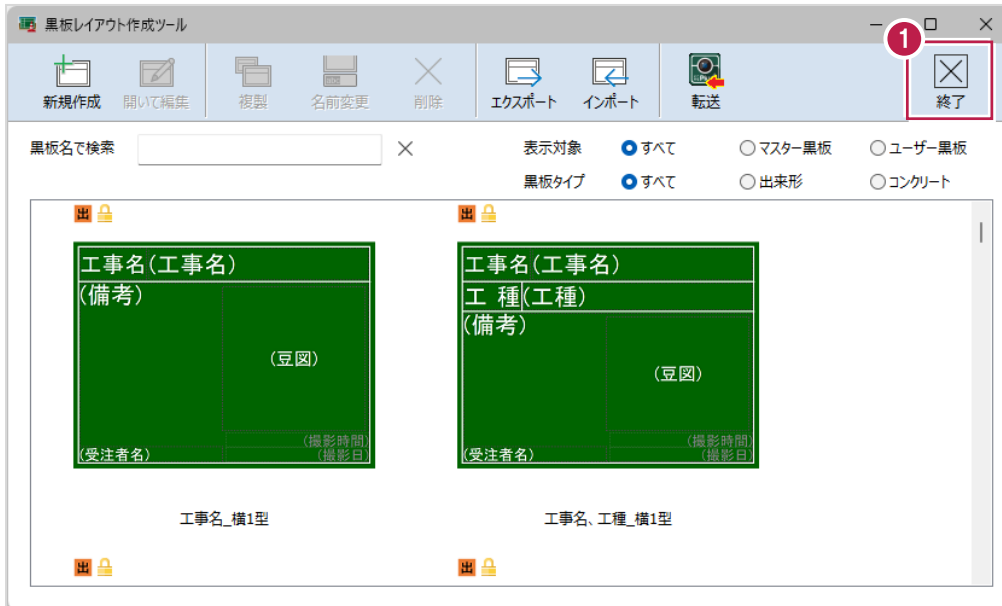


3-10 黒板レイアウト作成画面を終了する

黒板レイアウト作成画面を終了します。

1. [終了] をクリックします。

黒板レイアウト作成画面が終了して、黒板レイアウト選択ダイアログに戻ります。



4

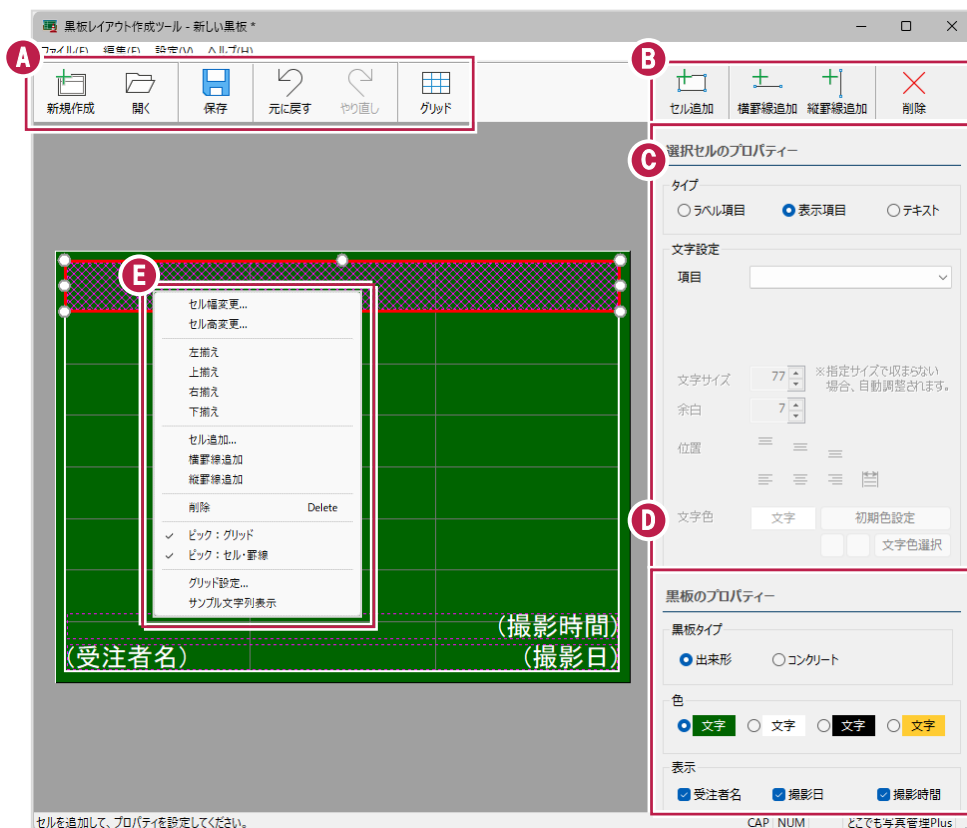
黒板レイアウト編集

黒板レイアウト編集について解説します。

4-1 黒板レイアウト編集画面の説明

黒板レイアウト編集画面について説明します。

※黒板レイアウト編集画面は、黒板レイアウト作成画面の [新規作成] [開いて編集] から起動します。



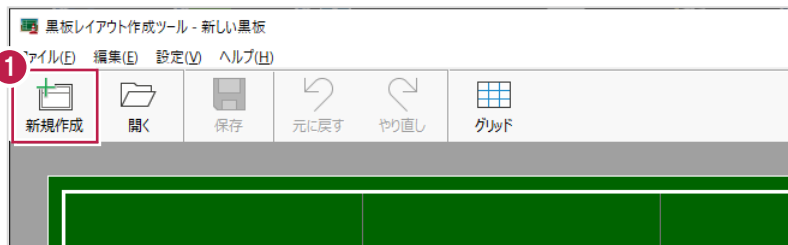
[設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で
選択した撮影アプリ・機器が表示されます。

記号	項目	内容
A	コマンドバー	黒板レイアウト編集画面で使用するコマンドが並んでいます。 コマンドバー上部のメニューバーからコマンドを実行することもできます。
B	セル追加等	セルの追加、罫線の追加、セル・罫線の削除を行います。
C	選択セルのプロパティ	選択したセルのタイプ、文字を設定します。
D	黒板のプロパティ	黒板のタイプ、色、表示する項目を設定します。
E	右クリックメニュー	よく使用するコマンドがまとめられています。 セル幅・高さの変更やセル位置を揃えることもできます。

4-2 黒板レイアウトを新規作成する

黒板レイアウトを新規作成します。

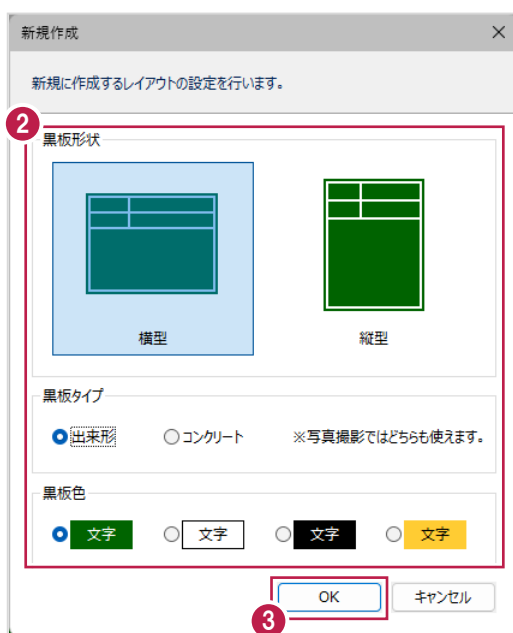
1. [新規作成] をクリックします。



2. [黒板形状] [黒板タイプ] [黒板色] を選択します。

3. [OK] をクリックします。

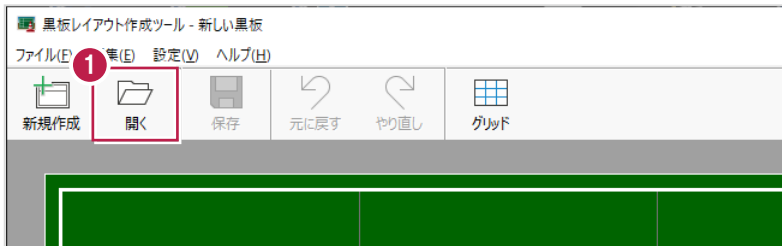
黒板レイアウト編集画面が表示されます。



4-3 黒板レイアウトを開く

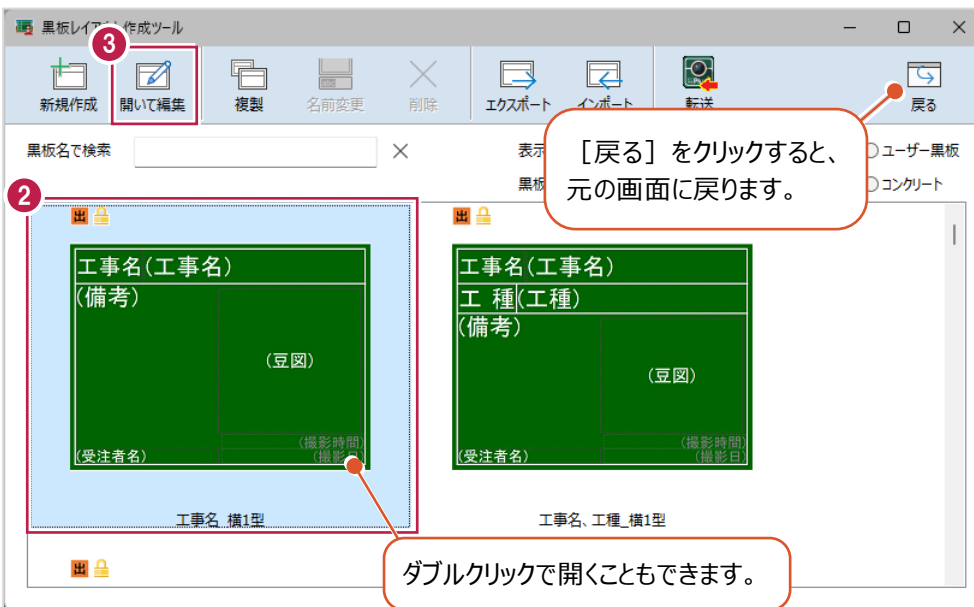
他の黒板レイアウト編集画面を開きます。

1. [開く] をクリックします。



2. 黒板レイアウトを選択します。
3. [開いて編集] をクリックします。

黒板レイアウト編集画面が表示されます。



4-4 黒板レイアウトを保存する

編集中の黒板レイアウトを保存します。

1. [保存] をクリックします。

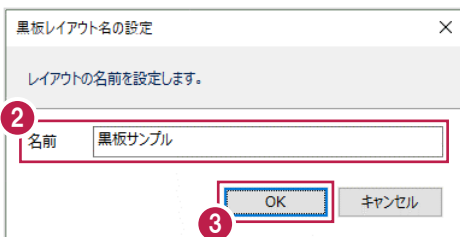
※名前を付けて保存済みの場合は、上書き保存されます。



2. [名前] を入力します。

3. [OK] をクリックします。

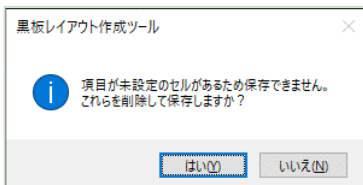
[設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [どこでも写真管理Plus] を選択している場合はどこでも写真管理Plus用、[RICOH G900] を選択している場合はRICOH G900用として保存されます。



補足

項目が未設定のセルがある場合

項目が未設定のセルがある場合は保存できません。



項目が未設定のセルを削除するか、セルに項目を設定してください。



4-5 元に戻す

直前に行った動作を元に戻します。
5回まで戻すことができます。

1. [元に戻す] をクリックします。



4-6 やり直し

【元に戻す】を実行する前の状態に戻します。
5回までやり直すことができます。

1. 【やり直し】をクリックします。



4-7 グリッドの設定を行う

グリッドの設定を行います。

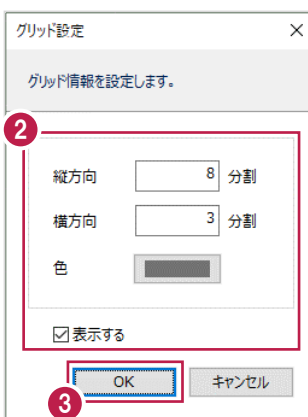
1. [グリッド] をクリックします。



2. 分割数、色、表示する・しないを設定します。

3. [OK] をクリックします。

グリッドが設定されます。



4-8 セルを追加する

セルを追加します。

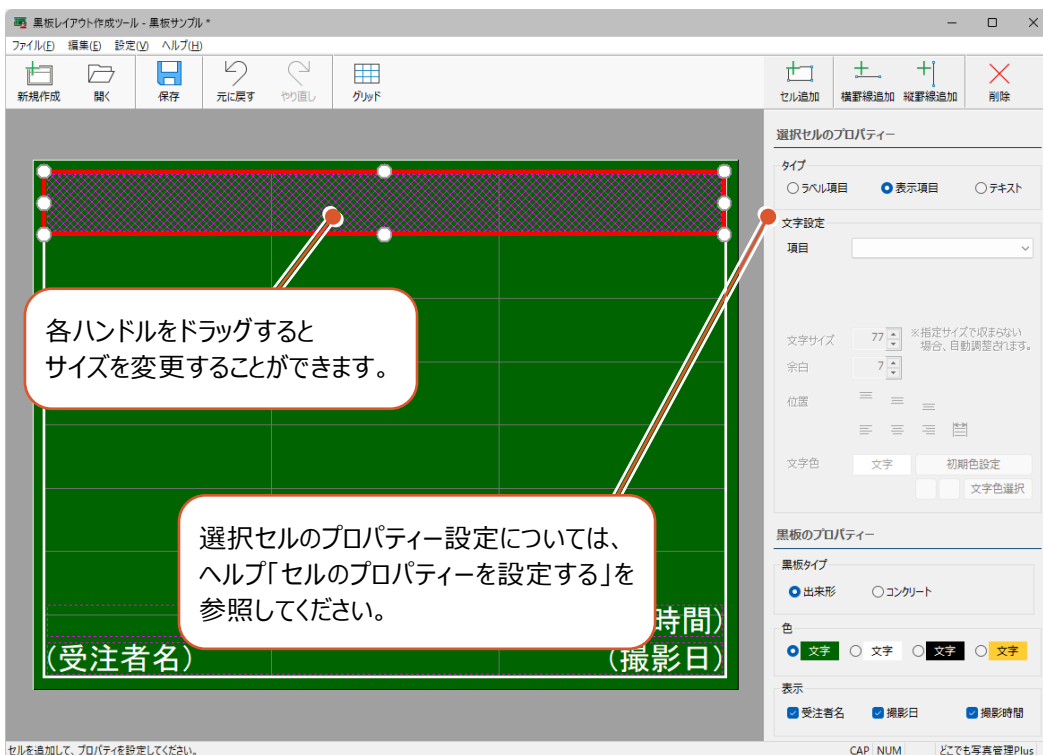
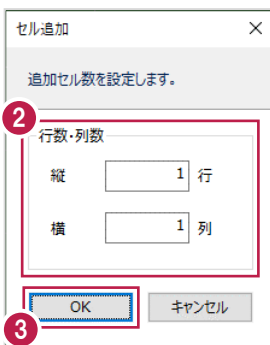
1. [セル追加] をクリックします。



2. 追加するセルの行数・列数を指定します。

3. [OK] をクリックします。

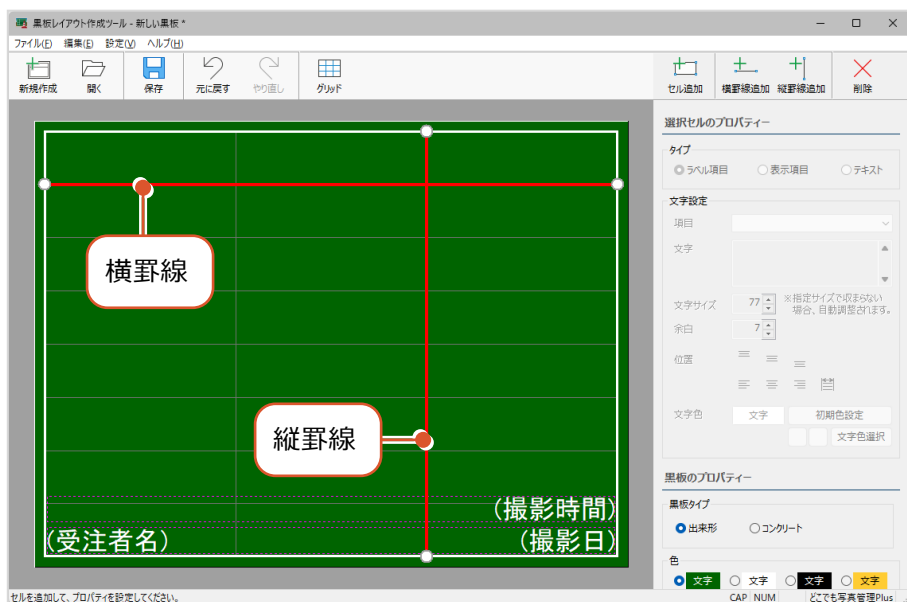
セルが追加されます。



4-9 罫線を追加する

罫線を追加します。

1. 横罫線を追加する場合は「横罫線追加」をクリックします。
縦罫線を追加する場合は「縦罫線追加」をクリックします。
罫線が追加されます。



4-10 セル、罫線を削除する

セル、罫線を削除します。

1. セルまたは罫線を選択します。

2. [削除] をクリックします。

セル、罫線が削除されます。

※deleteキーで削除することもできます。



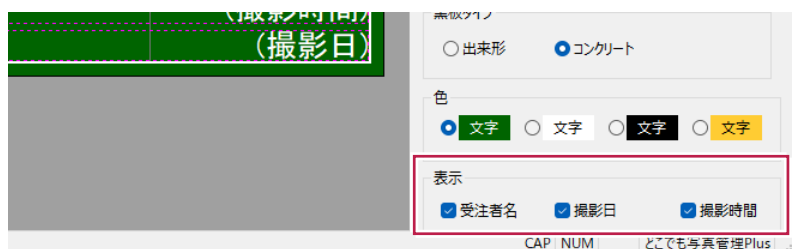
ctrlキーで複数選択することも
できます。

補足

受注者名、撮影日、撮影時間を非表示にする

受注者名、撮影日、撮影時間のセルを削除することはできません。

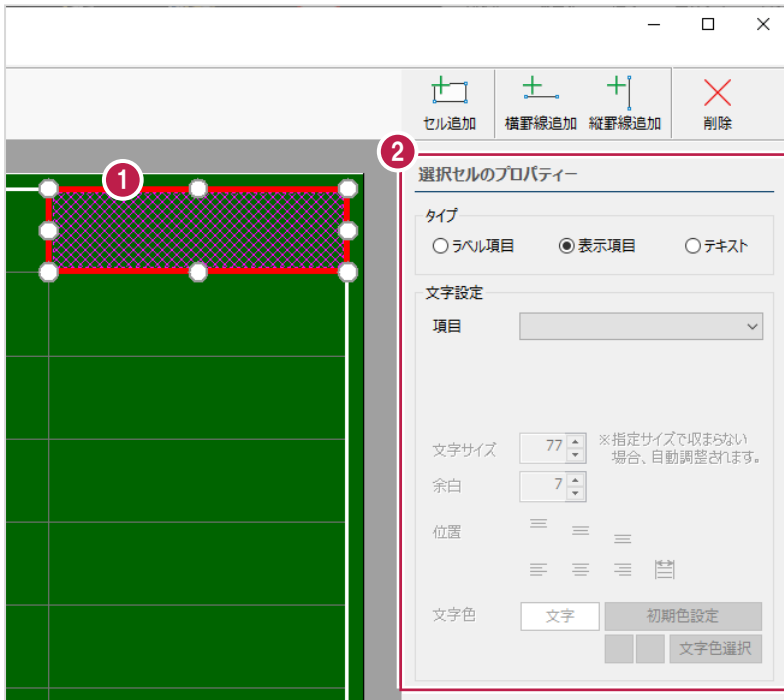
非表示にする場合は、[黒板のプロパティ] の [表示] で [受注者名] [撮影日] [撮影時間] をオフにしてください。



4-11 セルのプロパティーを設定する

セルのプロパティーを設定します。

1. セルを選択します。
2. [選択セルのプロパティー] を設定します。



■ 選択セルのプロパティの説明

[ラベル項目] を選択した場合（黑板タイプ：[出来形] [コンクリート]）

The dialog box is titled '選択セルのプロパティ'. Under the 'タイプ' (Type) section, the 'ラベル項目' radio button is selected and highlighted with a red box. The '文字設定' (Text Settings) section includes a '項目' (Item) dropdown set to 'ラベル01', a '文字' (Text) input field, '文字サイズ' (Text Size) set to 77, '余白' (Margin) set to 7, and '位置' (Position) alignment options. At the bottom, there are '文字色' (Text Color) options: '文字' (Text), '初期色設定' (Initial Color Setting), and '文字色選択' (Text Color Selection).

[表示項目]（黑板タイプ：[出来形]）

The dialog box is titled '選択セルのプロパティ'. Under the 'タイプ' section, the '表示項目' radio button is selected and highlighted with a red box. The '文字設定' section includes a '項目' dropdown set to '写真-大分類', '文字サイズ' set to 77, '余白' set to 7, and '位置' alignment options. At the bottom, there are '文字色' options: '文字', '初期色設定', and '文字色選択'.


[表示項目]（黑板タイプ：[コンクリート]）

黑板タイプで [コンクリート] を選択した場合は [カテゴリ] が表示されます。

The dialog box is titled '選択セルのプロパティ'. Under the 'タイプ' section, the '表示項目' radio button is selected and highlighted with a red box. The '文字設定' section includes a 'カテゴリ' (Category) dropdown set to 'コンクリート: 配合' (highlighted with a red circle), a '項目' dropdown set to '配合', '文字サイズ' set to 77, '余白' set to 7, and '位置' alignment options. At the bottom, there are '文字色' options: '文字', '初期色設定', and '文字色選択'.

[表示項目] [テキスト] を選択した場合（黑板タイプ：[出来形] [コンクリート]）

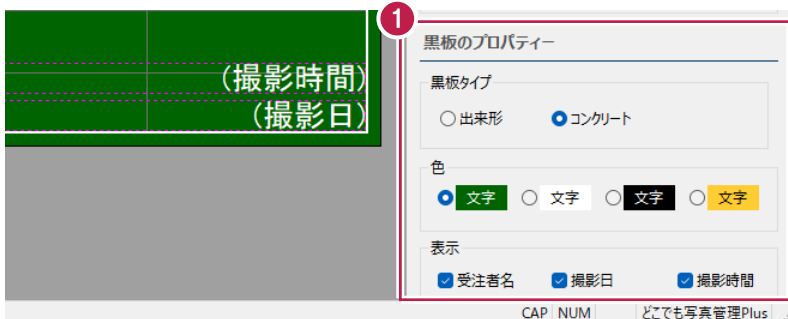
The dialog box is titled '選択セルのプロパティ'. Under the 'タイプ' section, the 'テキスト' radio button is selected and highlighted with a red box. The '文字設定' section includes a '項目' dropdown set to 'テキスト01', '文字サイズ' set to 77, '余白' set to 7, and '位置' alignment options. At the bottom, there are '文字色' options: '文字', '初期色設定', and '文字色選択'.

項目 1	項目 2	内容
タイプ	—	セルのタイプを選択します。 選択したタイプにより [文字設定] で設定できる項目が異なります。 ※ [表示項目] を選択した場合、[項目] を選択後に [文字サイズ] 以下を設定することができます。 ※ [表示項目] の [項目] で [図面ファイル] を選択した場合は、[位置] のみ設定できます。
文字設定	カテゴリー	※黒板タイプで [コンクリート] を選択した場合に表示されます。 [項目] に出来形と共通の項目を表示するか、コンクリート専用の項目を表示するかを選択します。
	項目	項目を選択します。 ※黒板タイプで [コンクリート] を選択した場合は、[カテゴリー] で選択した項目が表示されます。
	文字	表示文字列を入力します。 ※ [表示項目] [テキスト] タイプでは設定できません。
	文字サイズ	文字サイズを指定します。
	余白	余白を指定します。
	位置 (横位置)	文字の横位置を選択します。
	位置 (縦位置)	文字の縦位置を選択します。 ※ [均等割り付け] は [表示項目] [テキスト] タイプでは設定できません。
	文字色	文字色を設定します。  文字 : 設定した文字色を確認します。  初期色設定 : 初期色にします。  文字色選択 : 赤、青、その他の色を選択します。 ※ [ラベル項目] タイプでは設定できません。

4-12 黒板のタイプ、色、表示を設定する

黒板のタイプ色、表示を設定します。

1. [黒板のプロパティ] を設定します。

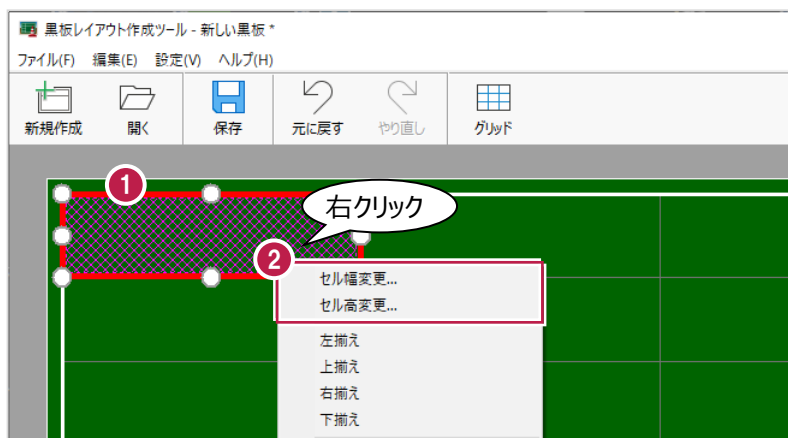


項目	内容
黒板タイプ	黒板タイプを変更します。 ※タイプを変更すると確認のメッセージは表示されます。 [出来形] から [コンクリート] に変更すると、施工管理値のデータが失われ、元に戻せないなので、注意してください。 [コンクリート] から [出来形] に変更すると、コンクリート専用のデータが失われ、元に戻せないなので、注意してください。
色	背景色・文字色・罫線の色を変更します。 ただし、文字色は [文字設定] の [文字色] が優先されます。
表示	[受注者名] [撮影日] [撮影時間] を表示する場合はオンにします。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、[撮影日] [撮影時間] は設定できません。

4-13 セルの幅、高さを変更する

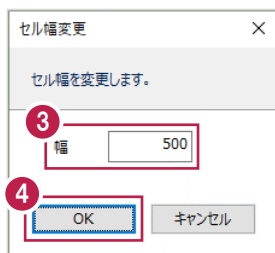
セルの幅、高さを変更します。

1. セルを選択します。
2. セルの幅を変更する場合は、右クリックして [セル幅変更] をクリックします。
セルの高さを変更する場合は、右クリックして [セル高変更] をクリックします。

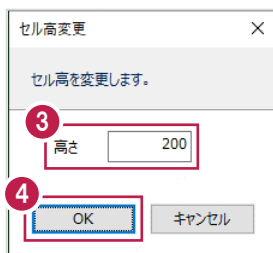


3. [セル幅変更] の場合は [幅] を入力します。
[セル高変更] の場合は [高さ] を入力します。
4. [OK] をクリックします。

《 [セル幅変更] の場合》



《 [セル高変更] の場合》



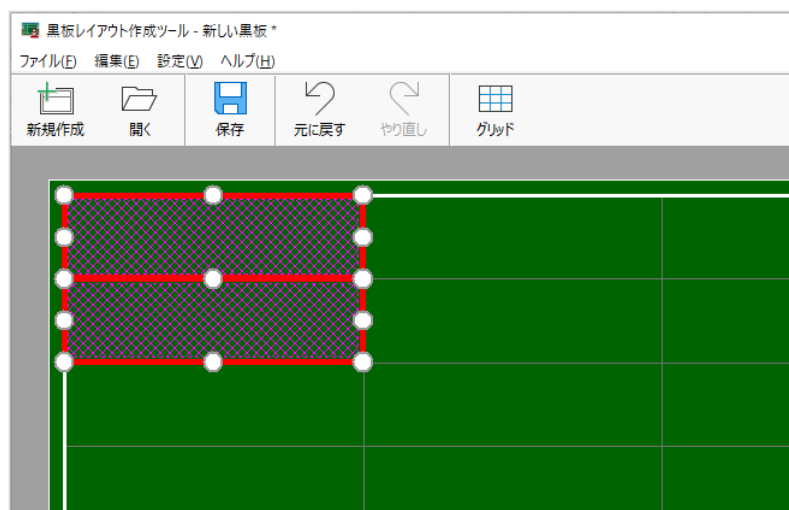
4-14 複数セルの位置を揃える

複数セルの位置を揃えます。

1. ctrlキーを押しながらセルを複数選択します。
2. 右クリックして [左揃え] または [上揃え] [右揃え] [下揃え] をクリックします。

ここでは、[左揃え] をクリックします。

セルの位置が左側に揃います。



補足

揃えの基準について

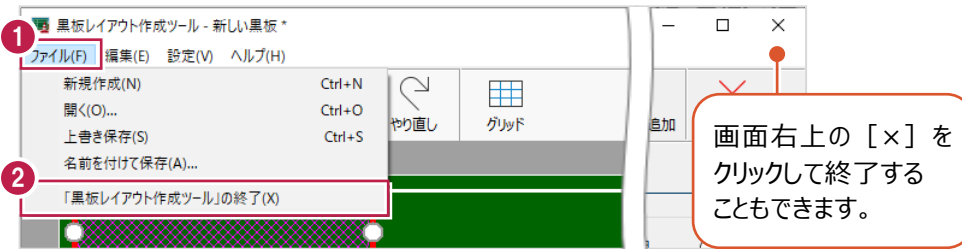
- [左揃え] の場合、最も左にあるセルの左側に揃います。
- [上揃え] の場合、最も上にあるセルの上側に揃います。
- [右揃え] の場合、最も右にあるセルの右側に揃います。
- [下揃え] の場合、最も下にあるセルの下側に揃います。

4-15 黒板レイアウト編集画面を終了する

黒板レイアウト編集画面を終了します。

1. メニューバーの [ファイル] タブをクリックします。
2. 「黒板レイアウト作成ツール」の終了」をクリックします。

黒板レイアウト編集画面が終了して、黒板レイアウト選択ダイアログに戻ります。

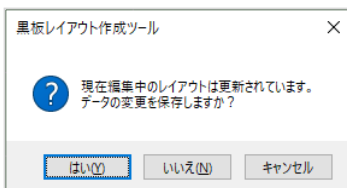


補足

編集した黒板レイアウトを保存していない場合

編集した黒板レイアウトを保存していない場合は、保存確認メッセージが表示されます。

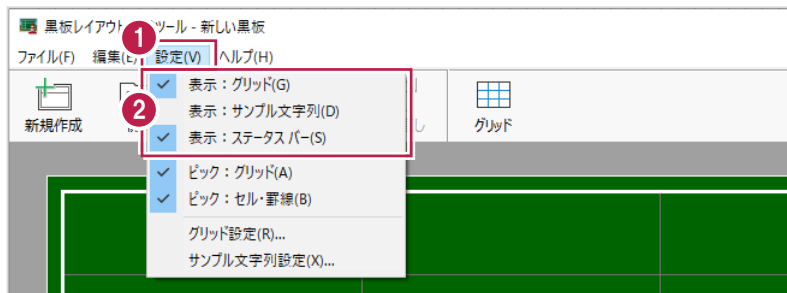
保存するときは [はい]、データを破棄するときは [いいえ] をクリックしてください。



4-16 グリッド、サンプル文字列、ステータスバーの表示・非表示を切り替える

グリッド、サンプル文字列、ステータスバーの表示・非表示を切り替えます。

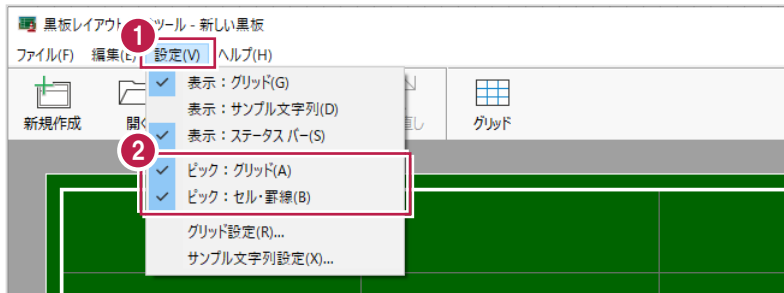
1. メニューバーの [設定] タブをクリックします。
2. [表示：グリッド] [表示：サンプル文字列] [表示：ステータスバー] をクリックしてオン・オフを切り替えます。



4-17 ピックモードのオン・オフを切り替える

グリッド、セル・罫線にピックするかを切り替えます。

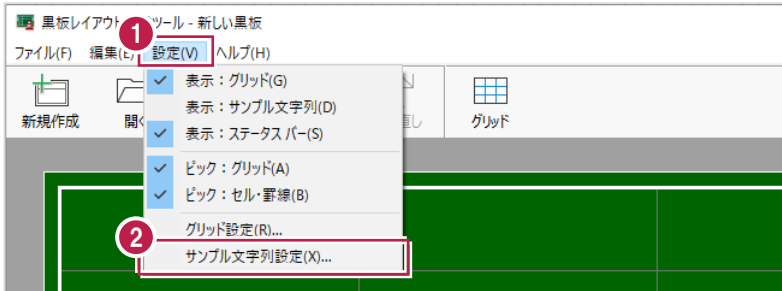
1. メニューバーの [設定] タブをクリックします。
2. [ピック : グリッド] [ピック : セル・罫線] をクリックしてオン・オフを切り替えます。



4-18 サンプル文字列を設定する

サンプル文字列を設定します。

1. メニューバーの [設定] タブをクリックします。
2. [サンプル文字列設定] をクリックします。



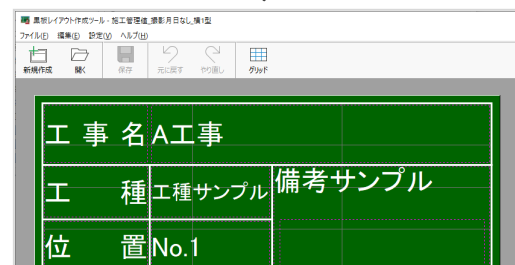
3. プレビューに表示する文字列を設定します。
4. [OK] をクリックします。

The 'サンプル文字列設定' (Sample Text Setting) dialog box is shown. It contains several input fields with sample text. A circled '3' is next to the '工事名' (Project Name) field, and a circled '4' is next to the 'OK' button.

工事名	A工事
河川路線名	A路線
受注者名	〇〇株式会社
受注者説明文	受注者説明文サンプル
写真-大分類	工事
写真区分	区分サンプル
工種	工種サンプル
種別	種別サンプル
細別	細別サンプル
工種区分予備	工種区分予備サンプル
写真タイトル	写真タイトルサンプル
撮影箇所	No.1
施工管理値_設計	高さ H=1500mm
施工管理値_実測	高さ H=1480mm
備考	備考サンプル
テキスト	テキストサンプル

[設定] - [表示: サンプル文字列] をオンにすると、設定した文字列で表示されます。

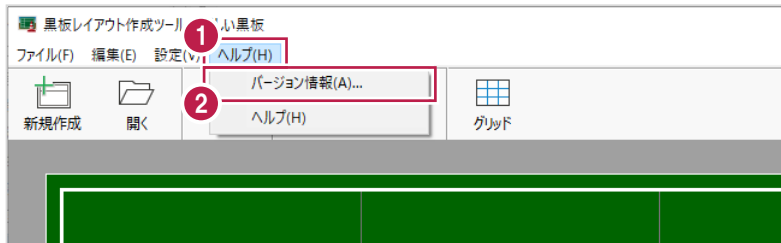
(例) 工事名、工種、撮影箇所、備考



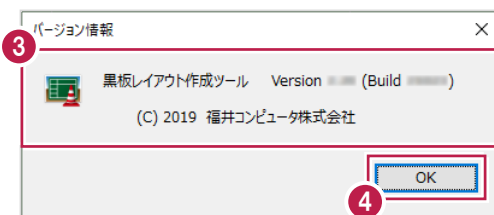
4-19 バージョン情報を確認する

バージョン情報を確認します。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。
2. [バージョン情報] をクリックします。



3. アプリケーションの改訂番号 (バージョン) やユーザー ID などを確認します。
4. [OK] をクリックします。



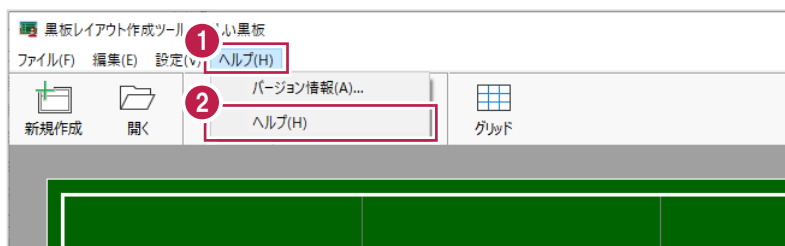
4-20 ヘルプを確認する

ヘルプを確認します。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。

2. [ヘルプ] をクリックします。

ヘルプが表示されます。



5

EX-TREND 武蔵 写真管理との連携

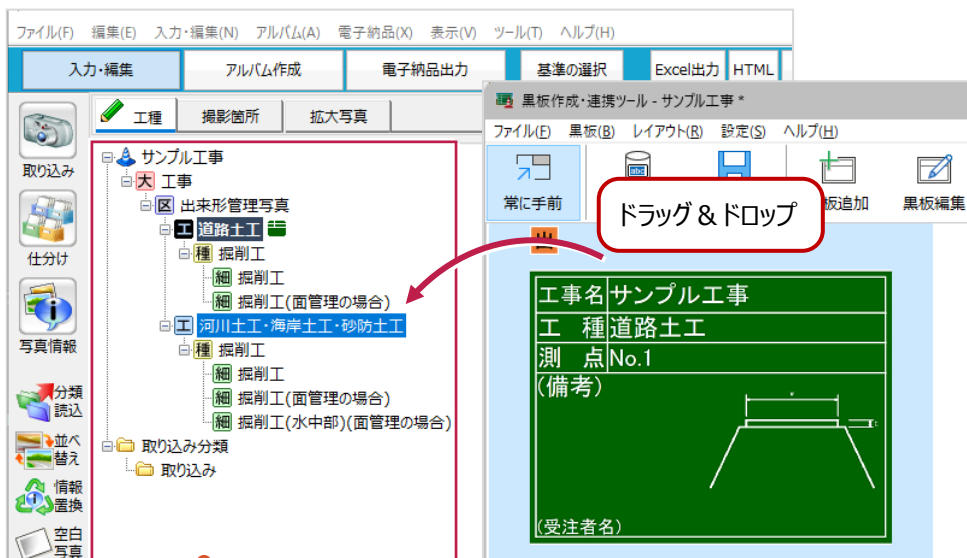
EX-TREND武蔵 写真管理との連携について解説します。

5-1 連携の概要

EX-TREND武蔵 写真管理から黒板作成・連携ツールを起動すると、写真管理の分類ツリーや撮影箇所を利用して、黒板追加時に情報を設定することができます。

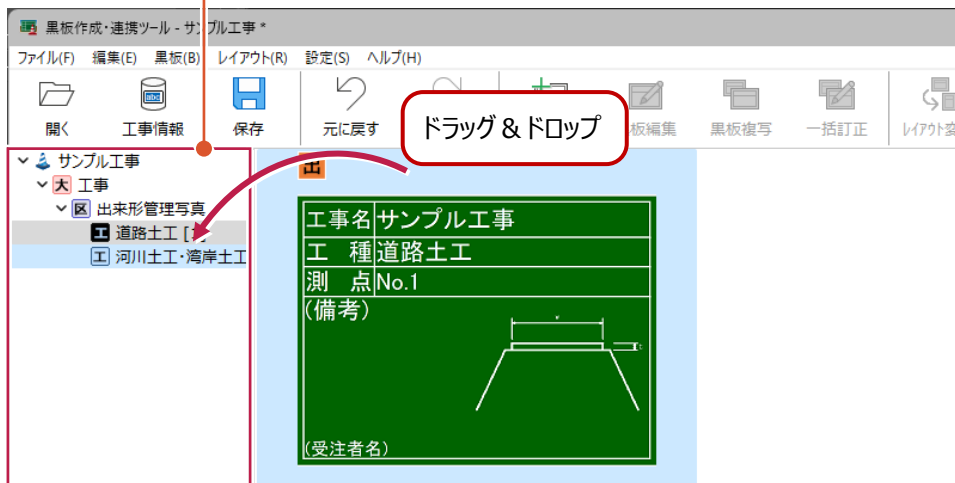
また、黒板作成・連携ツールの黒板を写真管理の分類にドラッグ＆ドロップして黒板の移動・複製を行うことができます。

《連携起動》



写真管理の分類ツリーを黒板作成・連携ツール単体起動の分類ツリー部分として利用するイメージです。

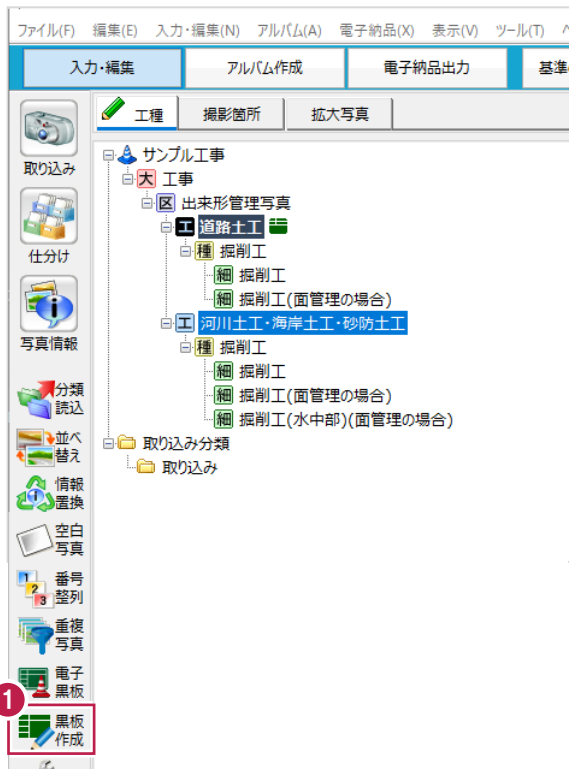
《単体起動》



5-2 黒板作成・連携ツールを起動する

EX-TREND武蔵 写真管理から黒板作成・連携ツールを起動します。

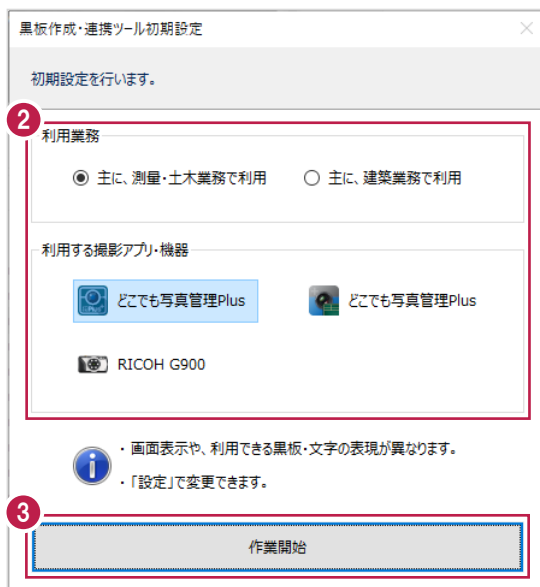
1. [黒板作成] をクリックします。



2. 黒板作成・連携ツールをインストール後に初回起動する際は、初期設定を行います。

詳細はヘルプ「初期設定画面の説明」を参照してください。

3. [作業開始] をクリックします。



4. 工事内で初回起動する際は、[工事名] [河川路線名] [受注者名]を確認して[OK]をクリックします。
黒板作成・連携ツールに工事データが作成され、メイン画面が開きます。

新規作成

新しく工事データを作成し、作業を開始します。

工事名 サンプル工事

河川路線名 サンプル路線

受注者名 △△株式会社

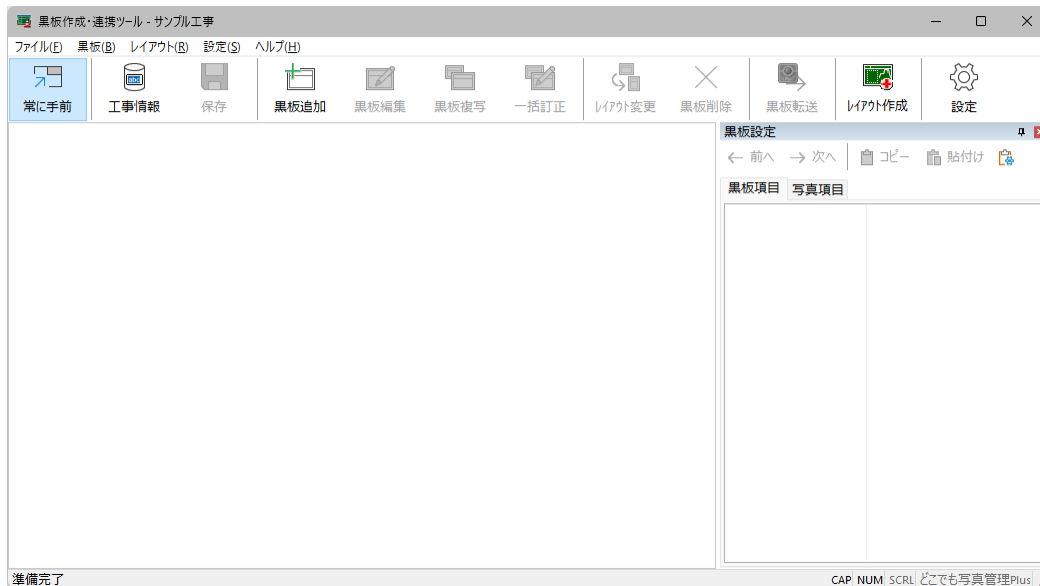
4 OK キャンセル

【工事名】：工事情報の【工事名称】が反映されます。

【河川路線名】：工事情報の【河川路線名等】が反映されます。

【受注者名】：工事情報の【受注者名】が反映されます。

各項目は黒板の「工事名」「河川路線名」「受注者名」に連動します。



補足+

他の工事データと連携する

黑板作成・連携ツールに工事データを新規作成せず、作成済みの工事データと連携する場合は、新規作成ダイアログで [キャンセル] をクリックして、工事管理画面で他の工事データを開いてください。

新規作成

新しく工事データを作成し、作業を開始します。

工事名: サンプル工事

河川路線名: サンプル路線

受注者名: △△株式会社

OK キャンセル



黑板作成・連携ツール

データフォルダ: C:\%FcApp%\黑板作成・連携ツール\Data

工事名	受注者名	最終更新日付	格納フォルダ名
A工事	〇〇株式会社	2022/01/19 18:05	A工事
B工事	××株式会社	2022/01/20 15:11	B工事

他の工事と連携済みの工事データとは連携できません。
(連携済みの工事データは連携マークが表示されます。)
連携済みの工事データを利用したい場合は [複製] を行って複製した工事データと連携してください。

FUKUI COMPUTER

※工事管理の操作方法は「工事管理」の各ヘルプを参照してください。

補足+

工事情報が異なる場合

黑板作成・連携ツールの工事データの工事情報と、写真管理の工事情報が異なる場合、黑板作成・連携ツール起動時に工事情報の変更確認メッセージが表示されます。

写真管理の工事情報を黑板作成・連携ツールの工事データに反映する場合は [はい]、反映しない場合は [いいえ] をクリックしてください。

黑板作成・連携ツール

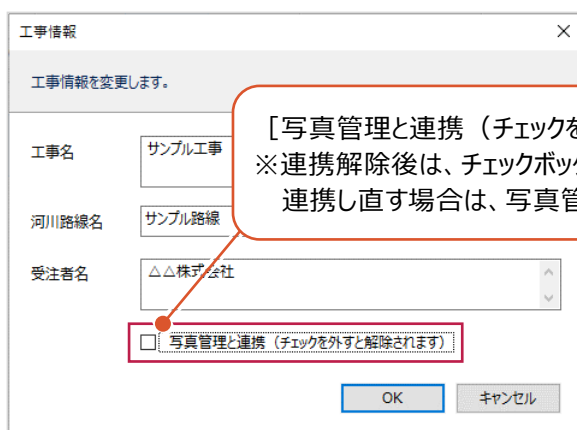
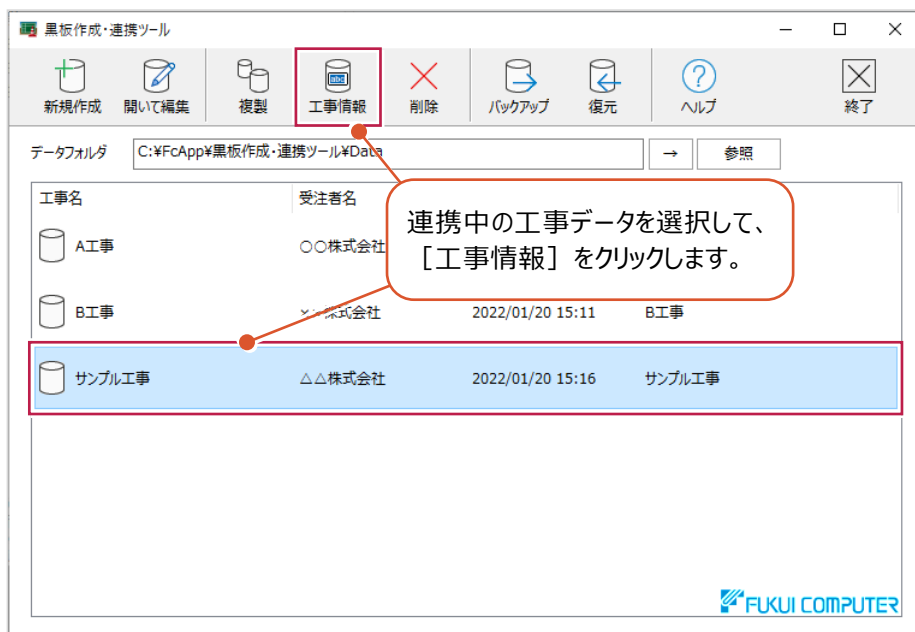
工事情報が異なります。
写真管理の工事情報に変更しますか?

はい(Y) いいえ(N)

補足⁺

連携を解除する

連携を解除する場合は、黒板作成・連携ツールを単体起動して、工事管理の【工事情報】から解除を行ってください。
※尚、連携している工事データを削除すると連携解除されます。

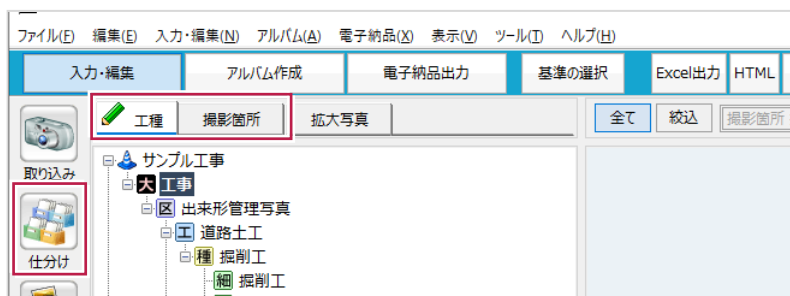


補足⁺

黒板作成・連携ツールが消えた場合

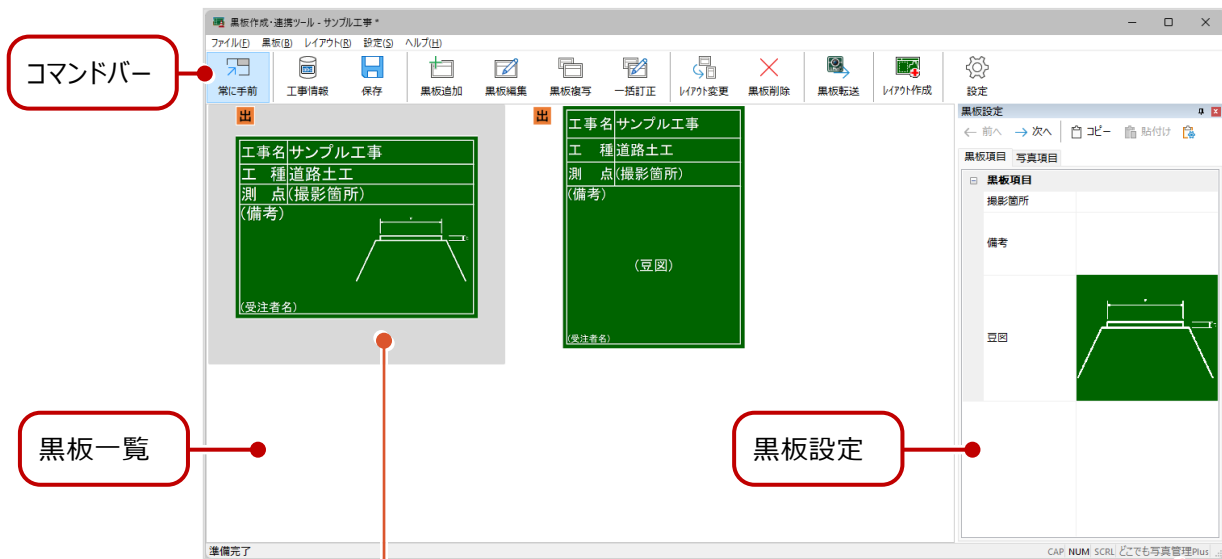
写真管理で【撮影箇所】タブを選択しているとき、または【仕分け】を実行しているときは黒板作成・連携ツールは非表示になります。

黒板作成・連携ツールを再表示する場合は、【工種】タブを選択して【仕分け】を終了してください。



5-3 メイン画面の説明

メイン画面について説明します。



黑板はドラッグ＆ドロップで並び順を変更することができます。

黑板Aを黑板Bの左側にドラッグすると「前」、
 黑板Aを黑板Bの右側にドラッグすると「後」が表示されます。
 「前」が表示されている状態でドロップすると、黑板Aが黑板Bの前に移動します。
 「後」が表示されている状態でドロップすると、黑板Aが黑板Bの後ろに移動します。



【設定】の【利用する撮影アプリ・機器】で
 選択した撮影アプリ・機器が表示されます。

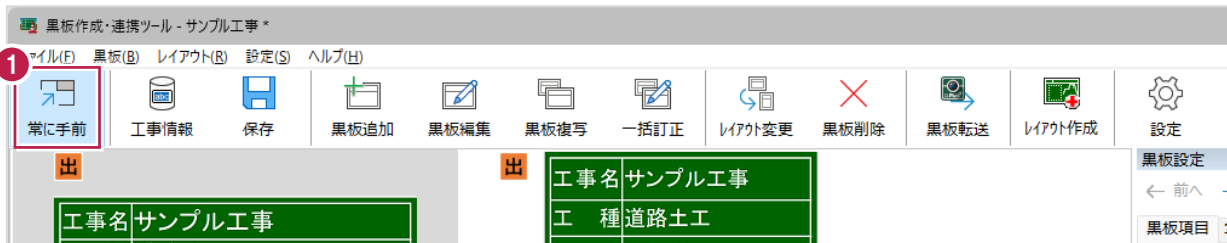
項目	内容
コマンドバー	メイン画面で使用するコマンドが並んでいます。 コマンドバー上部のメニューバーからコマンドを実行することもできます。
黑板一覧	黑板が一覧表示されます。 転送済みの黑板は左上に「済」マークが表示されます。 (黑板、黑板情報が変更されると「済」マークは解除されます。)
黑板設定	選択した黑板の情報を設定します。

5-4 メイン画面を常に手前に表示する

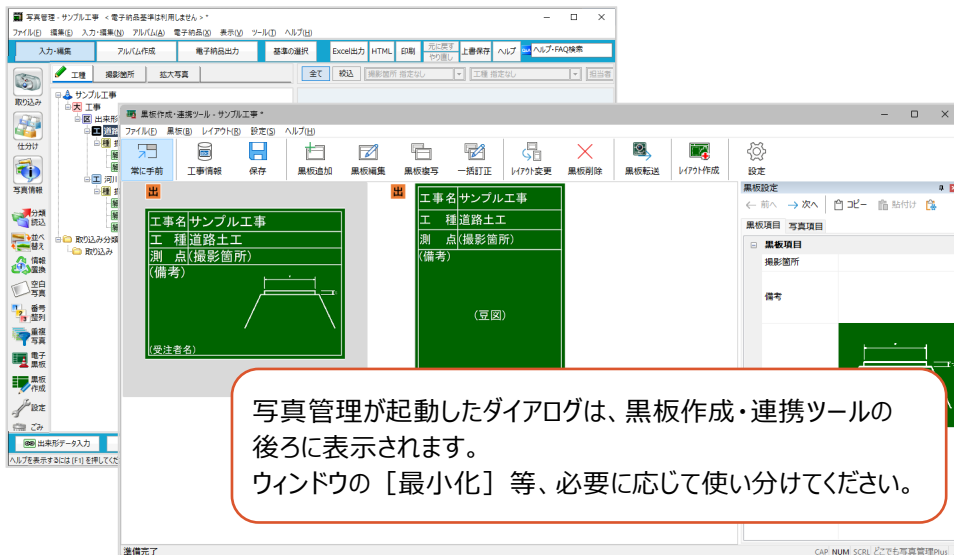
メイン画面を常に手前に表示します。

1. [常に手前] をオンにします。

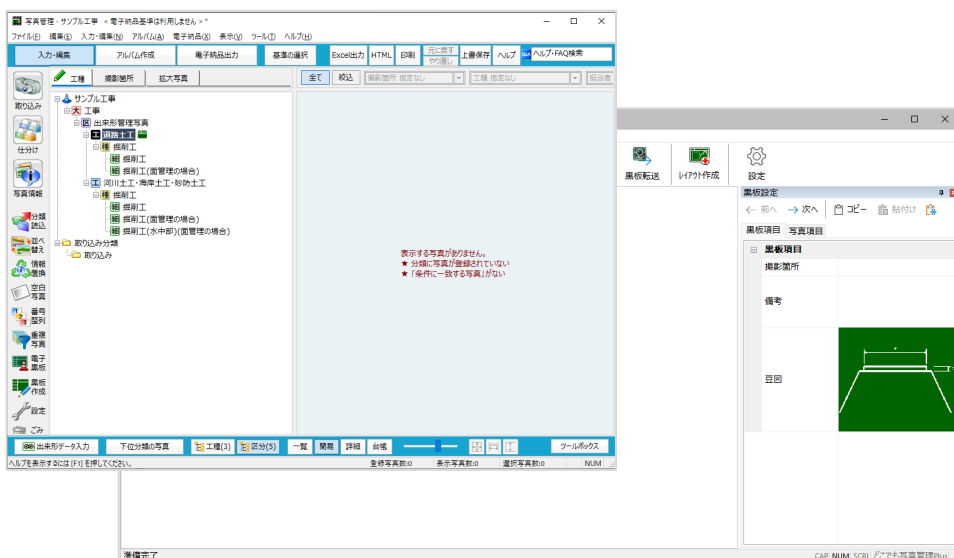
※写真管理から黑板作成・連携ツールを起動した際は、必ずオンになります。



《オンの場合》黑板作成・連携ツールが常に手前に表示されます。



《オフの場合》アクティブなウィンドウが手前に表示されます。

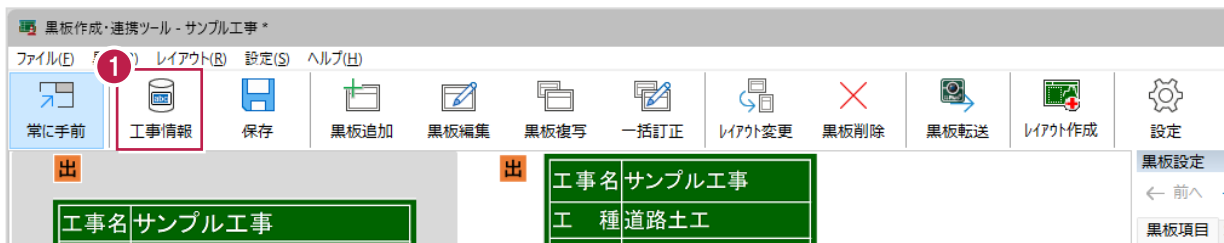


5-5 工事情報を編集する

工事情報を編集します。

※設定した内容は写真管理の工事情報には連動しません。

1. [工事情報] をクリックします。



2. 工事名、河川路線名、受注者名を入力します。

3. [OK] をクリックします。

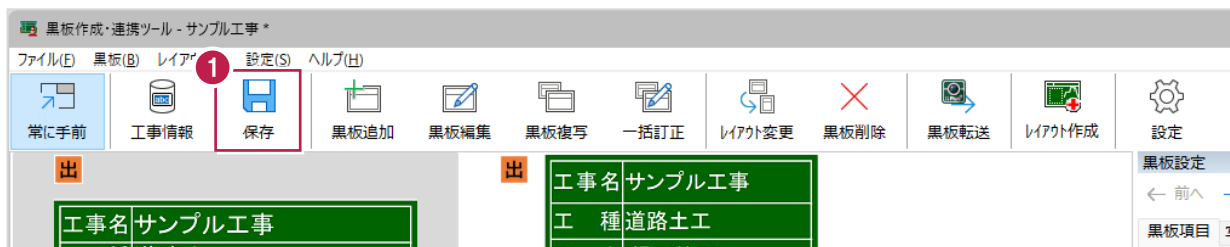
工事名	サンプル工事
河川路線名	サンプル路線
受注者名	△△株式会社

各項目は黑板の「工事名」「河川路線名」「受注者名」に連動します。

5-6 データを保存する

編集中的数据を保存します。

1. [保存] をクリックします。

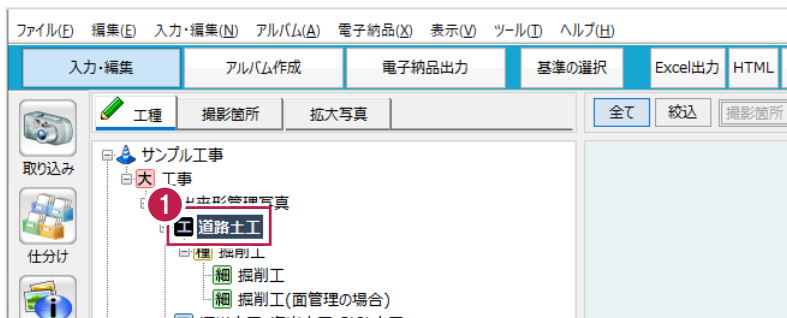


5-7 黒板を追加する

新しく黒板を追加します。

写真管理の分類や撮影箇所を利用して、黒板追加時に情報を設定することができます。

1. 写真管理で分類を選択します。



2. [黒板追加] をクリックします。



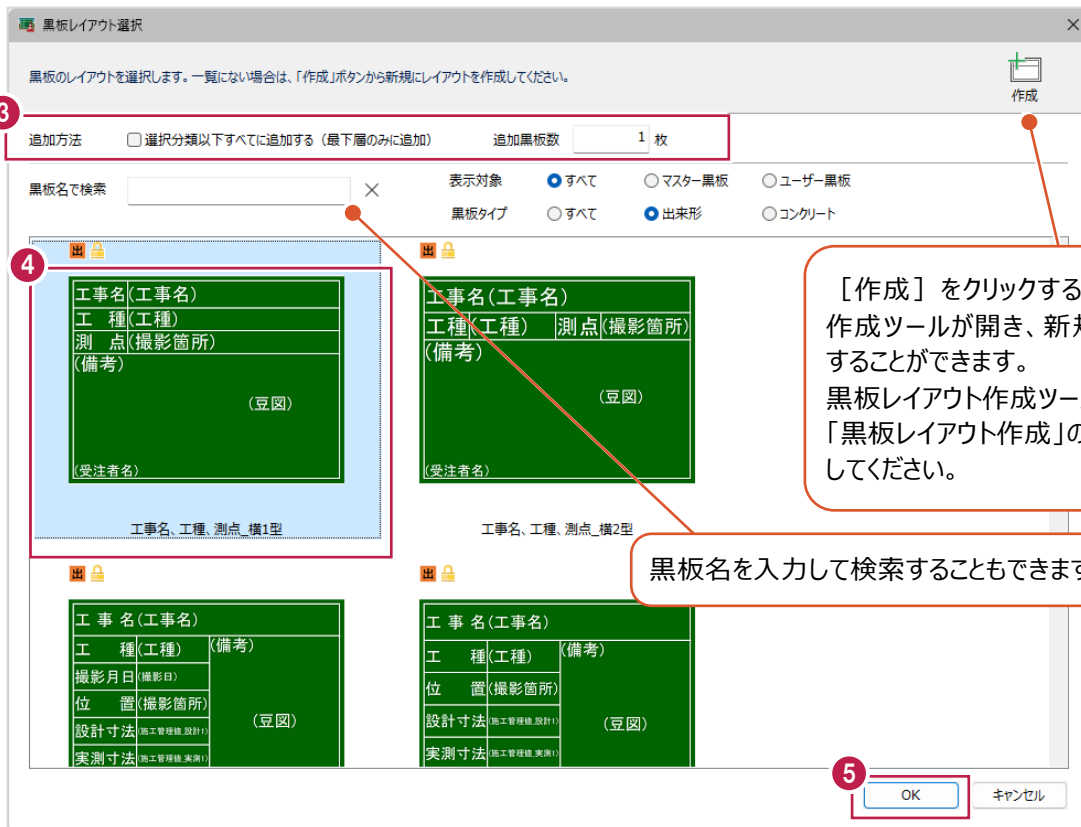
3. 追加方法、追加黑板数を設定します。

[追加方法] : [選択分類以下すべてに追加する (最下層のみに追加)] をオンにすると、選択している分類のすべての最下層分類に黑板が追加されます。

[追加黑板数] : 追加する黑板数を入力します。(1~20まで)

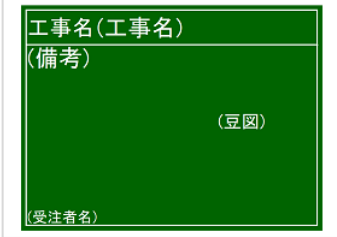
4. 黑板レイアウトを選択します。

5. [OK] をクリックします。



[設定] の [利用する撮影アプリ・機器] より利用可能な黑板が表示されます。

黒板レイアウト選択ダイアログのマークについて



：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトです。

[表示対象]で表示する黒板レイアウトを選択することもできます。

[すべて]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトとユーザーが作成した黒板レイアウトの両方を表示します。

[マスター黒板]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトを表示します。

[ユーザー黒板]：ユーザーが作成した黒板レイアウトを表示します。



出 **コ**：黒板タイプを表示します。

[黒板タイプ]で表示する黒板タイプを選択することもできます。

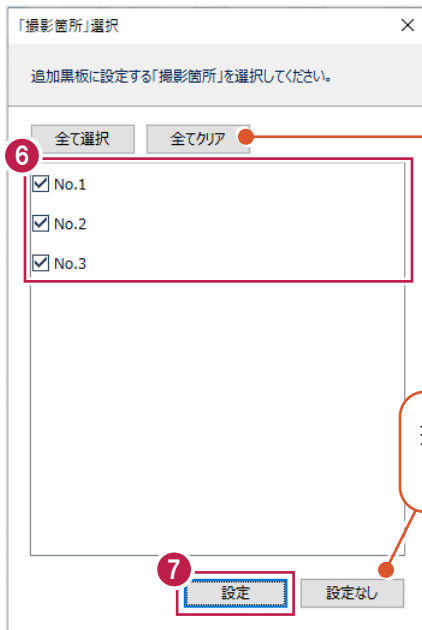
[すべて]：写真・出来形用の黒板レイアウトとコンクリート専用の黒板レイアウトの両方を表示します。

[出来形]：写真・出来形用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「**出**」が表示されます。

[コンクリート]：コンクリート専用の黒板レイアウトを表示します。
左上に「**コ**」が表示されます。

※ [黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板を利用できる撮影アプリ・機器は、「どこでも写真管理Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）のみです。

6. 写真管理に撮影箇所が登録されている場合は、黒板に撮影箇所を設定することができます。
設定する撮影箇所をオンにします。
7. [設定] をクリックします。
黒板が追加されます。
※黒板の情報を設定する方法はヘルプ「黒板の情報を設定する」を参照してください。




[全て選択]
すべてのチェックをオンにします。

[全てクリア]
すべてのチェックをオフにします。

撮影箇所を設定しない場合は
[設定なし] をクリックしてください。

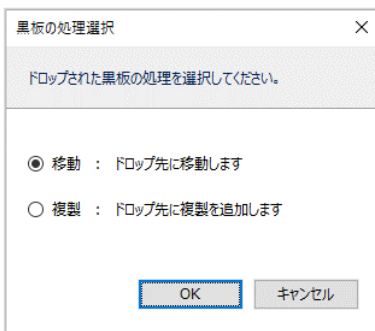
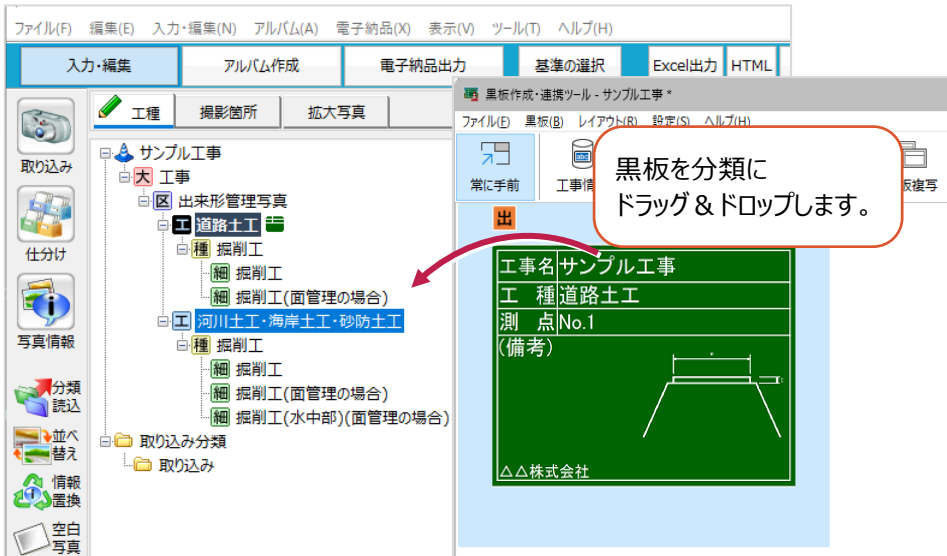


黒板が存在する分類には黒板マーク  が表示されます。
連携中に写真管理の分類名を変更すると、黒板に反映されます。

選択した分類の黒板が表示されます。
黒板には分類と撮影箇所が反映されます。

黒板を他の分類に移動・複製する

黒板をドラッグして写真管理の分類でドロップすると、黒板を移動したり複製することができます。



移動するか複製するかを選択します。

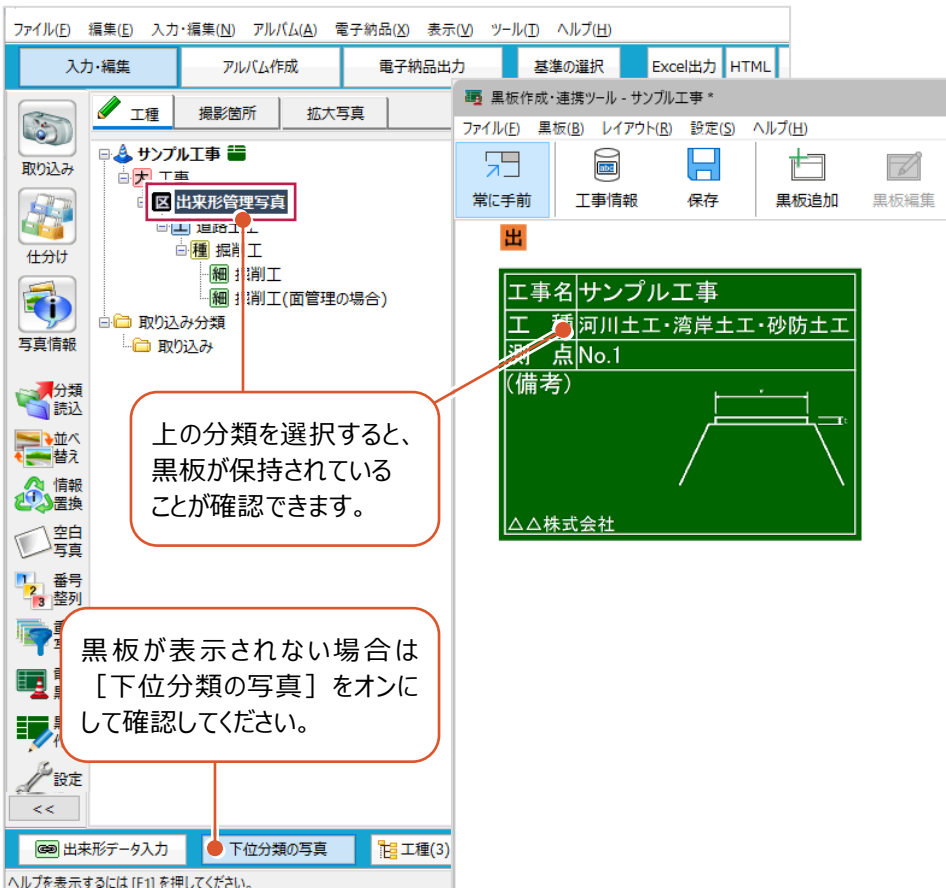
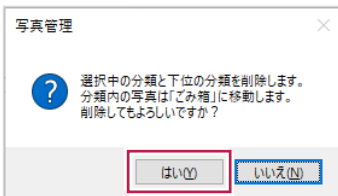
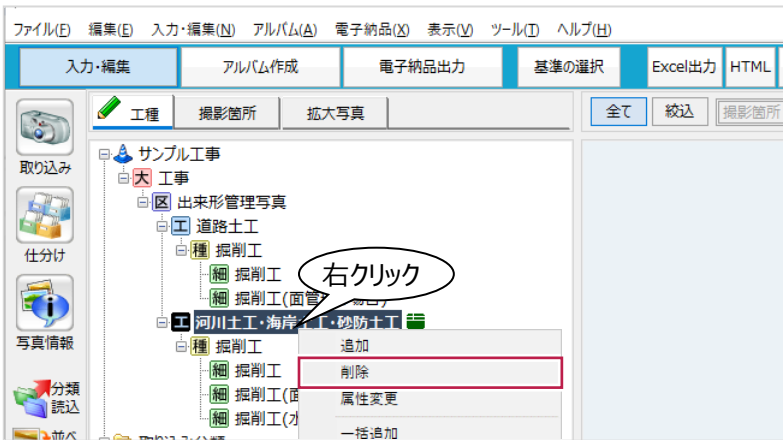


分類を選択すると、黒板が移動・複製され、黒板の情報が反映されていることが確認できます。

写真管理の分類を削除した場合

写真管理の分類を削除しても黒板は削除されません。

上の分類を選択すると、黒板が表示されます。



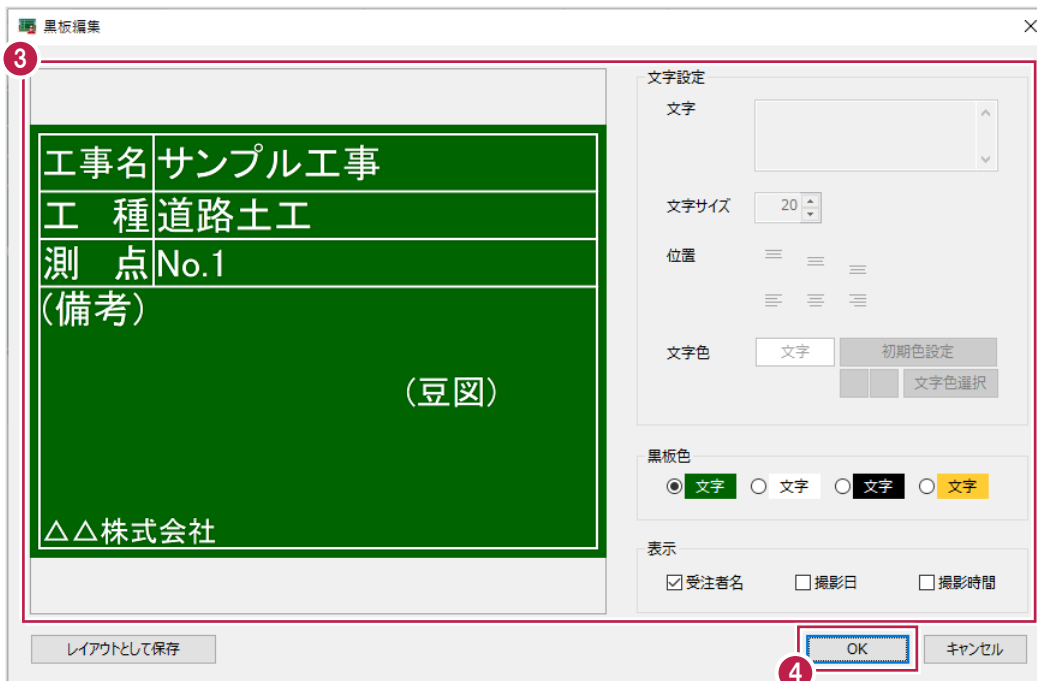
5-8 黒板を編集する

黒板のレイアウトを編集します。

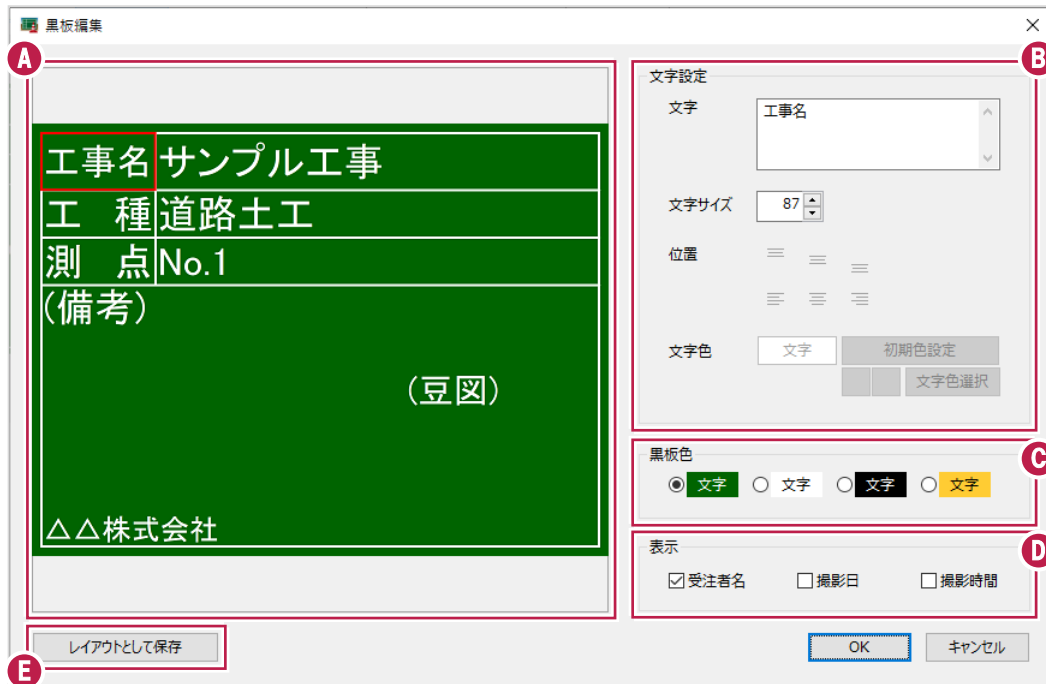
1. 黒板を選択します。
2. [黒板編集] をクリックします。


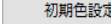



3. レイアウトを設定します。
4. [OK] をクリックします。



■ 黒板編集画面の説明

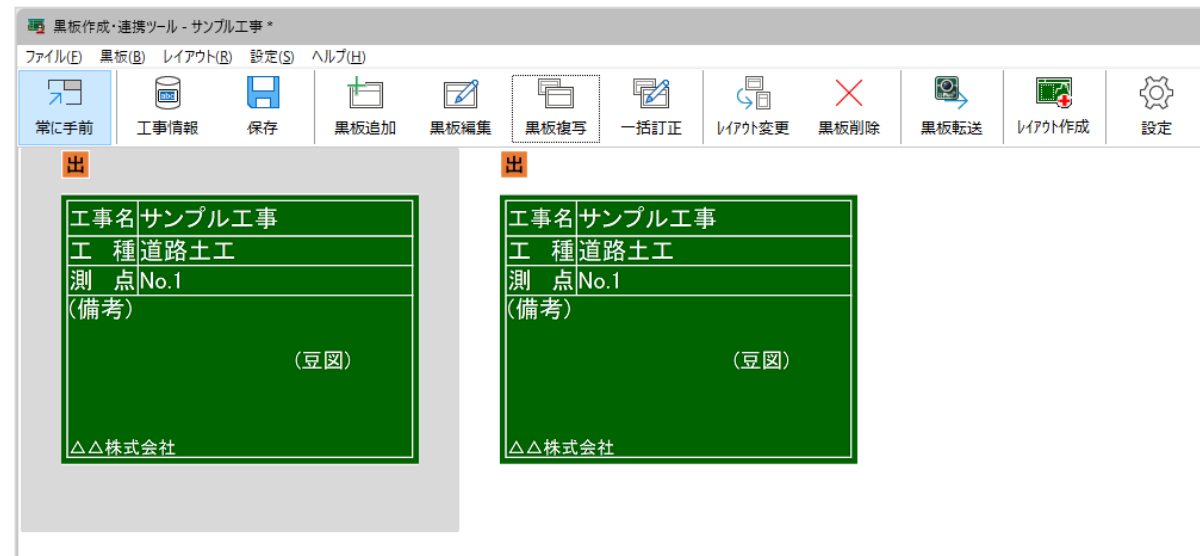


記号	項目	内容
A	プレビュー	プレビュー内の項目をクリックすると、B で文字属性を設定することができます。設定した内容はプレビューに反映されます。選択中の項目は赤枠で表示されます。
B	文字設定	A で選択した項目の文字属性を設定します。 【文字】 ：表示する文字列を入力します。 【文字サイズ】 ：文字サイズを設定します。 【位置】 ：文字の配置位置を選択します。 【文字色】 ：文字色を設定します。  文字 ：設定した文字色を確認します。  初期色設定 ：初期色にします。  文字色選択 ：赤、青、その他の色を選択します。
C	黒板色	背景色と文字色のパターンを選択します。
D	表示	[受注者名] [撮影日] [撮影時間] を表示する場合はオンにします。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、[撮影日] [撮影時間] は設定できません。
E	レイアウトとして保存	表示中のレイアウトを名前を付けて保存することができます。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [どこでも写真管理 Plus] を選択している場合はどこでも写真管理 Plus 用、[RICOH G900] を選択している場合は RICOH G900 用として登録します。 保存したレイアウトは [黒板追加] で選択することができます。

5-9 黒板を複写する

黒板を複写します。

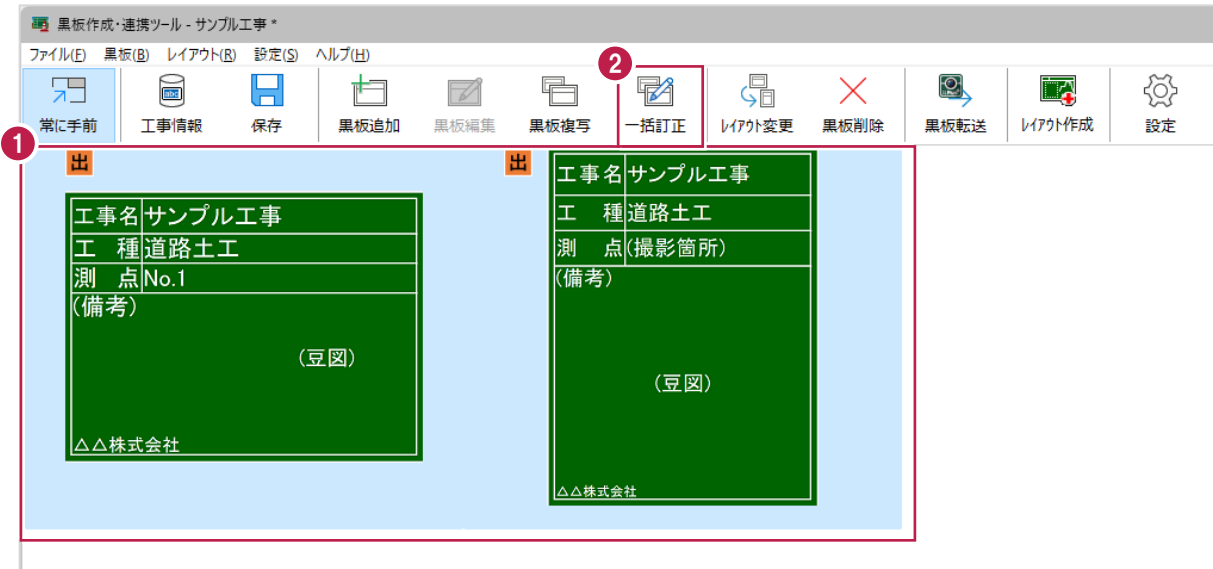
1. 黒板を選択します。
2. [黒板複写] をクリックします。
黒板が複写されます。



5-10 黒板の情報を一括訂正する

黒板の情報を一括訂正します。

1. ctrlキーを押しながら黒板を複数選択します。
2. [一括訂正] をクリックします。



3. 訂正する項目のチェックをオンにして、訂正内容を設定します。
4. [OK] をクリックします。

The '一括訂正' dialog box is shown with the following fields and options:

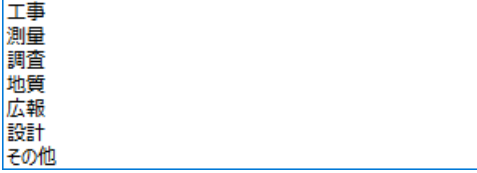
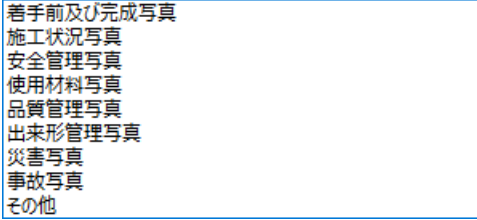
- 一括訂正する項目にチェックを付けてください。
- 写真-大分類: 工事 (dropdown)
- 写真区分: 出来形管理 (dropdown)
- 工種: [text input]
- 種別: [text input]
- 細別: [text input]
- 工程区分予備1: [text input]
- 工程区分予備2: [text input]
- 工程区分予備3: [text input]
- 工程区分予備4: [text input]
- 工程区分予備5: [text input]
- 工程区分予備6: [text input]
- 工程区分予備7: [text input]
- 工程区分予備8: [text input]
- 工程区分予備9: [text input]
- 工程区分予備10: [text input]
- 受注者説明文: [text input]
- 豆図: [checkbox]
- 写真タイトル: [text input] (設定)
- 撮影箇所: [text input] (設定)
- 備考: [text input] (設定)
- 受注者名: 表示 非表示
- 撮影日: 表示 非表示
- 撮影時間: 表示 非表示

Buttons: 選択, 解除, 設定, 設定, 設定, 表示, 非表示, 表示, 非表示, 表示, 非表示, OK (highlighted with a red box and circled '4'), キャンセル.

■ 一括訂正ダイアログの説明

設定した黑板情報は [黑板設定] と黑板サムネイルに反映されます。

[受注者名] [撮影日] [撮影時間] の表示設定は黑板サムネイルに反映されます。

項目	内容
写真-大分類 《営繕基準》階層 1	写真-大分類（もしくは階層 1）を選択、または入力します。 
写真区分 《営繕基準》階層 2	写真区分（もしくは階層 2）を選択、または入力します。 
工種 《営繕基準》階層 3	工種（もしくは階層 3）を入力します。
種別 《営繕基準》階層 4	種別（もしくは階層 4）を入力します。
細別 《営繕基準》階層 5	細別（もしくは階層 5）を入力します。
工種区分予備 1～ 工種区分予備 10	必要に応じて入力します。
受注者説明文	受注者説明文を入力します。
豆図	豆図を設定します。 ※解除した状態（未設定の状態）で一括訂正を実行すると、黑板の豆図が一括解除されます。 【選択】 ：設定する豆図ファイルを選択します。 【解除】 ：選択した豆図ファイルを解除します。
写真タイトル	[設定] から写真タイトルを設定します。
撮影箇所	[設定] から撮影箇所を設定します。
備考	[設定] から備考を設定します。
受注者名	受注者名の表示・非表示を選択します。
撮影日	撮影日の表示・非表示を選択します。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、設定できません。
撮影時間	撮影時間の表示・非表示を選択します。 [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、設定できません。

■ 豆図の設定

豆図を設定する場合は、[選択] から豆図ファイルを選択します。



項目	内容
フォルダー選択	<p>[豆図データ管理から取得] や [クリップボード画像を取得] で取得した豆図ファイルの保存先フォルダーを選択します。</p> <p>フォルダー内の画像（拡張子「jpg」「png」「bmp」）が豆図ファイル一覧に表示されます。</p>
豆図ファイル一覧	<p>[豆図] に設定する豆図ファイルを選択します。</p>
豆図データ管理から取得	<p>[豆図データ管理] から豆図を取得して豆図ファイル一覧に表示します。</p> <p>EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理（Ver.21.1以降）がインストールされている場合に使用できます。</p> <p>[豆図データ管理] での操作については、EX-TREND 武蔵や官公庁版写真管理のヘルプ「豆図データ管理ウィンドウ」を参照してください。</p>
クリップボード画像を取得	<p>クリップボードの画像を取得して豆図ファイル一覧に表示します。</p> <p>（ビットマップ形式の画像が対象です。）</p>
選択ファイルの削除	<p>豆図ファイル一覧で選択している豆図ファイルを一覧から削除します。</p>

■ 写真タイトル・撮影箇所・備考の設定

〔写真タイトル〕〔撮影箇所〕〔備考〕はそれぞれ〔設定〕から設定します。
 ここでは、〔撮影箇所〕を例に説明します。
 ※設定方法は〔写真タイトル〕〔備考〕も同様です。

項目	内容
追加	撮影箇所を入力して〔追加〕をクリックすると、一覧に追加します。
この黒板で利用する「撮影箇所」一覧	<p>選択しているものが黒板サムネイル、黒板タイトル、黒板設定に表示されます。</p> <p>〔撮影箇所〕に複数登録されている場合は、黒板タイトルと黒板設定は以下のように表示されます。</p> <p>2つ登録されている場合：（上の項目）、（下の項目）</p> <p>3つ以上登録されている場合：（一番上の項目）～（一番下の項目）</p> <p>※〔写真タイトル〕〔備考〕の場合は、選択しているもののみ表示されます。</p>
一括追加	<p>撮影箇所を一括で追加します。</p> <p>※〔写真タイトル〕〔備考〕では表示されません。</p>
削除	一覧で選択した撮影箇所を削除します。
上へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ上に移動します。
下へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ下に移動します。
OK	一覧に表示されている撮影箇所を一括訂正ダイアログに設定します。
キャンセル	一括訂正ダイアログに戻ります。

■ 一括追加（〔撮影箇所〕のみ）

撮影箇所を一括で追加します。

項目	内容
測点名称	測点名の先頭の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
測点番号名称	測点名の末尾の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
開始 No	No 杭の連番の開始番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
終了 No	No 杭の連番の終了番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
作成ピッチ	No 杭の連番の増分を入力します。（No.5L+10AB、No.6L …… の赤部分）
+ 杭	<p>+ 杭を作成する場合はオンにします。</p> <p>※〔作成ピッチ〕の値が「1」のときのみ設定可能です。</p> <p>〔No 杭間隔〕：No 杭の間隔の距離を入力します。 この距離は、+ 杭を計算するときに使用されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p> <p>〔+ 杭間隔〕：+ 杭の間隔の距離を入力します。 この距離と上記〔No 杭間隔〕の距離から+ 杭が計算されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p> <p>〔+ 杭名称〕：+ 杭の末尾の固定部分を入力します。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p>
作成タイプ	<p>〔+ 杭優先〕：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、+ 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1+10、No.1+30</p> <p>〔No 杭優先〕：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、No 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1、No.1+20、No.1+40</p>
プレビュー	作成される測点が表示されます。 確認しながら条件を設定してください。

5-11 黒板のレイアウトを変更する

黒板のレイアウトを変更します。

1. 黒板を選択します。
2. [レイアウト変更] をクリックします。



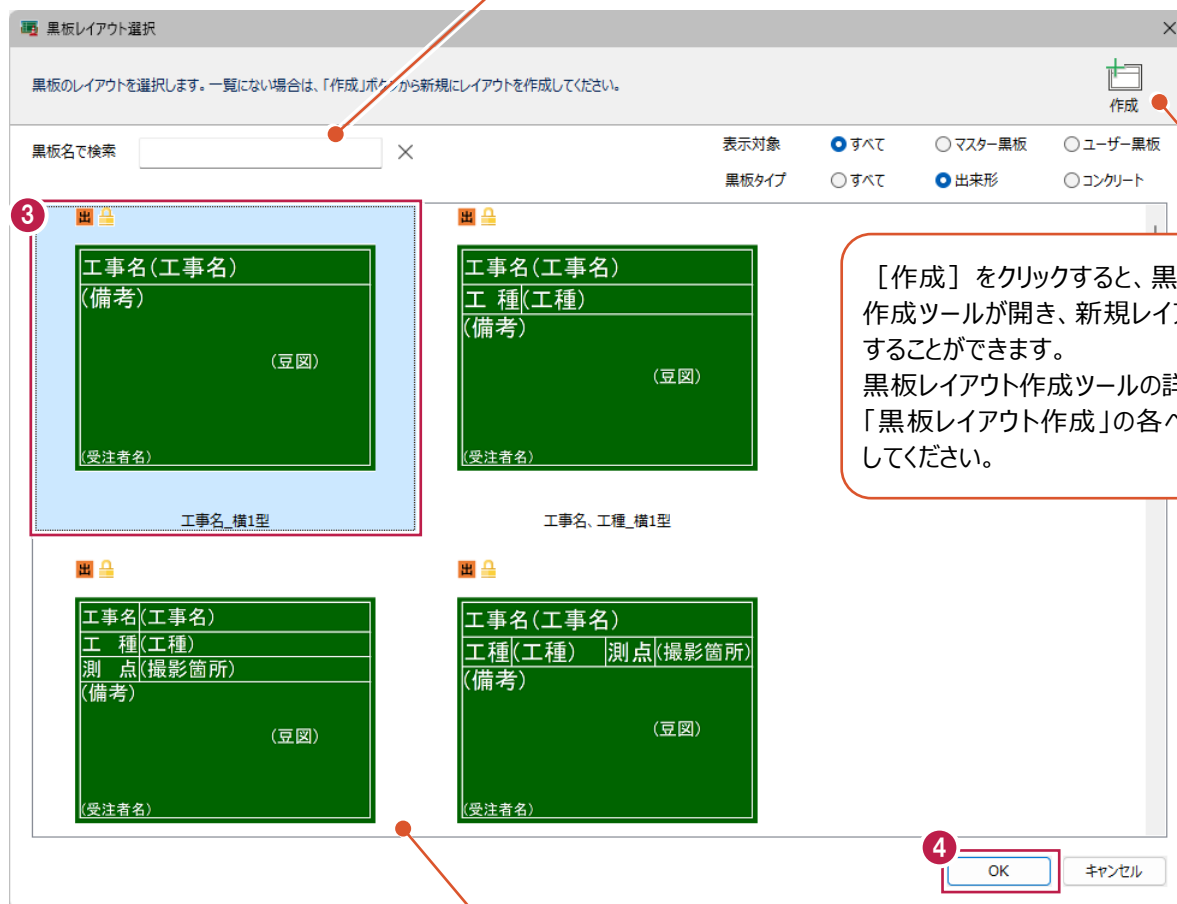
3. 黒板レイアウトを選択します。

4. [OK] をクリックします。

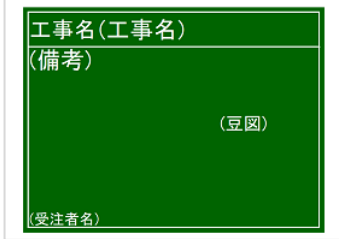
黒板のレイアウトが変更されます。

※ [黒板設定] の内容は保持されます。

黒板名を入力して検索することもできます。



黒板レイアウト選択ダイアログのマークについて



：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトです。

[表示対象]で表示する黒板レイアウトを選択することもできます。

[すべて]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトとユーザーが作成した黒板レイアウトの両方を表示します。

[マスター黒板]：プログラムにあらかじめ用意されている黒板レイアウトを表示します。

[ユーザー黒板]：ユーザーが作成した黒板レイアウトを表示します。



出：黒板タイプを表示します。

[黒板タイプ]で表示する黒板タイプを選択することもできます。

[すべて]：写真・出来形用の黒板レイアウトとコンクリート専用の黒板レイアウトの両方を表示します。

[出来形]：写真・出来形用の黒板レイアウトを表示します。

左上に「**出**」が表示されます。

[コンクリート]：コンクリート専用の黒板レイアウトを表示します。

左上に「**コ**」が表示されます。

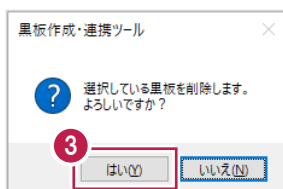
5-12 黒板を削除する

黒板を削除します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板削除] をクリックします。



3. [はい] をクリックします。
黒板が削除されます。



5-13 黒板を「どこでも写真管理Plus」に転送する

黒板を「どこでも写真管理Plus」アプリに転送します。

転送する方法は4通りあります。

- USBで接続する（Android版のみ）
- CIMPHONY Plusを使用する（Android版・iOS版 共通）
- RICOH Driveを使用する（Android版・iOS版 共通）
- iTunesを使用する（iOS版のみ）

それぞれの転送操作を説明します。

※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] は以下を選択して操作してください。

どこでも写真管理Plus（バージョン 2.0.2000～）の場合： [どこでも写真管理Plus]（左側）

どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）の場合： [どこでも写真管理Plus]（右側）

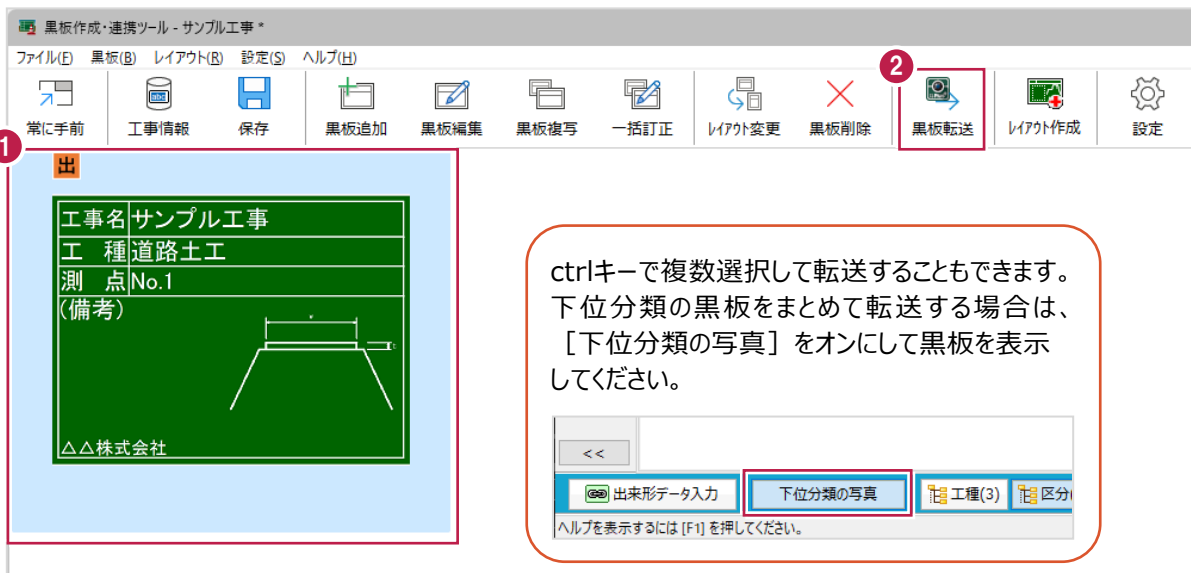
（※ [黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板は、どこでも写真管理Plus（バージョン 2.0.2000～）のみ対応です。）

■ USBで接続する（Android版のみ）

USBで接続して黒板を転送します。

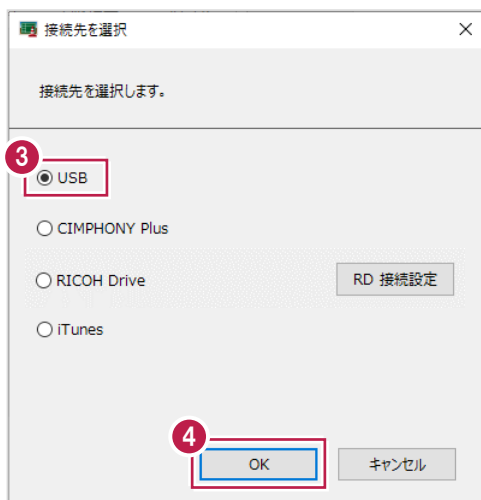
事前にPCとスマホをUSBで接続して操作してください。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

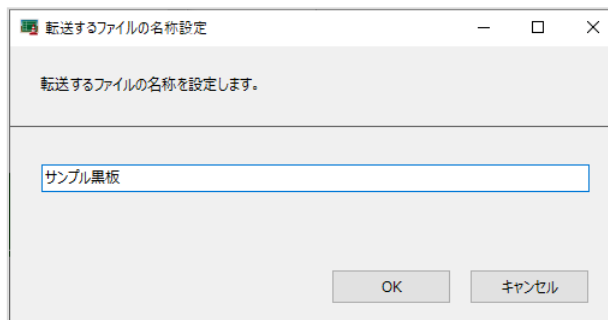


3. 接続先は [USB] を選択します。

4. [OK] をクリックします。



どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



5. [OK] をクリックします。

ファイルが転送されます。



USB 接続でデータの転送が失敗する場合

USBで接続したスマートフォンへのデータの転送が失敗する場合は、以下を確認してください。

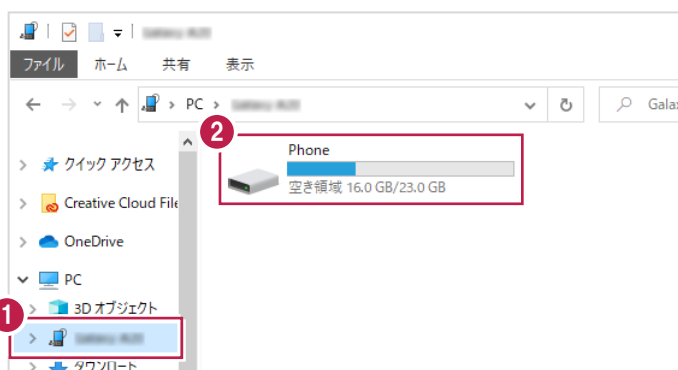
●PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できますか？

正しくUSB接続されている場合は、PCのエクスプローラーでスマートフォン内のファイルが確認できます。

以下の操作で確認してください。

1. USB接続した状態でPCのエクスプローラーを開き、[PC] の下層にある「接続したスマートフォン名」をクリックします。

2. スマートフォン内の「Phone（内部ストレージ）」が表示されれば、正しく接続されています。



PCのエクスプローラーで

- ・接続したスマートフォン名が表示されない
- ・スマートフォン名をクリックしても何も表示されない
- ・エクスプローラーでは正常に見えるが、転送に失敗する

等の場合は、以下を確認してください。

●スマートフォンの電源は入っていますか？

スマートフォンの電源がオフになっていると転送できません。

電源を入れてください。

●スマートフォンが画面ロックされていませんか？

スマートフォンがパスワードやパターンなどで画面ロックされていると転送できません。

画面ロックを解除してください。

●正常なUSBケーブルで接続していますか？

「充電専用」のUSBケーブルでは転送できません。

また、USBケーブルの不具合の可能性もあるので、他のUSBケーブルで接続してください。

●どこでも写真管理Plusが起動していませんか？

スマートフォンで【どこでも写真管理Plus】が起動している場合は、終了してください。

●スマートフォンにSDカードが入っていませんか？

スマートフォンにSDカードが入っていると転送が失敗する場合があります。

SDカードのマウントを解除してください。

(次ページへ続きます)

● USB接続が【充電】モードになっていませんか？

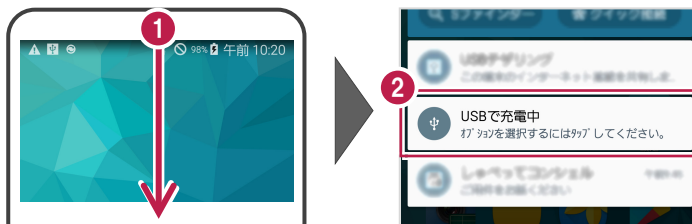
スマートフォン側のUSB接続が【充電】モードになっていると転送できません。

以下の操作でUSB接続を【メディアファイルを転送】（MTP接続）に変更してください。

1. USB接続した状態で、スマートフォンの画面上部から下に指をスライド（スワイプ）し、通知領域を表示します。

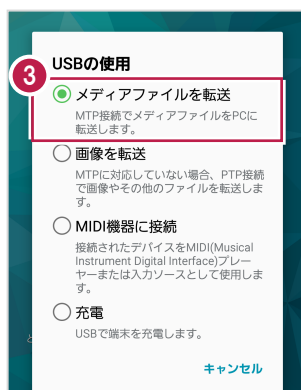
※通知領域のデザインや表示される内容は、スマートフォンにより異なる場合があります。

2. 【USBで充電中】をタップします。



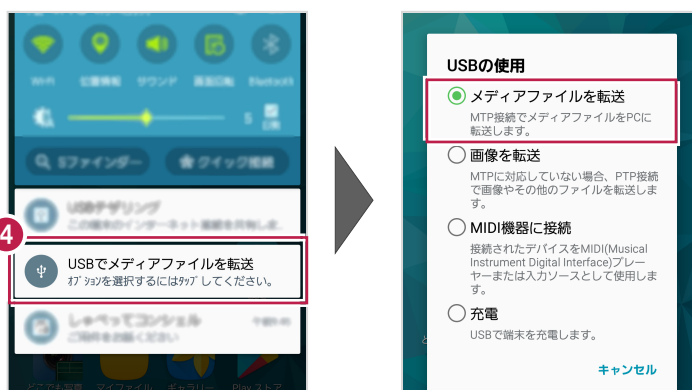
3. 【メディアファイルを転送】をタップします。（MTP接続にします。）

以上の操作で転送できるか試してください。



4. 【メディアファイルを転送】に変更しても転送できない場合は、

同操作で再度【メディアファイルを転送】（MTP接続）を指定し直してください。

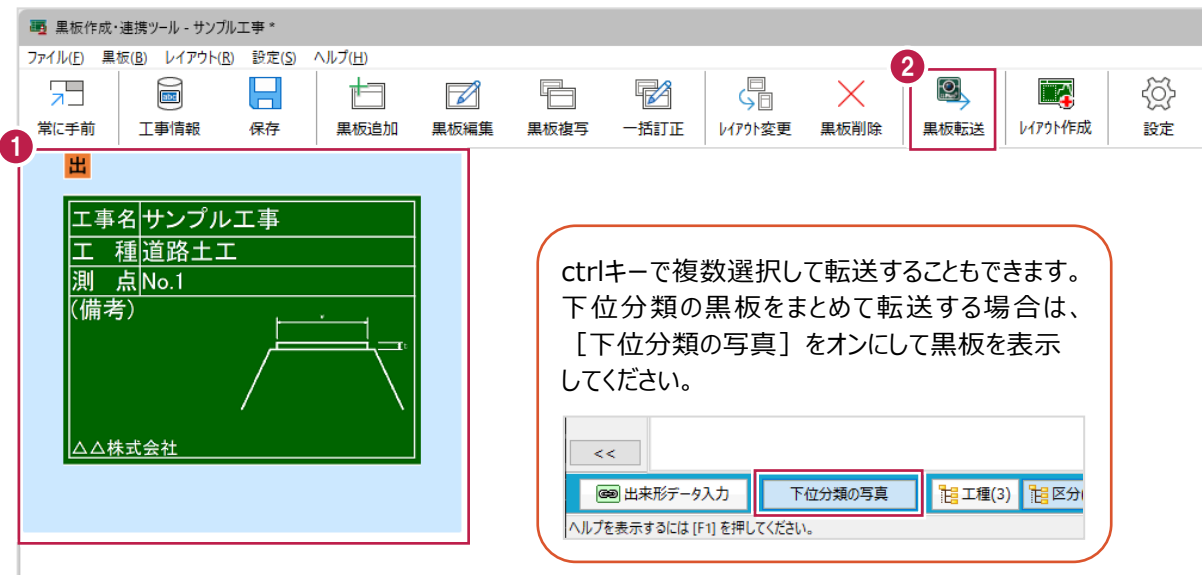


■ CIMPHONY Plus を使用する（Android 版・iOS 版 共通）

CIMPHONY Plusを使用して黒板を転送します。

CIMPHONY Plusであらかじめ現場を作成して操作してください。

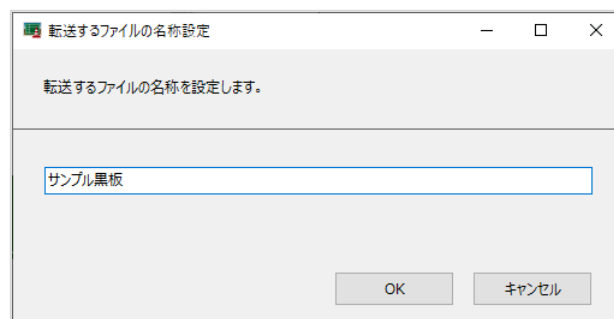
1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。



3. 接続先は [CIMPHONY Plus] を選択します。
4. [OK] をクリックします。
CIMPHONY Plus連携ツールが起動します。



どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



5. 「メールアドレス」と「パスワード」、または「FCアカウント」でログインします。

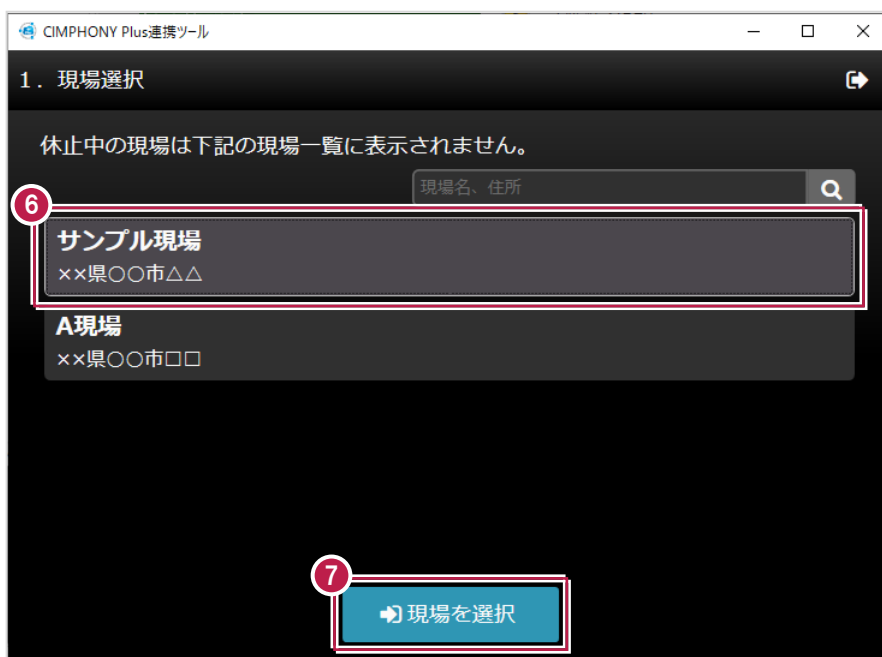
※ログイン後、1ヶ月間は認証情報が保存されます。



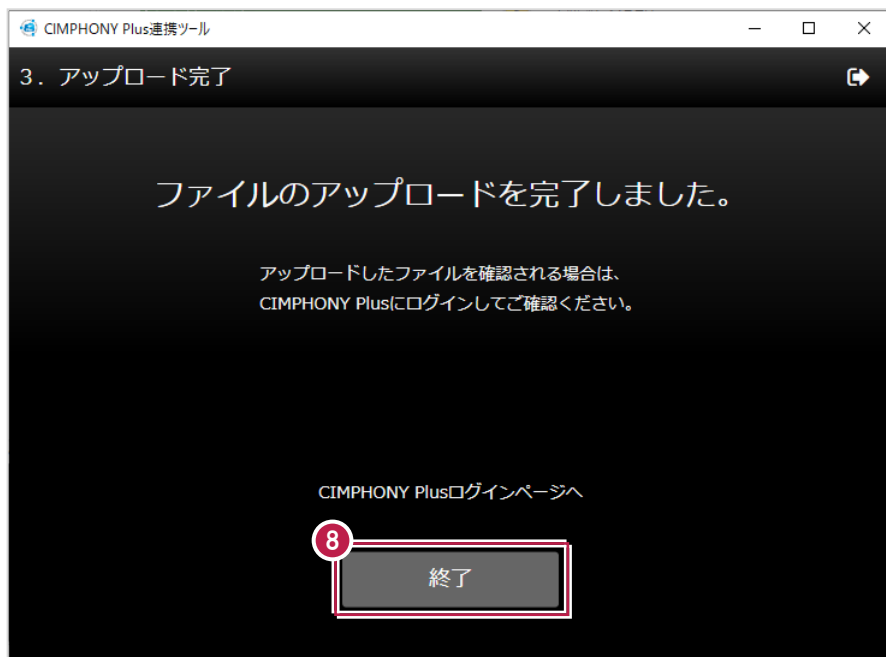
6. 現場を選択します。

7. [現場を選択] をクリックします。

※工期終了した現場にファイルをアップロードすることはできません。



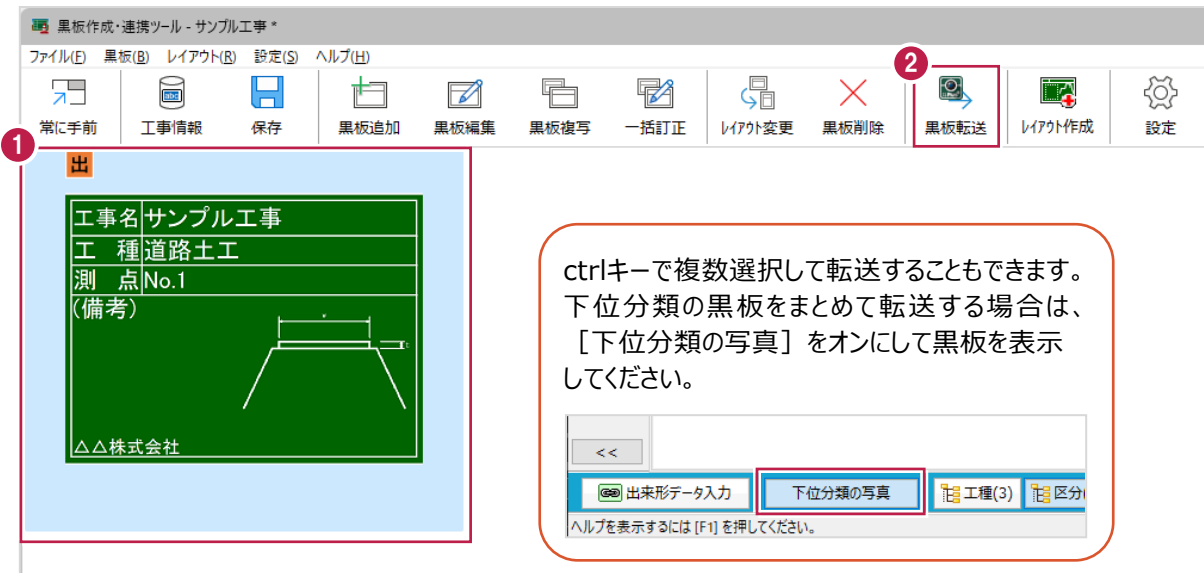
8. [終了] をクリックします。
ファイルが転送されます。



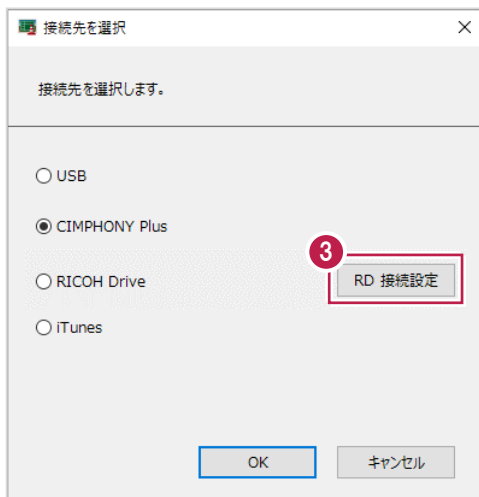
■ RICOH Drive を使用する（Android 版・iOS 版 共通）

RICOH Driveを使用して黒板を転送します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

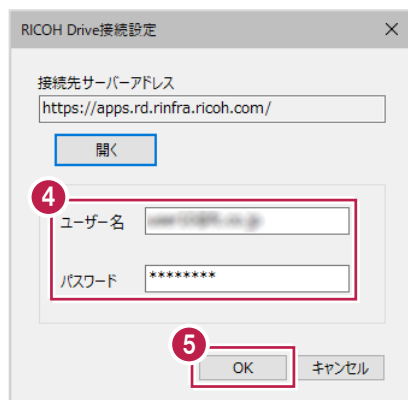


3. [RD接続設定] をクリックします。



4. [ユーザー名] [パスワード] を入力します。

5. [OK] をクリックします。

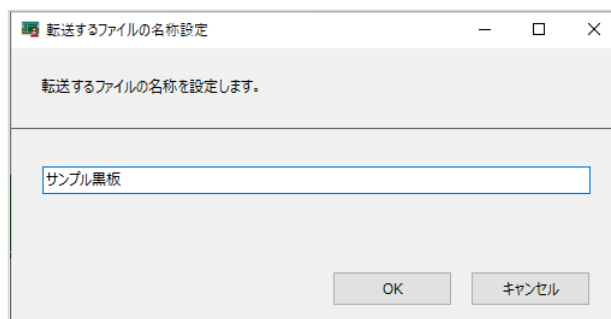


6. 接続先は [RICOH Drive] を選択します。

7. [OK] をクリックします。



どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



8. [OK] をクリックします。

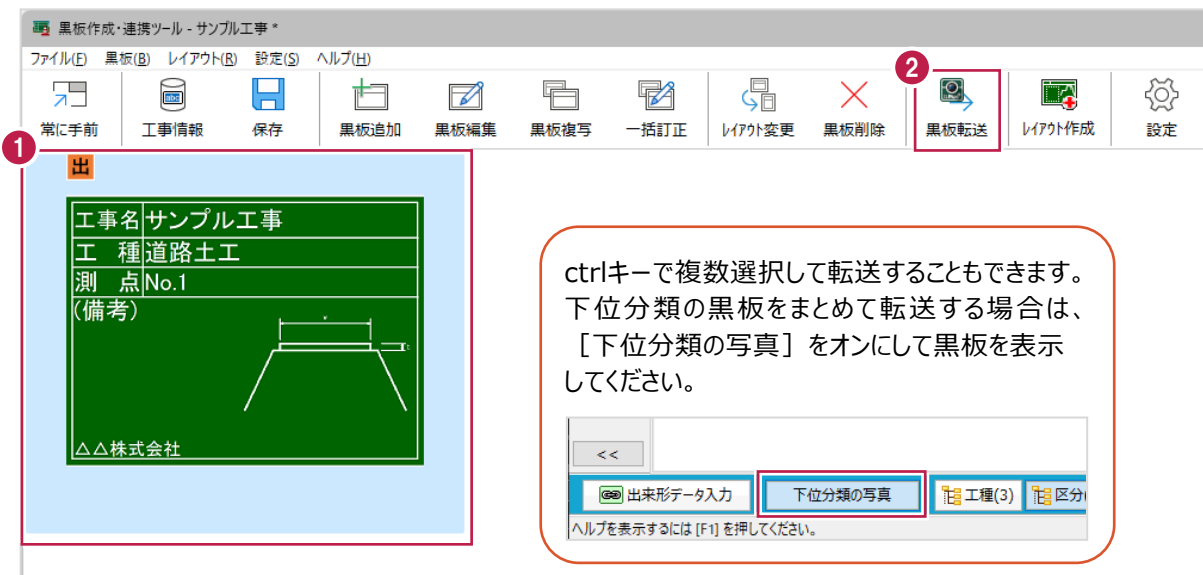
ファイルが転送されます。



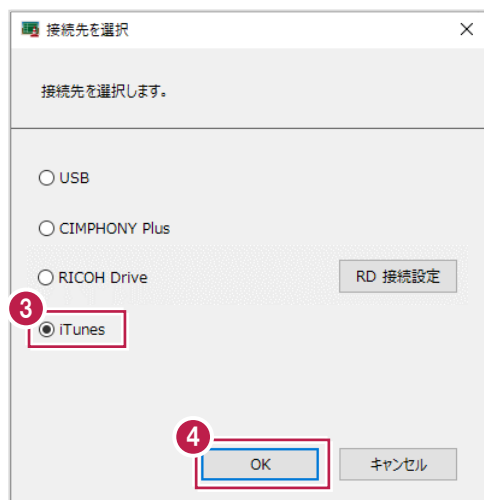
■ iTunesを使用する（iOS版のみ）

iTunesを使用して黒板を転送します。

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。



3. 接続先は [iTunes] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

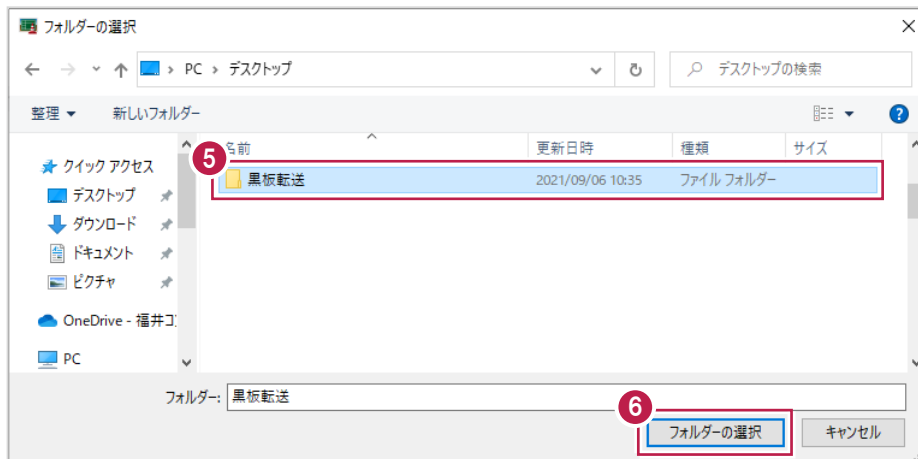


5. 黒板データを一旦PCの任意のフォルダーに出力します。

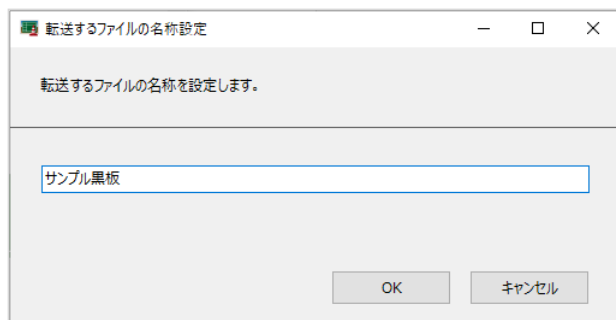
出力先のフォルダーを選択します。

※事前にデスクトップ等、分かりやすい場所にフォルダーを作成しておくことをお勧めします。

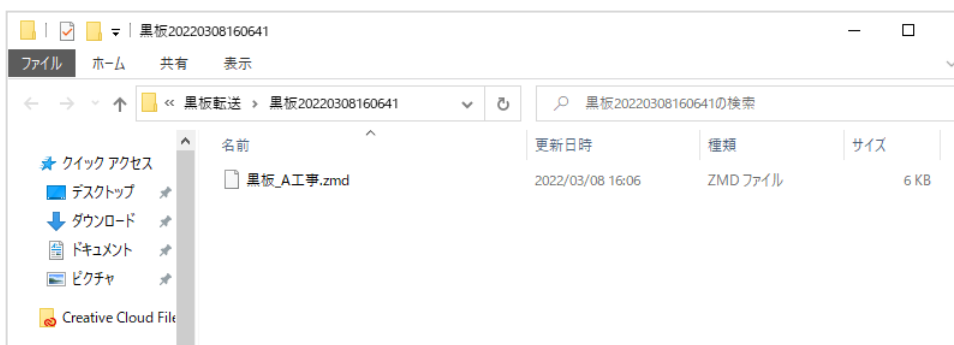
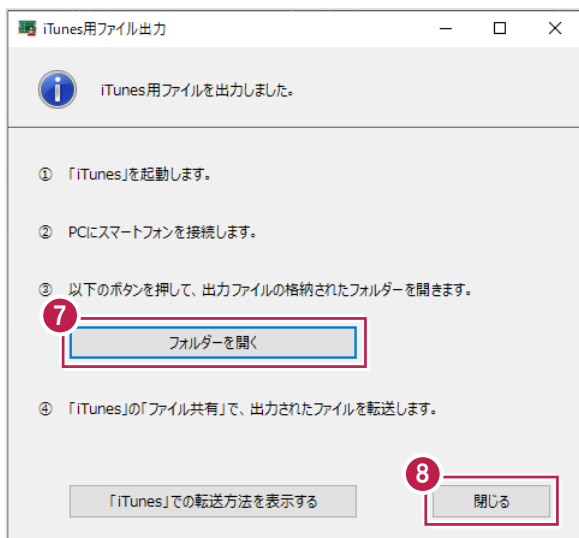
6. [フォルダーの選択] をクリックします。



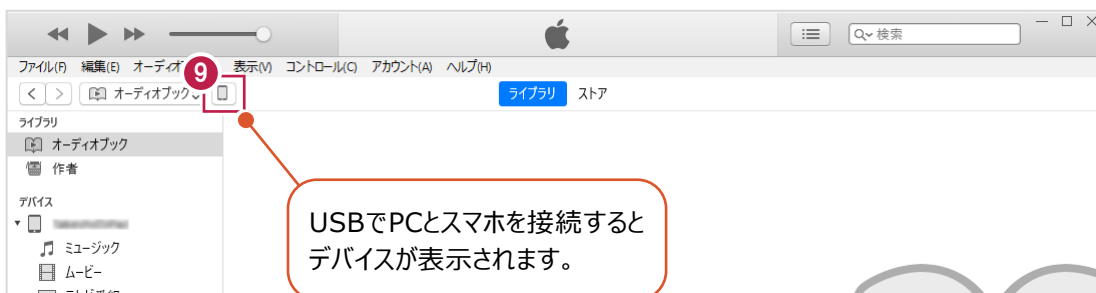
どこでも写真管理Plus（バージョン ～1.0.1350）に転送する場合は、転送するファイルの名称を入力してください。



7. [フォルダーを開く] をクリックします。
出力ファイルの格納されたフォルダーが開きます。
8. [閉じる] をクリックします。



9. PCにインストールされているiTunesを起動し、PCとスマートフォンを接続して、スマホのアイコンをクリックします。

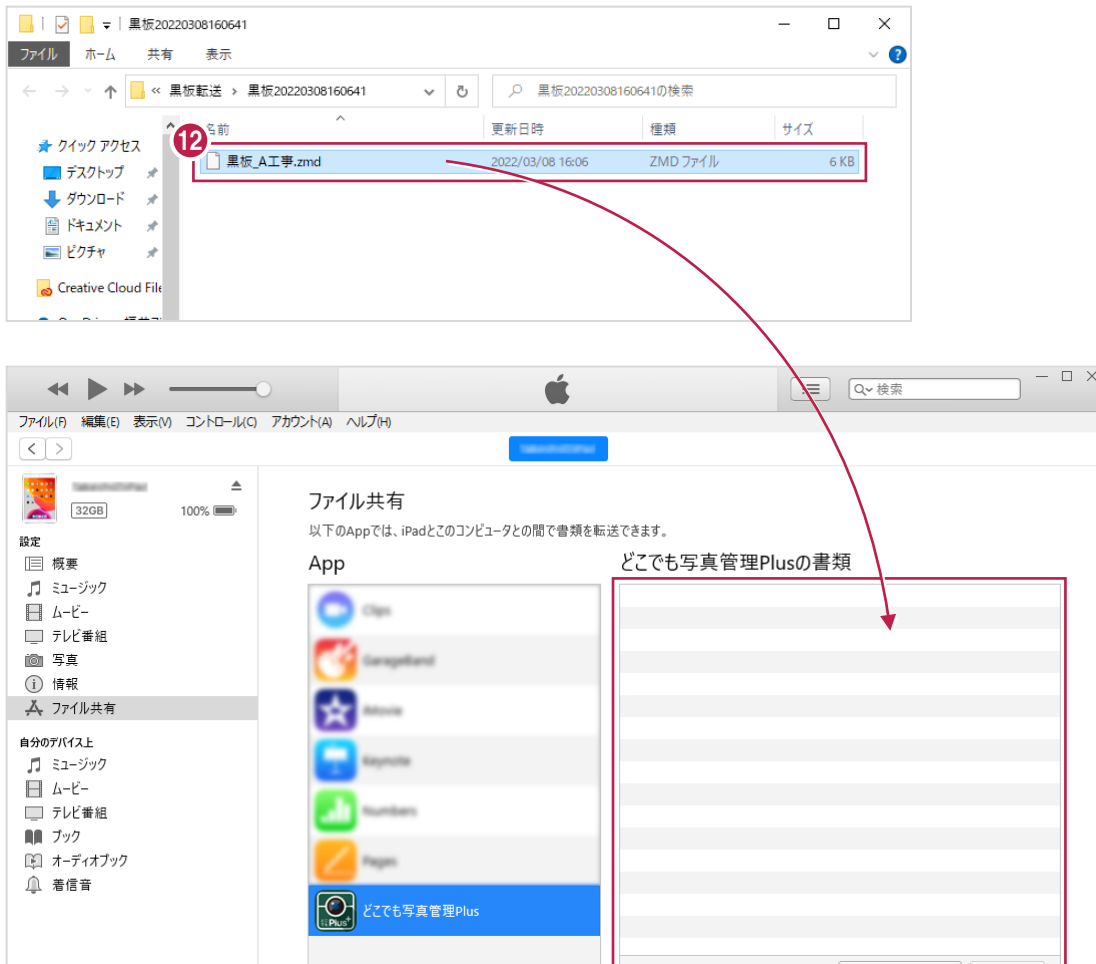


10. [ファイル共有] を選択します。

11. [どこでも写真管理Plus] を選択します。



12. 出力した黒板データのファイルをiTunesにドラッグ&ドロップします。



13. iTunesに黒板データが登録されます。

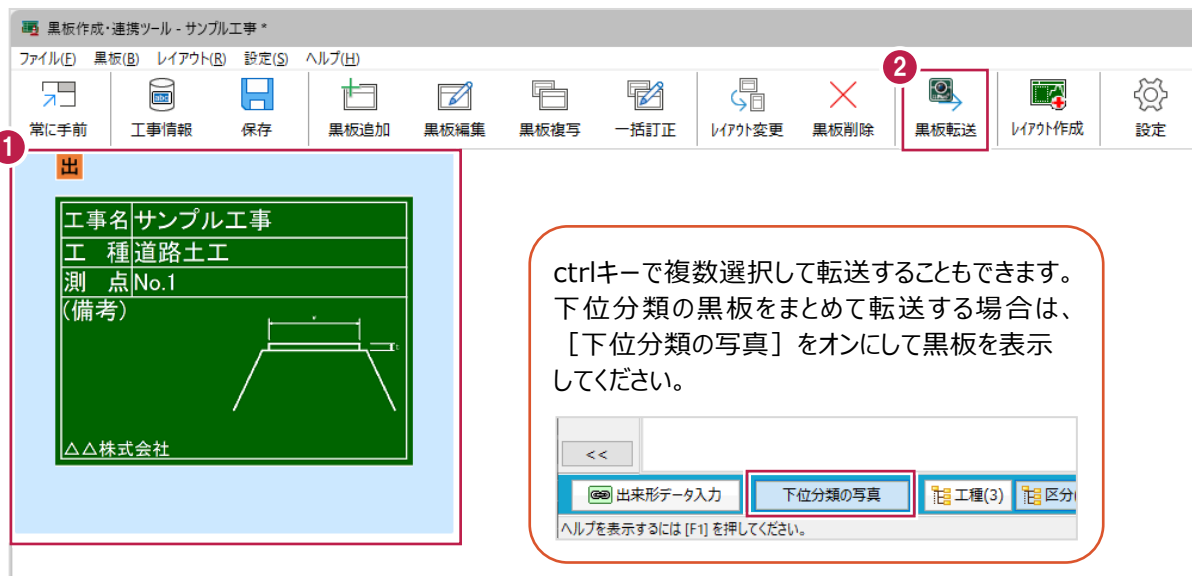


5-14 黒板を「RICOH G900」に転送する

黒板をデジタルカメラ「RICOH G900」に転送します。

※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] は [RICOH G900] を選択して操作してください。
([黒板タイプ] が「コンクリート」の黒板は、[RICOH G900] には転送できません。)

1. 黒板を選択します。
2. [黒板転送] をクリックします。

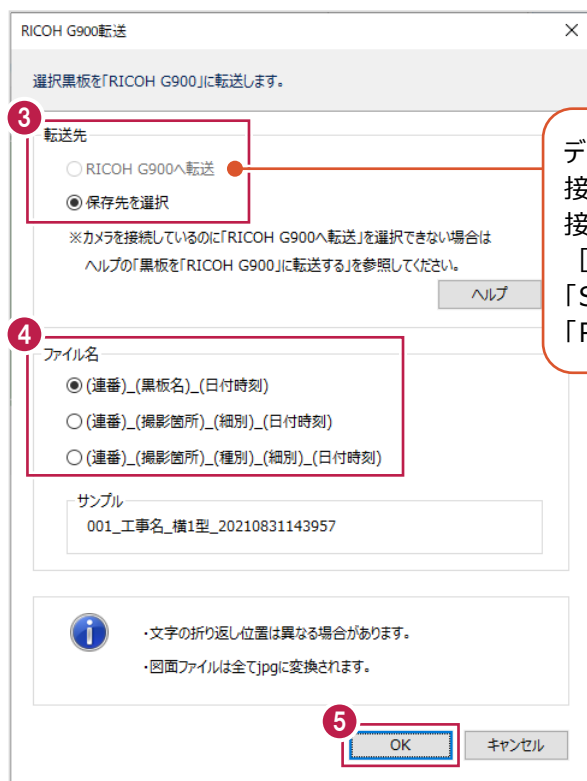


3. 転送先を選択します。

ここでは、「保存先を選択」を選択します。

4. 転送するファイル名を選択します。

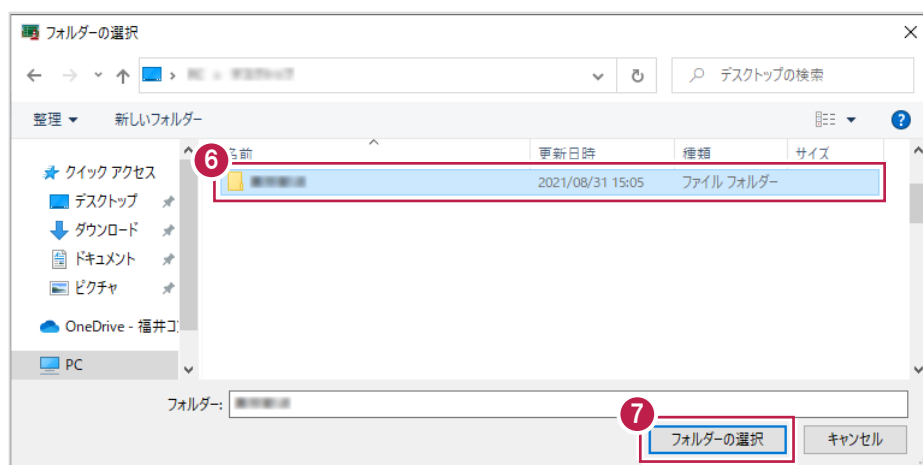
5. [OK] をクリックします。



デジタルカメラ「RICOH G900」が接続されている場合に選択できます。接続しているのに選択できない場合は「保存先を選択」でカメラに挿入している「SDカード名」、もしくは「RICOHDCI」「RICOHDCX」を選択してください。

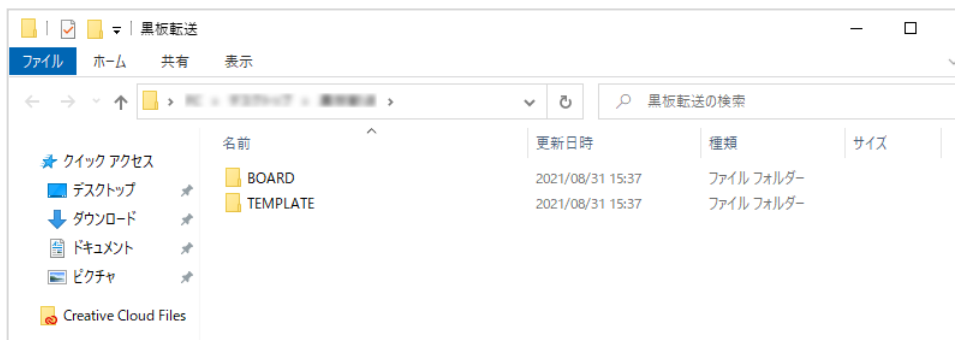
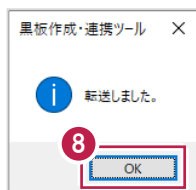
6. 出力先のフォルダーを選択します。

7. [フォルダーの選択] をクリックします。



8. [OK] をクリックします。

指定したフォルダーが開き、出力したデータが確認できます。



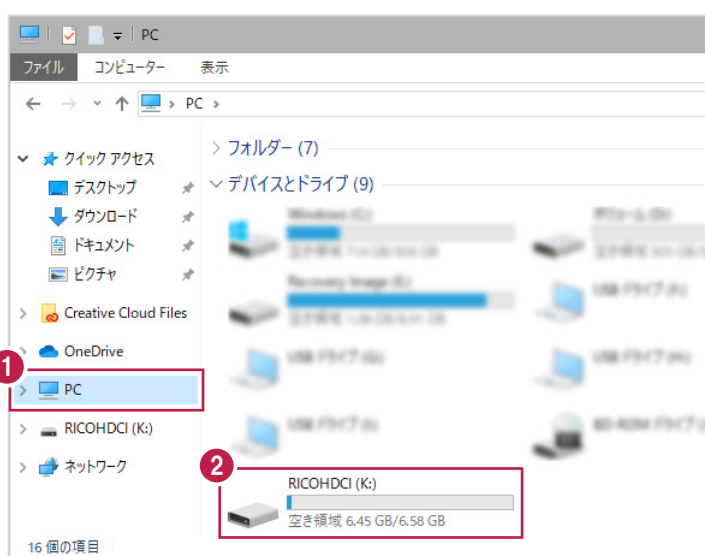
USB 接続で黒板データの転送が失敗する場合

USBで接続したデジタルカメラ「RICOH G900」への黒板データの転送が失敗する場合は、以下を確認してください。

●PCのエクスプローラーでデジタルカメラ「RICOH G900」内のファイルが確認できますか？

正しくUSB接続されている場合は、PCのエクスプローラーでデジタルカメラ「RICOH G900」内のファイルが確認できます。以下の操作で確認してください。

1. USB接続した状態でPCのエクスプローラーを開き、[PC] をクリックします。
2. [デバイスとドライブ] にデジタルカメラのストレージ（挿入している「SDカード名」、もしくは「RICOHDCI」、 「RICOHDCX」）が表示されれば、正しく接続されています。



PCのエクスプローラーで

- ・デジタルカメラのストレージ（挿入している「SDカード名」など）が表示されない
- ・エクスプローラーでは正常に見えるが、転送に失敗する

等の場合は、以下を確認してください。

●デジタルカメラ「RICOH G900」の電源は入っていますか？

デジタルカメラ「RICOH G900」の電源がオフになっていると転送できません。電源を入れてください。

●デジタルカメラ「RICOH G900」の設定 [USB接続] は「MSC」になっていますか？

メモリーカードや内蔵メモリーの画像をPCにコピーするときは「**MSC**」を選択する必要があります。

●正常なUSBケーブルで接続していますか？

「充電専用」のUSBケーブルでは転送できません。

また、USBケーブルの不具合の可能性もあるので、他のUSBケーブルで接続してください。

5-15 レイアウトを作成する

レイアウトを作成します。

1. [レイアウト作成] をクリックします。



2. 黒板レイアウト作成ツールが開き、新規レイアウトを作成することができます。
黒板レイアウト作成ツールの詳細は、「黒板レイアウト作成」の各ヘルプを参照してください。

5-16 黒板作成・連携ツールの設定を行う

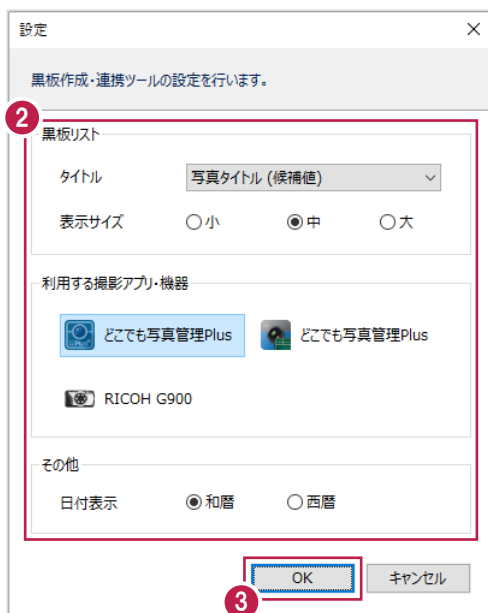
黒板リストや利用する撮影アプリ・機器等の設定を行います。

1. [設定] をクリックします。




2. 黒板リストや利用する撮影アプリ・機器等を設定します。

3. [OK] をクリックします。



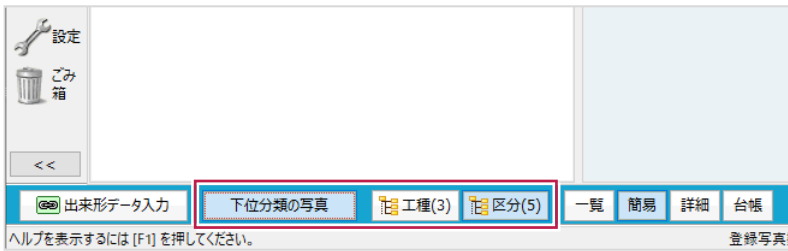
■ 設定ダイアログの説明

項目	内容
黒板リスト	<p>【タイトル】：黒板一覧の黒板サムネイル下部に表示する文字列を設定します。 ※【黒板設定】で設定している文字列が表示されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真-大分類 写真区分 工程 種別 細別 写真タイトル (候補値) 撮影箇所 (候補値)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《営繕基準》 階層1 階層2 階層3 階層4 階層5 写真タイトル (候補値) 撮影箇所 (候補値)</p> </div> </div> <p>【表示サイズ】：黒板一覧の黒板サムネイルのサイズを選択します。</p> 
利用する撮影アプリ・機器	<p>利用する撮影アプリ・機器を選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（左側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン 2.0.2000～）を利用する場合には選択します。</p> <p>【どこでも写真管理 Plus】（右側）：「どこでも写真管理 Plus」アプリ（バージョン ～1.0.1350）を利用する場合には選択します。</p> <p>【RICOH G900】：デジタルカメラ「RICOH G900」を利用する場合には選択します。</p> <p>設定は以下に反映されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板内の表記（文字の書き方・利用できる項目） ・【黒板編集】コマンド内【レイアウトとして保存】時のレイアウトの種類 ・【黒板転送】コマンド ・黒板レイアウト作成ツールでの操作
その他	<p>【日付表示】：日付の表示形式を選択します。</p> <p>【利用する撮影アプリ・機器】で【どこでも写真管理 Plus】（左側）を選択している場合に設定できます。</p>

補足⁺

下位分類の黒板を表示する

分類ツリー選択時に、下位分類に属する黒板も表示する場合は、写真管理の [下位分類の写真] をオンにしてください。尚、写真管理で [3階層表示] [5階層表示] を切り替えると、黒板作成・連携ツールの表示に連動します。



補足⁺

営繕表記にする

黒板作成・連携ツール側で営繕表記オン・オフを設定することはできません。

営繕基準の写真管理から黒板作成・連携ツールを起動すると、各分類の項目名が営繕表記になります。

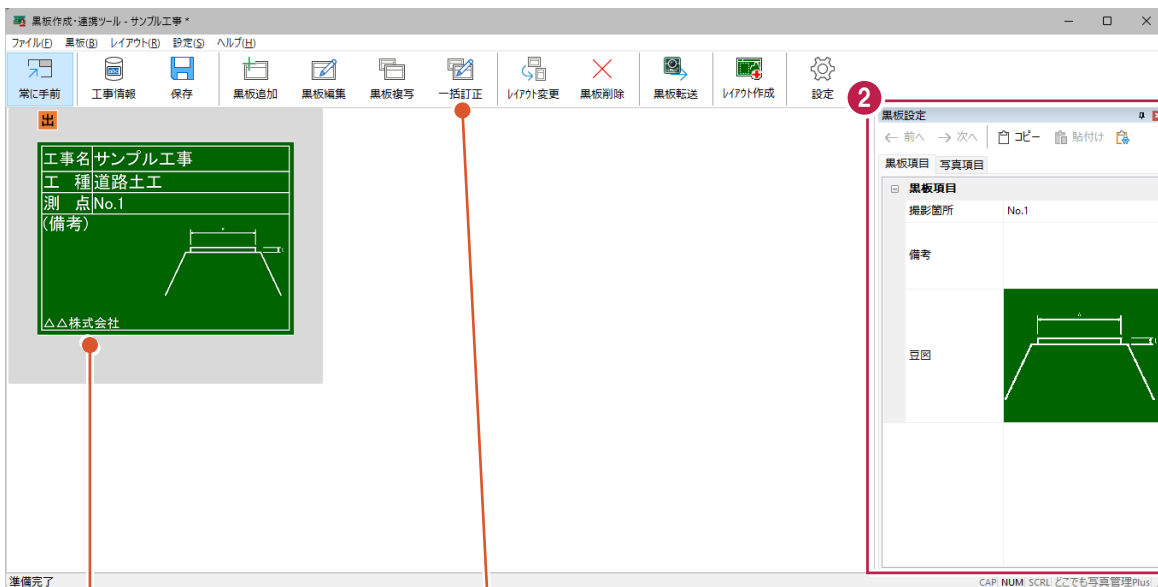
5-17 黒板の情報を設定する

黒板の情報を設定します。

1. 黒板を選択します。



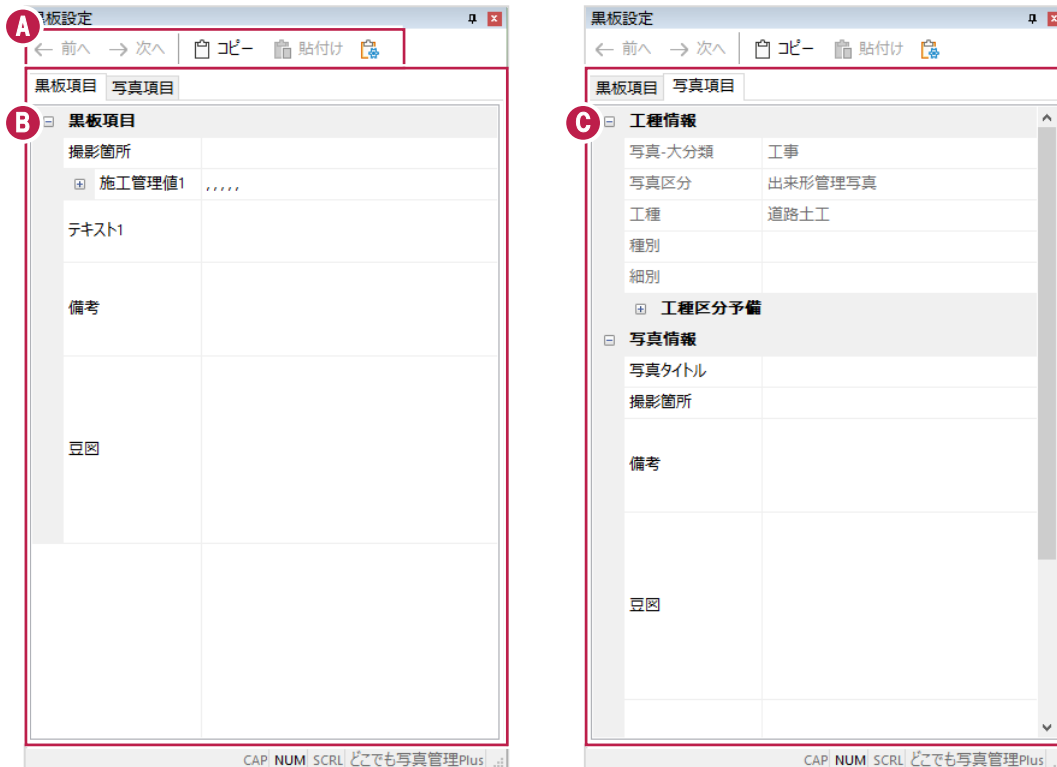
2. メイン画面右側の [黒板設定] で黒板の情報を設定します。



設定した内容は、
黒板サムネイルに反映されます。

[黒板設定] で複数の黒板情報を
一括訂正することはできません。
一括訂正する場合は [一括訂正]
コマンドを使用してください。

■ 黒板設定の説明



記号	項目 1	項目 2	内容
A	ツールバー	前へ	一つ前のサムネイルに移動します。
		次へ	一つ後ろのサムネイルに移動します。
		コピー	B のテキスト情報と C の内容を全てコピーします。
		貼り付け	コピーした内容を選択中の黒板の黒板設定に貼り付けます。 [貼り付け設定] で設定した情報が対象です。
		貼り付け設定	[貼り付け] で貼り付ける情報を選択します。  【貼り付ける文字が空の場合は貼り付けない】 オンにすると、コピー元が空欄の場合、貼り付け先に上書きしません。
B	黒板項目タブ	-	黒板に配置できる項目が表示されます。(分類以外) 入力した内容は C の同じ項目に反映されます。 各項目の入力方法は C を参照してください。

記号	項目 1	項目 2	内容		
C	写真項目タブ	-	<p>黒板の情報を入力します。</p> <p>入力した内容は B の同じ項目に反映されます。</p> <p>※ [設定] の [利用する撮影アプリ・機器] で [RICOH G900] を選択している場合は、表示されません。</p>		
	工種情報	写真-大分類 《営繕基準》階層 1 写真区分 《営繕基準》階層 2 工種 《営繕基準》階層 3 種別 《営繕基準》階層 4 細別 《営繕基準》階層 5	<p>分類が表示されます。</p> <p>※入力することはできません。</p> <p>ただし、写真管理が [3 階層表示] の場合は、写真-大分類、写真区分（もしくは階層 1、2）を選択、または入力することができます。</p> <p>写真-大分類（階層1） 写真区分（階層2）</p> <table border="1"> <tr> <td> 工事 測量 調査 地質 広報 設計 その他 </td> <td> 着事前及び完成写真 施工状況写真 安全管理写真 使用材料写真 品質管理写真 出来形管理写真 災害写真 事故写真 その他 </td> </tr> </table>	工事 測量 調査 地質 広報 設計 その他	着事前及び完成写真 施工状況写真 安全管理写真 使用材料写真 品質管理写真 出来形管理写真 災害写真 事故写真 その他
	工事 測量 調査 地質 広報 設計 その他	着事前及び完成写真 施工状況写真 安全管理写真 使用材料写真 品質管理写真 出来形管理写真 災害写真 事故写真 その他			
		工種区分予備	<p>ユーザー分類が表示されます。（予備 1～予備 10）</p> <p>※入力することはできません。</p>		
	写真情報	写真タイトル	入力部右側の [...] から写真タイトルを設定します。		
		撮影箇所	入力部右側の [...] から撮影箇所を設定します。		
		備考	入力部右側の [...] から備考を設定します。		
		豆図	入力部右側の [...] から豆図などの画像ファイルを選択します。		
		受注者説明文	受注者説明文を入力します。		
	施工管理値	項目 1～10	以下で入力した内容が反映されます。		
		項目名	項目名を入力します。		
		記号	記号を入力します。		
		設計値	設計値を入力します。		
		実測値	実測値を入力します。		
		単位	単位・差の単位を選択、または入力します。		
		差の単位	<table border="1"> <tr> <td> m cm mm % ‰ 割 分 °C 個 本 枚 t/cm2 kg/cm2 kN/mm2 N/mm2 g/mm3 l </td> </tr> </table>	m cm mm % ‰ 割 分 °C 個 本 枚 t/cm2 kg/cm2 kN/mm2 N/mm2 g/mm3 l	
	m cm mm % ‰ 割 分 °C 個 本 枚 t/cm2 kg/cm2 kN/mm2 N/mm2 g/mm3 l				

■ 写真タイトル・撮影箇所・備考の設定

【写真タイトル】 【撮影箇所】 【備考】 は項目をクリックした際に表示される入力部右側の [...] から設定します。
ここでは、【撮影箇所】 を例に説明します。

※設定方法は【写真タイトル】 【備考】 も同様です。



項目	内容
追加	撮影箇所を入力して [追加] をクリックすると、一覧に追加します。
この黒板で利用する「撮影箇所」一覧	選択しているものが黒板サムネイル、黒板タイトル、黒板設定に表示されます。 ※ 【撮影箇所】 の場合は、複数登録すると黒板タイトルと黒板設定は以下のように表示されます。 2つ登録：（上の項目）, （下の項目） 3つ以上登録：（一番上の項目）～（一番下の項目） ※ 【写真タイトル】 【備考】 の場合は、選択しているもののみ表示されます。
一括追加	撮影箇所を一括で追加します。 ※ 【写真タイトル】 【備考】 では表示されません。
削除	一覧で選択した撮影箇所を削除します。
上へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ上に移動します。
下へ	一覧で選択した撮影箇所を1つ下に移動します。
OK	一覧に表示されている撮影箇所を一括訂正ダイアログに設定します。
キャンセル	一括訂正ダイアログに戻ります。

■ 一括追加（〔撮影箇所〕のみ）

撮影箇所を一括で追加します。

項目	内容
測点名称	測点名の先頭の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
測点番号名称	測点名の末尾の固定部分を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
開始 No	No 杭の連番の開始番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
終了 No	No 杭の連番の終了番号を入力します。（No.5L+10AB …… の赤部分）
作成ピッチ	No 杭の連番の増分を入力します。（No.5L+10AB、No.6L …… の赤部分）
+ 杭	<p>+ 杭を作成する場合はオンにします。</p> <p>※〔作成ピッチ〕の値が「1」のときのみ設定可能です。</p> <p>〔No 杭間隔〕：No 杭の間隔の距離を入力します。 この距離は、+ 杭を計算するときに使用されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p> <p>〔+ 杭間隔〕：+ 杭の間隔の距離を入力します。 この距離と上記〔No 杭間隔〕の距離から+ 杭が計算されます。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p> <p>〔+ 杭名称〕：+ 杭の末尾の固定部分を入力します。 （No.5L+10AB …… の赤部分）</p>
作成タイプ	<p>〔+ 杭優先〕：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、+ 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1+10、No.1+30</p> <p>〔No 杭優先〕：No 杭が+ 杭で割り切れない場合に、No 杭を優先します。 ※No 杭間隔 50m、+ 杭間隔 20m の場合 No.0、No.0+20、No.0+40、No.1、No.1+20、No.1+40</p>
プレビュー	作成される測点が表示されます。 確認しながら条件を設定してください。

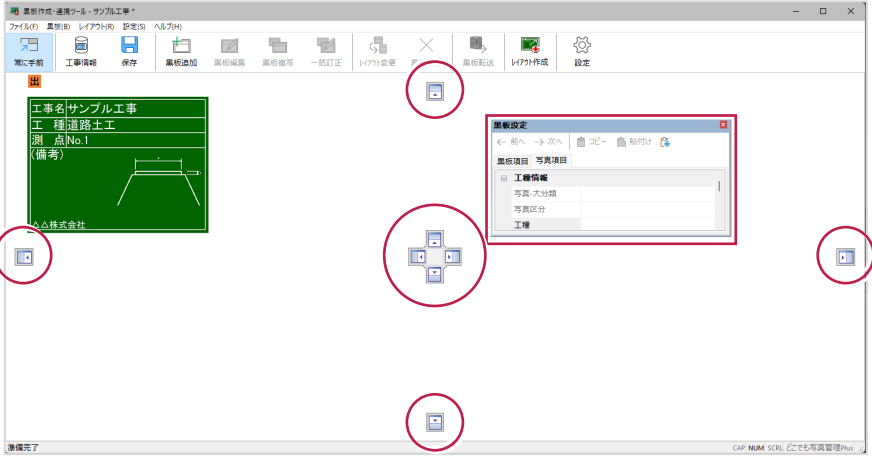

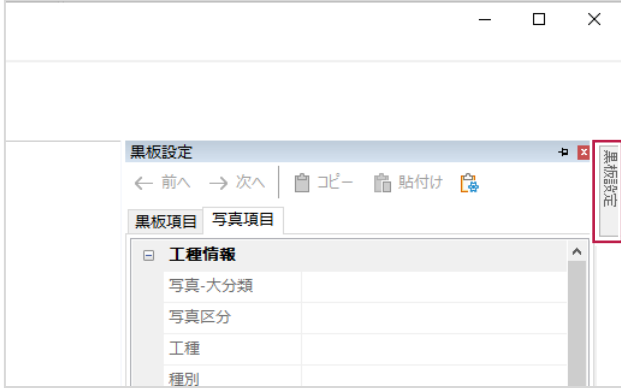


■ 豆図の設定

〔豆図〕 は項目をクリックした際に表示される入力部右側の […] から設定します。



項目	内容
黒板に選択済みの豆図ファイルを解除	豆図ファイル選択ダイアログを閉じて、黒板に設定した豆図を解除します。
フォルダー選択	〔豆図データ管理から取得〕や〔クリップボード画像を取得〕で取得した豆図ファイルの保存先フォルダーを選択します。 フォルダー内の画像（拡張子「jpg」「png」「bmp」）が豆図ファイル一覧に表示されます。
豆図ファイル一覧	〔豆図〕に設定する豆図ファイルを選択します。
豆図データ管理から取得	〔豆図データ管理〕から豆図を取得して豆図ファイル一覧に表示します。 〔豆図データ管理〕での操作については、EX-TREND 武蔵のヘルプ「豆図データ管理ウィンドウ」を参照してください。
クリップボード画像を取得	クリップボードの画像を取得して豆図ファイル一覧に表示します。 (ビットマップ形式の画像が対象です。)
選択ファイルの削除	豆図ファイル一覧で選択している豆図ファイルを一覧から削除します。

■ 黒板設定ウィンドウの表示

表示方法	内容
フローティング/ ドッキング	<p>ウィンドウのタイトルバーをドラッグ&ドロップするとウィンドウを移動することができます。タイトル部分をダブルクリックすると元のドッキング位置に戻ります。</p> <p>また、ドラッグ中はドッキングする位置のアイコン（上下左右）が表示されます。アイコンの上でマウスの左ボタンを離すと、指定した位置にドッキングします。</p> 
自動的に隠す	<p>タイトルバー右側の  をクリックすると、ウィンドウを自動的に隠します。</p> <p>画面右側に表示される【黒板設定】タブにマウスカーソルを移動すると、ウィンドウを開くことができます。</p>  <p> をクリックすると、固定表示に戻ります。</p>
非表示	<p>タイトルバー右側の  をクリックすると、ウィンドウが閉じます。</p> <p>再度ウィンドウを表示する場合は、メニューバーの【設定】タブー【「黒板設定」ウィンドウ表示】をオンにしてください。</p>

5-18 メイン画面を終了する

メイン画面を終了します。

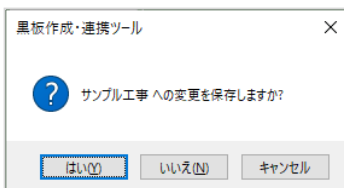
1. メニューバーの [ファイル] タブをクリックします。
2. [アプリケーションの終了] をクリックします。
メイン画面が終了して、工事管理画面に戻ります。



補足

編集したデータを保存していない場合

編集したデータを保存していない場合は、保存確認メッセージが表示されます。
保存するときは [はい]、データを破棄するときは [いいえ] をクリックしてください。



補足

写真管理を終了する際の注意点

写真管理を終了する際は、先に黒板作成・連携ツールを終了してください。

5-19 ヘルプを確認する

ヘルプを確認します。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。

2. [ヘルプ] をクリックします。

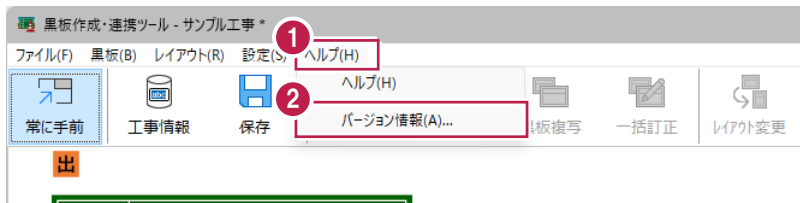
ヘルプが表示されます。



5-20 バージョン情報を確認する

バージョン情報を確認します。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。
2. [バージョン情報] をクリックします。



3. アプリケーションの改訂番号(バージョン)やユーザーIDなどを確認します。
4. [OK] をクリックします。



5-21 使用するプロテクトの形式を選択する

黒板作成・連携ツールを使用するのに必要なプロテクトの形式を選択します。

プロテクトを接続している部分と設定が合わない場合、アプリケーションが正常に動作しません。

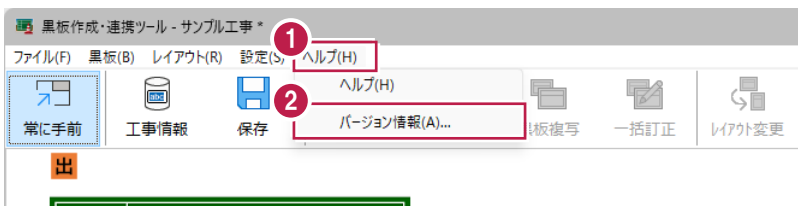
黒板作成・連携ツールを起動したとき、設定した接続先にプロテクトがない場合は、プロテクト設定ダイアログが表示されます。

この操作は、黒板作成・連携ツールの起動中にプロテクトを変更するときの解説です。

プロテクト設定を変更した場合は、アプリケーションの再起動が必要です。

1. メニューバーの [ヘルプ] タブをクリックします。

2. [バージョン情報] をクリックします。



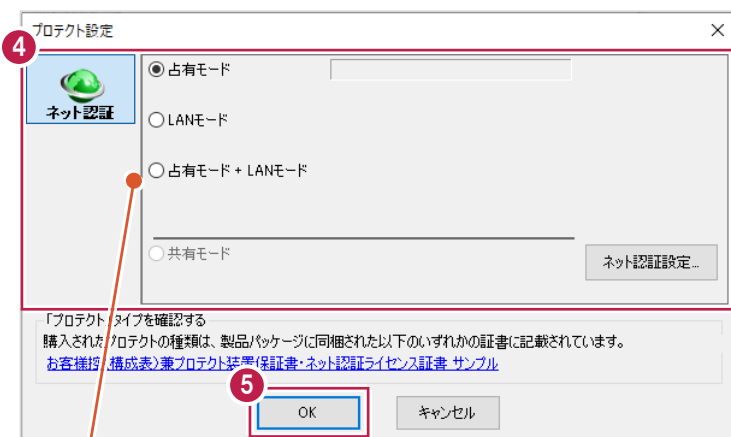
3. [ターゲット設定] をクリックします。



4. 使用するプロテクトの形式を選択します。

5. [OK] をクリックします。

※設定はアプリケーションの再起動後に有効になります。



LANモードを選択した場合、アプリケーションを同時に起動できる人数は、ご購入されたアプリケーションのライセンス数に依存しますので、注意してください。

本製品の取り扱い及び著作権

- (1) 本ソフトウェアおよび本文の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本ソフトウェアおよび本文の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- (3) 本ソフトウェアを複数の機械で同時に使用する場合は、機械と同数の本ソフトウェアが必要です。
- (4) 本ソフトウェアの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら弊社までご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)の項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社以外のソフトウェアに関するお問い合わせはご遠慮願います。
- (7) データのバックアップについて

お客様が作られたデータはお客様にとって大切な財産です。万が一の不慮の事故による被害を最小限にとどめるために、お客様御自身の管理・責任において、データは必ず定期的に2か所以上の別の媒体（HDD、CD、DVDなど）に保存してください。

また、いかなる事由におきましても、データの破損により生じたお客様の損害は、弊社では補償いたしかねますのでご了承ください。

- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft (R) Windows (R) Operating Systemです。
- Apple、iPad、iPhone、iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Acrobat Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。
- RICOH Driveはリコージャパン株式会社の登録商標です。
- InstallShield2022
Copyright © 2022 Flexera.All Rights Reserved
- この製品には、OpenSSL Toolkitで使用するためにOpenSSL Projectによって開発されたソフトウェアが含まれています。
(<http://www.openssl.org/>)
OpenSSL Project は、このソフトウェアを特定物として現存するままの状態を提供し、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負いません。起こりうる損害について予見の有無を問わず、「ソフトウェア」を使用したために生じる、直接的、間接的、付带的、特別、懲罰的、または結果的損害（代替の製品またはサービスの調達、データまたは利益の喪失、事業の中断などを含み、他のいかなる場合も含む）については、それが契約、厳格な責任、不法行為（過失の場合もそうでない場合も含む）など、いかなる責任の理論においても、OpenSSL Projectおよびその寄稿者はその責任を負いません。
この製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) により作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。
この製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) により作成されたソフトウェアが含まれています。
- 解説画面を含め、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- EX-TREND武蔵は、福井コンピュータホールディングス株式会社の登録商標です。
- TREND-ONE、TREND-FIELD、TREND-POINT、TREND-COREは、福井コンピュータ株式会社の登録商標です。